

**地方独立行政法人大阪府立病院機構
平成30事業年度にかかる業務の実績に関する評価結果
小項目評価（参考資料）**

令和元年8月

大阪府

○ 大阪府立病院機構の概要

地方独立行政法人大阪府立病院機構事業報告書

「地方独立行政法人大阪府立病院機構の概要」

1. 現況

- ① 法人名 地方独立行政法人大阪府立病院機構
- ② 本部の所在地 大阪市中央区大手前3丁目1番69号
- ③ 役員の状況

(平成31年3月31日現在)

役職名	氏名	担当業務
理事長	遠山 正彌	
理事	太田 浩二	経営企画、人事及び労務に関すること
理事	後藤 満一	大阪急性期・総合医療センターの政策医療の提供及び経営に関すること
理事	太田 三徳	大阪はびきの医療センターの政策医療の提供及び経営に関すること
理事	籠本 孝雄	大阪精神医療センターの政策医療の提供及び経営に関すること
理事	松浦 成昭	大阪国際がんセンターの政策医療の提供及び経営に関すること
理事	倉智 博久	大阪母子医療センターの政策医療の提供及び経営に関すること
監事	天野 陽子	
監事	中務 裕之	

- ④ 設置・運営する病院 別表のとおり
- ⑤ 職員数 4,107人(平成31年3月31日現在)

2. 大阪府立病院機構の基本的な目標等

府立の病院は、府民の生命と健康を支える医療機関として、それぞれ専門性の向上を図りつつ、時代の要請に応じた医療サービスを提供し、府域の医療体制の中で重要な役割を果たしてきた。

今日、高齢化の進展や疾病構造の変化などに伴い、府民の医療ニーズが高度化・多様化する中で、府立の病院は、他の医療機関との役割分担と連携のもと高度専門医療の提供や府域の医療水準の向上など、求められる役割を果たしていく必要がある。

第1期中期計画(平成18年4月1日から平成23年3月31日まで)では、機構の基本理念の下、機構の5つの病院として果たすべき役割を明確化し、高度専門医療の提供や地域連携の強化、更には患者満足度の向上等に一定の成果を得るとともに、経営改善に取り組んだ結果、不良債務の解消を図ることができた。

第2期中期計画(平成23年4月1日から平成28年3月31日まで)では、日本の医療をリードする病院を目指し、府の医療政策の一環として各病院に求められる高度専門医療を提供しつつ、新しい治療法の開発や府域における医療水準の向上を図った。また、これらの取組を推進し、各病院が将来にわたり持続的に高度専門医療を提供することができるよう、優秀な人材の確保や組織体制の強化及び施設整備を戦略的に進めてきた。

第3期中期計画(平成28年4月1日から平成33年3月31日まで)では、新公立病院改革ガイドライン(平成27年3月31日付け総財第59号総務省通知をいう。)を踏まえつつ、医療の提供体制を強化し政策医療及び高度専門医療を充実させるとともに、府域の医療水準の向上を目指し、地域連携の強化に取り組む。また、業務運営の改善及び効率化に向け、機構全体の経営マネジメントの強化を図る。更に、環境の変化に対応した病院機能の強化に努める。

3. 平成30年度法人の総括

平成30年度においては、高度専門医療の充実など医療の提供体制の強化に努めるとともに、府域の医療水準の向上を目指し、地域医療機関との連携強化を推進した。

また、業務運営の改善及び効率化に向け、機構全体の経営マネジメントの強化を図りながら、収入の確保・費用の抑制など安定的な病院経営の確立にも取り組んだ。

さらに、病院機構を取巻く環境が著しく変化する中、各病院が自らの特性や実情を踏まえ、自律性を発揮し、機動的に病院運営を進めることを基本としつつ、理事会や経営会議、事務局長会議等の各種会議や、外部業者の協力も得て、病院機構としての一体的な取組や各病院の課題解決についての取組を進めた。

(1) 組織人員体制の整備

組織人員体制を強化するため、大学病院等の関係機関への働きかけなど、人材確保に積極的に取り組み、5病院全体の医師数は前年度から11名増の522人(研究職を除く)、看護師は80人増の2,639人となった。また、短時間勤務制度等の多様な勤務形態や育児支援に向けた服制制度の活用など、職員のワークライフバランスの支援に取り組んだ。

医療スタッフの資質、能力、勤務意欲の更なる向上のため、大学等関係機関との連携の強化や教育研修の充実など職務能力の向上に努めた。

(2) 医療機能の充実

大阪市南部医療圏における小児医療・周産期医療の充実及び手術室等の拡充を図るため、大阪急性期・総合医療センター内に大阪府市共同 住吉母子医療センターが平成30年4月より開設し、新生児科を新設するとともに、産婦人科を産科と婦人科に分科し、診療科を再編した。

(3) 患者・府民サービスの質の向上

患者満足度調査の結果等を踏まえながら計画的に患者サービスの向上の取組を進めるとともに、各病院で実施した取組内容について本部事務局と5病院間での情報交換・共有化を図るなど、法人全体で患者・府民の満足度の向上に努めた。

【法人の自己評価の考え方】

(1) 小項目内の個別目標に対する基準

V評価：特段の成果が認められる場合

IV評価：(数値目標) 定量的目標数値の達成度(目標対比)が相当程度上回る場合
(定性的な目標) 年度計画を相当程度上回る成果が認められる場合

III評価：(数値目標) 年度計画を順調に実施している場合(目標数値の達成度が90%以上)
(定性的な目標) 年度計画に記載された事項をほぼ100%計画どおり実施している。

II評価：(数値目標) 年度計画を十分に実施できていない場合(目標数値の達成度が90%未満)
(定性的な目標) 年度計画を十分に実施できていない場合

I評価：特段の支障が認められる場合

(2) 小項目に対する基準(各項目を点数化し、平均値で区分)

V評価：特段の成果が認められる場合(4.3点～)

IV評価：年度計画を相当程度上回る成果が認められる場合(3.5点～4.2点)

III評価：年度計画を順調に実施している場合(2.7点～3.4点)

II評価：年度計画を十分に実施できていない場合(1.9点～2.6点)

I評価：特段の支障が認められる場合(～1.8点)

⇒ ただし、特筆すべき実績や、やむを得ない事情などがあれば、これらも勘案した上で最終的な評価を決定する。

平成31年3月31日現在

病院名 区分	大阪急性期・総合医療センター		大阪はびきの医療センター		大阪精神医療センター		大阪国際がんセンター		大阪母子医療センター		
主な役割 及び機能	<ul style="list-style-type: none"> ○高度な急性期医療のセンター機能 ○他の医療機関では対応困難な合併症医療の受入機能 ○基幹災害医療センター ○高度救命救急センター ○大阪府難病診療連携拠点病院 ○エイズ治療拠点病院 ○地域がん診療連携拠点病院 ○地域医療支援病院 ○臨床研修指定病院 ○日本医療機能評価機構認定病院 ○労災保険指定医療機関 ○地域周産期母子医療センター ○障がい者医療・リハビリテーションセンター ○日本臓器移植ネットワーク特定移植検査センター ○肝炎専門医療機関 ○ISO9001認証取得（形成外科、QMS評価室） ○ISO15189認定取得 ○卒後臨床研修評価機構認定病院 		<ul style="list-style-type: none"> ○難治性の呼吸器疾患医療、結核医療及びアレルギー性疾患医療のセンター機能 ○エイズ治療拠点病院 ○大阪府がん診療拠点病院（肺がん） ○難治性多剤耐性結核広域圏拠点病院 ○日本医療機能評価機構認定病院 ○労災保険指定医療機関 ○大阪府アレルギー疾患医療拠点病院 		<ul style="list-style-type: none"> ○精神医療のセンター機能 ○民間病院対応困難患者の受入機能 ○臨床研修指定病院 ○医療型障害児入所施設 ○医療観察法に基づく指定通院医療機関 ○医療観察法に基づく指定入院医療機関 ○日本医療機能評価機構認定病院 ○大阪府災害拠点精神科病院 ○依存症治療拠点機関 		<ul style="list-style-type: none"> ○難治性がん医療のセンター機能 ○特定機能病院 ○臨床研修指定病院 ○都道府県がん診療連携拠点病院 ○日本医療機能評価機構認定病院 ○がん専門薬剤師研修施設 ○肝炎専門医療機関 ○治験拠点医療機関 ○労災保険指定医療機関 ○がんゲノム医療連携病院 		<ul style="list-style-type: none"> ○周産期・小児医療のセンター機能 ○臨床研修指定病院 ○治験拠点医療機関 ○日本医療機能評価機構認定病院 ○WHO指定研究協力センター ○小児がん拠点病院 ○総合周産期母子医療センター ○小児救命救急センター 		
所在地	〒558-8558 大阪市住吉区万代東3丁目1番56号		〒583-8588 羽曳野市はびきの3丁目7番1号		〒573-0022 枚方市宮之阪3丁目16番21号		〒541-8567 大阪市中央区大手前3丁目1番69号		〒594-1101 和泉市室堂町840		
設立	昭和30年1月		昭和27年12月		大正15年4月		昭和34年9月		昭和56年4月		
病床数	許可	稼働	許可	稼働	許可	稼働	許可	稼働	許可	稼働	
	一般	831	831	360	360	—	—	500	500	375	343
	結核	—	—	60	60	—	—	—	—	—	—
	精神	34	34	—	—	473	473	—	—	—	—
	感染症	—	—	6	6	—	—	—	—	—	—
計	865	865	426	426	473	473	500	500	375	343	
診療科目	救急診療科、総合内科、呼吸器内科、消化器内科、心臓内科、糖尿病内分泌内科、腎臓・高血圧内科、脳神経内科、免疫リウマチ科、血液・腫瘍内科、小児科、新生児科、精神科、皮膚科、消化器外科、乳腺外科、小児外科、呼吸器外科、心臓血管外科、脳神経外科、整形外科、産科、婦人科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉・頭頸部外科、形成外科、歯科口腔外科、麻酔科、放射線治療科、画像診断科、臨床検査科、病理科、緩和ケア科、リハビリテーション科、障がい者歯科		感染症内科、肺腫瘍内科、緩和ケア科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、アレルギー内科、小児科、消化器外科、乳腺外科、眼科、呼吸器外科、皮膚科、産婦人科、放射線科、耳鼻咽喉科、歯科、麻酔科、リハビリテーション科、病理診断科、臨床検査科、集中治療科、外来化学療法科、呼吸器内視鏡内科		精神科、児童思春期精神科、歯科（入院患者のみ）		消化器内科、肝胆膵内科、消化器検診科、呼吸器内科、血液内科、外来化学療法科、腫瘍内科、腫瘍循環器科、脳循環内科、消化器外科、呼吸器外科、乳腺・内分泌外科、脳神経外科、整形外科、リハビリテーション科、婦人科、泌尿器科、頭頸部外科、形成外科、心臓血管外科、心療・緩和科、アイソトープ診療科、放射線腫瘍科、放射線診断・IVR科、眼科、臨床検査科、内分泌代謝内科、病理・細胞診断科、麻酔科、歯科、腫瘍皮膚科、感染症内科、栄養腫瘍科、成人病ドック科		産科、新生児科、母性内科、消化器・内分泌科、腎・代謝科、血液・腫瘍科、小児神経科、子どものこころの診療科、遺伝診療科、小児循環器科、小児外科、総合小児科、呼吸器・アレルギー科、脳神経外科、泌尿器科、形成外科、眼科、耳鼻咽喉科、整形外科、心臓血管外科、口腔外科、矯正歯科、放射線科、麻酔科、集中治療科、リハビリテーション科、病理診断科、臨床検査科		
敷地面積	40,693.61㎡		90,715.81㎡		76,683.00㎡		12,833.42㎡（※1）		71,604.96㎡		
建物規模	89,064.43㎡ 地上12階地下1階		46,044.79㎡ 地上12階地下1階		30,595.64㎡ 地上4階地下1階		68,268.61㎡（※1） 地上13階地下2階		53,611.49㎡ 地上5階地下1階		

（※1）敷地面積・建物規模は、大阪国際がんセンターの数値に、法人本部分を含む。

中期計画	年度計画	法人の自己評価		知事の評価	
		評価の判断理由（実施状況等）	評価	評価	評価の判断理由・評価のコメントなど

項目別の状況

第1 府民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

中期目標	<ul style="list-style-type: none"> ・機構は、府の医療施策として求められる高度専門医療を提供するとともに、府域における医療水準の向上を図り、府民の健康の維持及び増進に寄与するため、各病院を運営すること。 ・各病院は、次の表に掲げる基本的な機能を担うとともに、機能強化に必要な施設整備等を計画的に進めること。また、地域の医療機関との連携及び協力体制の強化等を図ること。 ・更に、患者とその家族や府民（以下「患者等」という。）の立場に立って、その満足度が高められるよう、各病院において創意工夫に努めること。 	
	病 院 名	基 本 的 な 機 能
	大阪急性期・総合医療センター	<ul style="list-style-type: none"> ・救命救急医療、循環器医療等緊急性の高い急性期医療 ・がん、心疾患・脳血管疾患、糖尿病、生活習慣病、腎移植、難病等に対する専門医療及び合併症医療 ・障害者医療及びリハビリテーション医療 ・災害発生時の医療提供、災害医療コーディネート等府域における基幹機能 ・これらの医療水準の向上のための調査、研究及び教育研修
	大阪はびきの医療センター	<ul style="list-style-type: none"> ・呼吸器疾患、肺腫瘍、結核、アレルギー性疾患を対象に、急性期から慢性期在宅ケアに至る合併症を含めた包括医療 ・これらの疾患の医療水準の向上のための調査、研究及び教育研修
	大阪精神医療センター	<ul style="list-style-type: none"> ・精神障害者の医療及び保護並びに医療水準の向上のための調査、研究及び教育研修 ・発達障害者（発達障害児）の医療、調査、研究及び教育研修
	大阪国際がんセンター	<ul style="list-style-type: none"> ・がんに関する診断、治療及び検診 ・がんに関する調査、研究、治療法の開発及び教育研修
大阪母子医療センター	<ul style="list-style-type: none"> ・母性及び小児に対する高度専門医療 ・周産期疾患、小児疾患、母子保健等に関する調査、研究、治療法の開発及び教育研修 ・発達障害児の医療、調査、研究及び教育研修 	

第1 府民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

中期計画	<ul style="list-style-type: none"> ・各病院は、高度専門医療の提供と府域の医療水準の向上、患者及び府民の満足度の向上や安定的な病院経営の確立を基本理念に、府民の生命と健康を支える医療機関として、それぞれの専門性の向上を図りつつ、時代の要請に応じた医療サービスを提供する。
------	---

中期計画	年度計画	法人の自己評価		知事の評価	
		評価の判断理由（実施状況等）	評価	評価	評価の判断理由・評価のコメントなど
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 第1 府民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 1 高度専門医療の提供及び医療水準の向上 (1) 府の医療施策推進における役割の発揮 </div>					
中期目標	<p>① 各病院の役割に応じた医療の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第3期中期目標においては、第2期中期目標における取組を継続することを基本として、各病院の機能に応じて府の医療施策の実施機関としての役割を果たすこと。 ・府の関係機関と連携しながら、法令等に基づき府の実施が求められる医療や、結核医療をはじめとする感染症対策、精神医療、高度な小児・周産期医療等府の政策医療に取り組むとともに、他の医療機関では対応が困難な患者の積極的な受入れに努めること。 ・また、以下をはじめとした、各病院の機能に応じた役割を着実に果たすこと。 <p>ア 新型インフルエンザ等の新たな感染症の発生時には、各病院がそれぞれの役割に応じて、関係機関と連携しながら患者の受入れを行うなど、府域の医療機関の先導的役割を果たすこと。</p> <p>イ 府域の救急医療において、高度救命救急センターとして基幹的な役割を果たすとともに、救急医療を必要とする重篤小児患者や未受診妊産婦等を積極的に受け入れること。</p> <p>また、精神科救急と一般救急の連携の中で、精神疾患を持つ救急患者への対応について、積極的に役割を果たすこと。</p> <p>ウ がん医療の拠点病院として、それぞれの役割を着実に実施するとともに、がんの集学的治療の提供や緩和ケア医療の推進等、府のがん医療全般における先導的役割を果たすこと。</p> <p>エ 総合・地域周産期母子医療センターとして、ハイリスクな妊産婦や新生児の受入れ等を積極的に行い、府域における高度周産期医療の拠点病院としての役割を着実に果たすこと。</p> <p>また、重篤小児患者の在宅医療を支援するため、地域の医療機関や保健所との連携の強化を図ること。</p> <p>オ 府域における子どもの心の診療拠点として、発達障害等子どもの心の問題に対する診療機能を強化し、府域の医療機関の先導的役割を果たすこと。</p> <p>カ 府域における精神医療の拠点病院としての役割を果たすとともに、大阪府こころの健康総合センターをはじめとする関係機関との連携を図りながら、薬物等の各種依存症に対する治療を行い、治療後の回復支援につなげていくこと。</p> <p>キ 新たに整備した大阪精神医療センター、大阪母子医療センター手術棟の機能を最大限に活用して、高度な医療の提供、患者受入れの充実を図ること。</p> <p>今後、新たに整備予定の大阪国際がんセンターと、民間事業者が整備し、及び運営する隣接の重粒子線がん治療施設との連携等により、先進的ながん医療の提供を行うこと。</p> <p>② 診療機能の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各病院が府の医療施策における役割を着実に果たし、医療需要の質的及び量的な変化や新たな医療課題に適切に対応できているか検証を行い、診療部門の充実及び改善を図ること。 ・更に、必要に応じて、国内外の医療機関と人材交流を行うなどして、各病院の医療水準の向上や国内外への貢献に努めること。 <p>③ 新しい治療法の開発、研究等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各病院が、それぞれの高度専門医療分野において、調査や臨床研究及び治験を推進するとともに、大学等研究機関や企業との共同研究、新薬開発等への貢献等の取組を積極的に行うこと。 ・大阪国際がんセンター及び大阪母子医療センターにおいては、疫学調査、診断技法及び治療法の開発並びに臨床応用のための研究を推進すること。また、がん登録事業等府のがん対策の基礎となる調査を行うこと。 <p>④ 災害や健康危機における医療協力等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害発生時において、大阪府地域防災計画に基づき、府の指示に応じ又は自ら必要と認めるときは、基幹災害医療センター及び特定診療災害医療センターとして患者を受け入れるとともに、医療スタッフを現地に派遣して医療救護活動を実施すること。 ・また、新たな感染症の発生等、健康危機事象が発生したときは、府の関係機関と連携しながら、府域における中核的医療機関として先導的役割を担うこと。 				

中期計画	年度計画	法人の自己評価		知事の評価	
		評価の判断理由（実施状況等）	評価	評価	評価の判断理由・評価のコメントなど
<p>① 役割に応じた医療施策の実施 各病院は、医療施策の実施機関として健康医療行政を担当する府の機関と連携し、それぞれの基本的な機能に応じて、次の表に掲げる役割を担う。</p> <p>② 診療機能の充実 各病院に位置付けられた役割や新たな医療課題等に適切に対応するため、各病院は、治療成績等について目標を設定し、その達成に向けて、次のとおり新たな体制整備や取組の実施等診療機能を充実する。</p>	<p>① 役割に応じた医療施策の実施 大阪急性期・総合医療センター、大阪はびきの医療センター、大阪精神医療センター、大阪国際がんセンター及び大阪母子医療センターは、医療施策の実施機関として健康医療行政を担当する府の機関と連携し、それぞれの基本的な機能に応じて、次に掲げる役割を担う。</p> <p>② 診療機能の充実 各病院に位置付けられた役割や新たな医療課題等に適切に対応するため、各病院は、治療成績等について目標を設定し、その達成に向けて、次のとおり新たな体制整備や取組の実施など診療機能を充実する。</p>				
ア 大阪急性期・総合医療センター					
<p>評価番号【1】</p> <p>① 役割に応じた医療施策の実施 基幹災害医療センターとして、府域の災害拠点病院への支援機能、府域の災害対応に人材を派遣、大阪DMATの人材育成に関する中心的な役割</p> <p>高度救命救急センターとして、救命救急医療、高度循環器医療、周産期救急医療等急性期医療の提供</p>	<p>基幹災害医療センターとして、急性期に加えて亜急性期にも留意した災害医療訓練や、関係機関との連携を目的とした研修を企画する。</p> <p>大阪DMAT研修が開始され10年以上が経過しているため、研修内容の見直しを行い、初期に受講した大阪DMAT隊員に対する技能維持研修を実施する。</p> <p>Hybrid ERを核とした外傷診療のさらなる成績向上を目指し、その有用性を引き続き公表するとともに、既導入施設との研究会を立ち上げ、外傷患者の救命率の向上に努める。</p> <p>大阪府市共同 住吉母子医療センターの開設に伴い、NICUへの受入れ可能胎週数の引き下げを推進し、周産期救急医療の体制強化に努める。</p>	<p>○ 大阪急性期・総合医療センターにおける医療施策の実施 基幹災害医療センターとして、平成30年6月18日の大阪北部地震をふまえて、平成31年1月17日の大阪府危機管理室主催の訓練において亜急性期の取組に関する訓練を大阪府、大阪市、富田林市、富田林医師会、富田林保健所等と行い、その検証会を3月26日に行った。 また、平成30年9月1日及び2日に大阪DMAT研修をセンター内で行った。研修内容の見直しを行うとともに、日本DMATのカリキュラムに沿って、日本DMATのインストラクターを招聘し、初期に受講した大阪DMAT隊員を含めて技能維持のためのインストラクションの指導を実施した。</p> <p>Hybrid ERに関する論文を2本投稿した。また、救急医療の発展に貢献することを目的とし、平成30年6月21日にHybrid ERを導入している9施設と共にハイブリッドERシステム研究会を立ち上げた。さらに、平成31年2月17日に横浜市済生会東部病院でHybrid ERに特化した症例検討会を行った。</p> <p>平成30年4月に大阪母子医療センターから新生児専門医1名を迎え、病棟の機器整備、新生児ケアのルーチンの見直し、NICUスタッフの教育を行った。 また、NICUに関する各部署と調整を行い、NICU受入れ可能週数を30週から28週に引き下げる体制を整えた。平成31年4月からは、これまで受入れできなかった28週、29週台の新生児受入れを開始する。</p>	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ評価とする法人の自己評価は妥当であると判断した。

中期計画	年度計画	法人の自己評価		知事の評価																					
		評価の判断理由（実施状況等）	評価	評価	評価の判断理由・評価のコメントなど																				
<p>地域がん診療連携拠点病院として、合併症を有する難治性、進行性がんをはじめとする総合的ながん医療の提供</p> <p>心疾患・脳血管疾患、糖尿病・生活習慣病、腎移植や難病医療の拠点病院としての専門医療の提供</p> <p>精神科における合併症患者の受入れや総合的な合併症患者への医療の提供</p>	<p>次の各疾患等の拠点病院として専門医療を提供する。</p> <table border="1"> <tr> <td>地域がん診療連携拠点病院</td> <td>専門的ながん医療の提供、地域のがん医療連携体制の構築、情報提供や相談支援の実施に努める。</td> </tr> <tr> <td>心疾患・脳血管疾患</td> <td>経皮的動脈弁置換術の施行を推進するとともに、経皮的僧帽弁接合不全修復システムの導入に向けた体制整備を行う。 府南部地区の脳卒中の拠点病院として、高度脳卒中医療である脳血管内治療を推進する。</td> </tr> <tr> <td>糖尿病・生活習慣病</td> <td>糖尿病ケアチームを中心としたチーム医療の充実を図るとともに、糖尿病患者データベースの活用により、専門治療の充実を図る。</td> </tr> <tr> <td>腎移植</td> <td>近隣の腎臓内科とネットワークの構築を図り、大阪府南部地区において腎移植の普及に努める。</td> </tr> <tr> <td>難病医療</td> <td>他院では対応が困難な難病患者を受け入れる。また、保健所や患者会等との連携を強固にするため、相互訪問や公開講座の開催等を実施する。</td> </tr> </table>	地域がん診療連携拠点病院	専門的ながん医療の提供、地域のがん医療連携体制の構築、情報提供や相談支援の実施に努める。	心疾患・脳血管疾患	経皮的動脈弁置換術の施行を推進するとともに、経皮的僧帽弁接合不全修復システムの導入に向けた体制整備を行う。 府南部地区の脳卒中の拠点病院として、高度脳卒中医療である脳血管内治療を推進する。	糖尿病・生活習慣病	糖尿病ケアチームを中心としたチーム医療の充実を図るとともに、糖尿病患者データベースの活用により、専門治療の充実を図る。	腎移植	近隣の腎臓内科とネットワークの構築を図り、大阪府南部地区において腎移植の普及に努める。	難病医療	他院では対応が困難な難病患者を受け入れる。また、保健所や患者会等との連携を強固にするため、相互訪問や公開講座の開催等を実施する。	<table border="1"> <tr> <td>地域がん診療連携拠点病院</td> <td> <p>大阪市内の緩和ケアに関わる618施設を網羅する大阪がん診療ネットワーク協議会の在宅緩和ケア部会を担当し、大阪市緩和ケア医療機関マップのホームページを更新し、情報提供を行った。</p> <p>また、がん相談・緩和ケアセンターとして、がん患者に対する緩和支援を診療科と一体化して行うとともに、府民や患者・家族の方々にがんの情報提供や個別相談を実施した。（がん相談件数：平成30年度 1,414件、平成29年度 1,325件）</p> <p>がんゲノム医療連携施設として、平成30年8月10日付けで認可された。</p> </td> </tr> <tr> <td>心疾患・脳血管疾患</td> <td> <p>経皮的動脈弁置換術については、52件実施した。（前年度：45件）</p> <p>また、経皮的僧帽弁接合不全修復システム（Mitral Clip）の導入に向けた体制整備を行い、平成31年1月に実施医療機関の認定を受けて、7件実施した。</p> <p>脳卒中センターにおいては、高度脳卒中医療である脳梗塞に対する急性期血栓回収療法を21件実施した。（前年度：11件）</p> </td> </tr> <tr> <td>糖尿病・生活習慣病</td> <td> <p>糖尿病・生活習慣病等の高度専門医療の提供に取り組むとともに、糖尿病内分泌内科においては、周術期を中心とした糖尿病を合併する各科入院患者に対する共観管理を約1,500人に行った。（前年度：1,380人）</p> <p>また、糖尿病腎症の進行による透析導入を防ぐために設置されている透析予防外来において、延べ約800人の患者に指導を行った。（前年度：延べ約800人）</p> <p>さらに、糖尿病患者データベースの活用によって、ほぼすべての糖尿病患者に関する糖尿病腎症の病期を把握し、専門治療の充実を図った。</p> </td> </tr> <tr> <td>腎移植</td> <td>腎移植を19例実施するとともに、大阪府慢性腎臓病対策協議会、阪神腎臓内科移植研究会にて講演を行うなど、腎移植の普及に努めた。（前年度：17例）</td> </tr> <tr> <td>難病医療</td> <td>他院では対応が困難な難病患者を積極的に受け入れ、難病の拠点病院としての役割を果たした。また、かかりつけ医、地域のケア担当者とともに難病患者への訪問を50例実施した。さらに、地域の難病患者のケアを担当している保健師やケア担当者を対象とした研修会を2回開催した。</td> </tr> </table>	地域がん診療連携拠点病院	<p>大阪市内の緩和ケアに関わる618施設を網羅する大阪がん診療ネットワーク協議会の在宅緩和ケア部会を担当し、大阪市緩和ケア医療機関マップのホームページを更新し、情報提供を行った。</p> <p>また、がん相談・緩和ケアセンターとして、がん患者に対する緩和支援を診療科と一体化して行うとともに、府民や患者・家族の方々にがんの情報提供や個別相談を実施した。（がん相談件数：平成30年度 1,414件、平成29年度 1,325件）</p> <p>がんゲノム医療連携施設として、平成30年8月10日付けで認可された。</p>	心疾患・脳血管疾患	<p>経皮的動脈弁置換術については、52件実施した。（前年度：45件）</p> <p>また、経皮的僧帽弁接合不全修復システム（Mitral Clip）の導入に向けた体制整備を行い、平成31年1月に実施医療機関の認定を受けて、7件実施した。</p> <p>脳卒中センターにおいては、高度脳卒中医療である脳梗塞に対する急性期血栓回収療法を21件実施した。（前年度：11件）</p>	糖尿病・生活習慣病	<p>糖尿病・生活習慣病等の高度専門医療の提供に取り組むとともに、糖尿病内分泌内科においては、周術期を中心とした糖尿病を合併する各科入院患者に対する共観管理を約1,500人に行った。（前年度：1,380人）</p> <p>また、糖尿病腎症の進行による透析導入を防ぐために設置されている透析予防外来において、延べ約800人の患者に指導を行った。（前年度：延べ約800人）</p> <p>さらに、糖尿病患者データベースの活用によって、ほぼすべての糖尿病患者に関する糖尿病腎症の病期を把握し、専門治療の充実を図った。</p>	腎移植	腎移植を19例実施するとともに、大阪府慢性腎臓病対策協議会、阪神腎臓内科移植研究会にて講演を行うなど、腎移植の普及に努めた。（前年度：17例）	難病医療	他院では対応が困難な難病患者を積極的に受け入れ、難病の拠点病院としての役割を果たした。また、かかりつけ医、地域のケア担当者とともに難病患者への訪問を50例実施した。さらに、地域の難病患者のケアを担当している保健師やケア担当者を対象とした研修会を2回開催した。			
	地域がん診療連携拠点病院	専門的ながん医療の提供、地域のがん医療連携体制の構築、情報提供や相談支援の実施に努める。																							
	心疾患・脳血管疾患	経皮的動脈弁置換術の施行を推進するとともに、経皮的僧帽弁接合不全修復システムの導入に向けた体制整備を行う。 府南部地区の脳卒中の拠点病院として、高度脳卒中医療である脳血管内治療を推進する。																							
	糖尿病・生活習慣病	糖尿病ケアチームを中心としたチーム医療の充実を図るとともに、糖尿病患者データベースの活用により、専門治療の充実を図る。																							
	腎移植	近隣の腎臓内科とネットワークの構築を図り、大阪府南部地区において腎移植の普及に努める。																							
	難病医療	他院では対応が困難な難病患者を受け入れる。また、保健所や患者会等との連携を強固にするため、相互訪問や公開講座の開催等を実施する。																							
地域がん診療連携拠点病院	<p>大阪市内の緩和ケアに関わる618施設を網羅する大阪がん診療ネットワーク協議会の在宅緩和ケア部会を担当し、大阪市緩和ケア医療機関マップのホームページを更新し、情報提供を行った。</p> <p>また、がん相談・緩和ケアセンターとして、がん患者に対する緩和支援を診療科と一体化して行うとともに、府民や患者・家族の方々にがんの情報提供や個別相談を実施した。（がん相談件数：平成30年度 1,414件、平成29年度 1,325件）</p> <p>がんゲノム医療連携施設として、平成30年8月10日付けで認可された。</p>																								
心疾患・脳血管疾患	<p>経皮的動脈弁置換術については、52件実施した。（前年度：45件）</p> <p>また、経皮的僧帽弁接合不全修復システム（Mitral Clip）の導入に向けた体制整備を行い、平成31年1月に実施医療機関の認定を受けて、7件実施した。</p> <p>脳卒中センターにおいては、高度脳卒中医療である脳梗塞に対する急性期血栓回収療法を21件実施した。（前年度：11件）</p>																								
糖尿病・生活習慣病	<p>糖尿病・生活習慣病等の高度専門医療の提供に取り組むとともに、糖尿病内分泌内科においては、周術期を中心とした糖尿病を合併する各科入院患者に対する共観管理を約1,500人に行った。（前年度：1,380人）</p> <p>また、糖尿病腎症の進行による透析導入を防ぐために設置されている透析予防外来において、延べ約800人の患者に指導を行った。（前年度：延べ約800人）</p> <p>さらに、糖尿病患者データベースの活用によって、ほぼすべての糖尿病患者に関する糖尿病腎症の病期を把握し、専門治療の充実を図った。</p>																								
腎移植	腎移植を19例実施するとともに、大阪府慢性腎臓病対策協議会、阪神腎臓内科移植研究会にて講演を行うなど、腎移植の普及に努めた。（前年度：17例）																								
難病医療	他院では対応が困難な難病患者を積極的に受け入れ、難病の拠点病院としての役割を果たした。また、かかりつけ医、地域のケア担当者とともに難病患者への訪問を50例実施した。さらに、地域の難病患者のケアを担当している保健師やケア担当者を対象とした研修会を2回開催した。																								
<p>精神科病棟では、救命救急センターをはじめ他科との連携により、他の医療機関では受入れが困難な重度摂食障害の症例や、透析患者などの比較的重症な身体合併症患者を積極的に受け入れる。</p>		<p>精神科においては、身体合併症患者を積極的に受け入れ、精神科病棟への新入院335例中、283例（84.5%）が合併症患者であった（前年度は300例中、268例で89.3%）。</p> <p>また、重度摂食障害の患者を3人受け入れた。（前年度：11人）</p> <p>さらに、透析患者などの比較的重症な身体合併症患者や認知症患者についても積極的に受け入れた。（透析患者：平成30年度 12人、前年度 6人、認知症患者：平成30年度 32人、前年度 24人）</p>																							

中期計画	年度計画	法人の自己評価		知事の評価																																												
		評価の判断理由（実施状況等）	評価	評価	評価の判断理由・評価のコメントなど																																											
<p>急性期から回復期までの一貫したリハビリテーション医療、障がい者医療の提供</p> <p>医師の卒後臨床研修等の教育研修</p> <p>② 診療機能の充実 高度救命救急センター、三次救急及び二次救急の指定医療機関であることを踏まえ、南大阪地域の救命救急の中核的医療機関として、ER部の充実等救命救急部門の体制強化に努める。</p>	<p>回復期リハビリテーション病棟において、入院リハビリテーション効率を示す実績指数の維持・向上に努める。</p> <p>患者が適切なリハビリテーションを選択できるように、種別ごとのリハビリテーションセンターを立ち上げるとともに、患者を一貫してフォローするため、外来リハビリテーションを強化する。</p>	<p>リハビリテーション科においては、急性期から回復期までの一貫したリハビリテーションに努め、入院リハビリテーション効率を示す実績指数は38.9であり、前年度の実績を下回ったが、診療報酬の算定要件である「27以上」を大きく超える実績であった。（前年度：40.25）</p> <p>急性期から日常生活の復帰まで一貫したリハビリテーション医療を提供するため、平成31年4月1日から立ち上げる総合リハビリテーションセンターの準備を行った。具体的には、がん、運動器・廃用、脊髄損傷・難病、高次脳機能障害、脳卒中、心・大血管の6つの部門を設け、患者に分かりやすい体制を整えた。</p> <p>また、外来リハビリテーションを強化するため、府の拠点施設として高次脳機能障害の外来作業療法の拡充に取り組んだ。さらに、令和元年度より、心・大血管リハビリテーションへの理学療法士の参入、HALを用いたロボットリハビリテーションの外来訓練の開始、言語聴覚士の欠員が補充され次第失語症の外来訓練を行う。</p>																																														
	<table border="1"> <tr> <td>救命救急部門の体制強化</td> <td> <p>メディカルコントロール体制の一層の充実を図るため、大阪市消防局救急隊1隊が大阪急性期・総合医療センターに常駐するワークステーション方式（119番通報と同時に医師を救急車に同乗させ、現場に向かうこと）を継続し、救急搬送患者を積極的に受け入れる。</p> <p>米国のERドクターの診療技術やERシステムを参考としたER体制を構築するため、ER部の人材確保に努める。</p> </td> </tr> <tr> <td>脳卒中センター</td> <td> <p>脳卒中超急性期における血行再建までの時間短縮が予後改善に最も重要であり、血管内治療を含めた血行再建療法の適応時間が拡大されている。このことを踏まえ、地域の消防局救急隊との連携を深めることにより脳卒中急性期患者の受入れ数を増加させ、また院内マニュアルを整備して急性期治療完了までの時間を短縮させるように努める。</p> </td> </tr> </table>	救命救急部門の体制強化	<p>メディカルコントロール体制の一層の充実を図るため、大阪市消防局救急隊1隊が大阪急性期・総合医療センターに常駐するワークステーション方式（119番通報と同時に医師を救急車に同乗させ、現場に向かうこと）を継続し、救急搬送患者を積極的に受け入れる。</p> <p>米国のERドクターの診療技術やERシステムを参考としたER体制を構築するため、ER部の人材確保に努める。</p>	脳卒中センター	<p>脳卒中超急性期における血行再建までの時間短縮が予後改善に最も重要であり、血管内治療を含めた血行再建療法の適応時間が拡大されている。このことを踏まえ、地域の消防局救急隊との連携を深めることにより脳卒中急性期患者の受入れ数を増加させ、また院内マニュアルを整備して急性期治療完了までの時間を短縮させるように努める。</p>	<table border="1"> <tr> <td>救命救急部門の体制強化</td> <td> <p>平成30年12月3日から平成31年3月18日までワークステーションを実施した。救命効果指標を考案するため、出勤基準をさげて可能な限りの症例に対応し、出動件数は404件であった。（前年度実績：平成29年5月8日～8月14日、出動件数 48件）</p> <p>小児救急については、平成30年4月以降、それまでER当直医が行っていた小児救急症例を小児科医が診療する体制を整備することにより、一般救急の受入れ体制も拡充することで、救命救急部門の体制を強化した。</p> <p>ER部の人材確保に努めるとともに、各診療科の協力体制を強化し、患者管理体制の効率化の周知徹底を行った。今後は病床再編による救急病床の充実を図るなど、ERでの不応率改善に取り組む。</p> </td> </tr> <tr> <td>脳卒中センター</td> <td> <p>阪南6区の消防署を平成30年9月に訪問し、救急部門のアピールと搬送数増加への協力を要請した。脳卒中センターでは、脳卒中急性期搬送例について、症例毎の診断等を各搬送救急隊長あてにFAXでフィードバックする取組を平成30年10月より開始した。これら取組により、SCU新入院患者数は467人と目標値及び前年度を上回った。</p> <p>また、急性期脳梗塞の血栓回収療法の時間短縮を図るため、脳卒中初期対応マニュアルを関係各所と連携して作成した。</p> </td> </tr> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成28年度実績</th> <th>平成29年度実績</th> <th>平成30年度目標</th> <th>平成30年度実績</th> <th>目標差 前年度差</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>救急車搬入患者数（人）</td> <td>7,772</td> <td>8,005</td> <td>7,700</td> <td>8,877</td> <td>1,177 872</td> </tr> <tr> <td>三次救急新入院患者（人）</td> <td>2,140</td> <td>2,090</td> <td>—</td> <td>2,267</td> <td>— 177</td> </tr> <tr> <td>TCU（18床）新入院患者数（人）</td> <td>1,242</td> <td>1,298</td> <td>1,255</td> <td>1,399</td> <td>144 101</td> </tr> <tr> <td>SCU（6床）新入院患者数（人）</td> <td>445</td> <td>406</td> <td>450</td> <td>467</td> <td>17 61</td> </tr> <tr> <td>CCU（6床）新入院患者数（人）</td> <td>453</td> <td>386</td> <td>460</td> <td>401</td> <td>△ 59 15</td> </tr> </tbody> </table>	救命救急部門の体制強化	<p>平成30年12月3日から平成31年3月18日までワークステーションを実施した。救命効果指標を考案するため、出勤基準をさげて可能な限りの症例に対応し、出動件数は404件であった。（前年度実績：平成29年5月8日～8月14日、出動件数 48件）</p> <p>小児救急については、平成30年4月以降、それまでER当直医が行っていた小児救急症例を小児科医が診療する体制を整備することにより、一般救急の受入れ体制も拡充することで、救命救急部門の体制を強化した。</p> <p>ER部の人材確保に努めるとともに、各診療科の協力体制を強化し、患者管理体制の効率化の周知徹底を行った。今後は病床再編による救急病床の充実を図るなど、ERでの不応率改善に取り組む。</p>	脳卒中センター	<p>阪南6区の消防署を平成30年9月に訪問し、救急部門のアピールと搬送数増加への協力を要請した。脳卒中センターでは、脳卒中急性期搬送例について、症例毎の診断等を各搬送救急隊長あてにFAXでフィードバックする取組を平成30年10月より開始した。これら取組により、SCU新入院患者数は467人と目標値及び前年度を上回った。</p> <p>また、急性期脳梗塞の血栓回収療法の時間短縮を図るため、脳卒中初期対応マニュアルを関係各所と連携して作成した。</p>	区分	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度目標	平成30年度実績	目標差 前年度差	救急車搬入患者数（人）	7,772	8,005	7,700	8,877	1,177 872	三次救急新入院患者（人）	2,140	2,090	—	2,267	— 177	TCU（18床）新入院患者数（人）	1,242	1,298	1,255	1,399	144 101	SCU（6床）新入院患者数（人）	445	406	450	467	17 61	CCU（6床）新入院患者数（人）	453	386	460	401	△ 59 15		
救命救急部門の体制強化	<p>メディカルコントロール体制の一層の充実を図るため、大阪市消防局救急隊1隊が大阪急性期・総合医療センターに常駐するワークステーション方式（119番通報と同時に医師を救急車に同乗させ、現場に向かうこと）を継続し、救急搬送患者を積極的に受け入れる。</p> <p>米国のERドクターの診療技術やERシステムを参考としたER体制を構築するため、ER部の人材確保に努める。</p>																																															
脳卒中センター	<p>脳卒中超急性期における血行再建までの時間短縮が予後改善に最も重要であり、血管内治療を含めた血行再建療法の適応時間が拡大されている。このことを踏まえ、地域の消防局救急隊との連携を深めることにより脳卒中急性期患者の受入れ数を増加させ、また院内マニュアルを整備して急性期治療完了までの時間を短縮させるように努める。</p>																																															
救命救急部門の体制強化	<p>平成30年12月3日から平成31年3月18日までワークステーションを実施した。救命効果指標を考案するため、出勤基準をさげて可能な限りの症例に対応し、出動件数は404件であった。（前年度実績：平成29年5月8日～8月14日、出動件数 48件）</p> <p>小児救急については、平成30年4月以降、それまでER当直医が行っていた小児救急症例を小児科医が診療する体制を整備することにより、一般救急の受入れ体制も拡充することで、救命救急部門の体制を強化した。</p> <p>ER部の人材確保に努めるとともに、各診療科の協力体制を強化し、患者管理体制の効率化の周知徹底を行った。今後は病床再編による救急病床の充実を図るなど、ERでの不応率改善に取り組む。</p>																																															
脳卒中センター	<p>阪南6区の消防署を平成30年9月に訪問し、救急部門のアピールと搬送数増加への協力を要請した。脳卒中センターでは、脳卒中急性期搬送例について、症例毎の診断等を各搬送救急隊長あてにFAXでフィードバックする取組を平成30年10月より開始した。これら取組により、SCU新入院患者数は467人と目標値及び前年度を上回った。</p> <p>また、急性期脳梗塞の血栓回収療法の時間短縮を図るため、脳卒中初期対応マニュアルを関係各所と連携して作成した。</p>																																															
区分	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度目標	平成30年度実績	目標差 前年度差																																											
救急車搬入患者数（人）	7,772	8,005	7,700	8,877	1,177 872																																											
三次救急新入院患者（人）	2,140	2,090	—	2,267	— 177																																											
TCU（18床）新入院患者数（人）	1,242	1,298	1,255	1,399	144 101																																											
SCU（6床）新入院患者数（人）	445	406	450	467	17 61																																											
CCU（6床）新入院患者数（人）	453	386	460	401	△ 59 15																																											

中期計画	年度計画	法人の自己評価		知事の評価													
		評価の判断理由（実施状況等）	評価	評価	評価の判断理由・評価のコメントなど												
<p>がん医療の質の向上とがん患者のQOL（生活の質）向上を図るため、鏡視下手術等の低侵襲医療を更に推進するとともに、合併症の予防から緩和ケアまで、がん医療のすべての過程において、効果的なりハビリテーションを実施する。</p> <p>臓器移植について、公益社団法人日本臓器移植ネットワークの特定移植検査センターとしてHLA（ヒト白血球型抗原）やリンパ球交叉試験等の適合検査を実施するとともに、腎移植に取り組み、移植臨床センターとしての機能を強化する。また、腎代替療法において、腹膜透析の推進に努める。</p> <p>周産期救急医療及び小児救急医療に貢献するため、地域周産期母子医療センターとして受入れ拡充のための体制強化を図る。</p>	<p>がん医療の質の向上、がん患者のQOL（生活の質）向上</p> <p>がん患者に対するリハビリテーションの実施に努める。</p> <p>婦人科がん医療については、腹腔鏡下初期子宮体癌手術の件数増加及び新たな術者の育成に努め、さらに、先進医療である腹腔鏡下傍大動脈リンパ節郭清術を開始する。</p> <p>外来・入院各部署においてがん患者の苦痛スクリーニングを実施し、その結果に応じて緩和ケアを行うとともに、がんと診断された時からの緩和ケアを提供する体制を充実させる。</p>	<p>がん医療の質の向上、がん患者のQOL（生活の質）向上</p> <p>がん患者に対するリハビリテーションを推進した結果、実績件数は前年度を上回る964件であった。（前年度実績：957件）</p> <p>婦人科において、腹腔鏡下初期子宮体癌手術を13例実施した。（前年度実績：16例）</p> <p>また、医師2名に対して、婦人科腫瘍専門医及び内視鏡技術認定医の取得に向けた教育を実施した。</p> <p>先進医療である腹腔鏡下傍大動脈リンパ節郭清術については、ロボット補助手術への対応を優先したため、次年度以降の申請を目指す。</p> <p>苦痛スクリーニングを外来・入院各部署で実施し、外来3,925件、入院2,836件のスクリーニングシートを回収した。（前年度実績：外来3,351件、入院2,033件）</p> <p>スクリーニングの結果に応じて、個々の患者に応じた緩和医療の提供に取り組み、緩和ケアチームが介入した症例数は338例であった。（前年度実績：253例）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成28年度実績</th> <th>平成29年度実績</th> <th>平成30年度目標</th> <th>平成30年度実績</th> <th>目標差 前年度差</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>術前から登録されたがん周術期リハビリテーション実施率（%）</td> <td>25.5</td> <td>23.0</td> <td>25.0</td> <td>22.0</td> <td>△ 3.0 △ 1.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 術前から登録されたがん周術期リハビリテーション実施率（%） = 術前登録がん周術期リハ件数÷がん手術実施件数</p>	区分	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度目標	平成30年度実績	目標差 前年度差	術前から登録されたがん周術期リハビリテーション実施率（%）	25.5	23.0	25.0	22.0	△ 3.0 △ 1.0			
	区分	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度目標	平成30年度実績	目標差 前年度差											
	術前から登録されたがん周術期リハビリテーション実施率（%）	25.5	23.0	25.0	22.0	△ 3.0 △ 1.0											
	腎代替療法	腎代替療法選択外来の受診率を上げて、腹膜透析の新規導入数と管理患者数の増加を目指す。	腎臓・高血圧内科独自HPの開設の取組等により、腎代替療法選択外来受診率（腎代替療法外来受診患者数/全腎代替療法導入患者数）は57%であり、前年度よりも増加した。（前年度実績：35%）	また、腹膜透析の新規導入患者数は10人（前年度：15人）、管理患者数は43人（前年度：49人）であった。													
移植臨床センターとしての機能強化	公益社団法人日本臓器移植ネットワークの特定移植検査センターとして、組織適合検査に関わる検査技師の養成や、HLA適合検査の項目を増やすなど、組織の発展に努める。	組織適合検査室と輸血検査室の業務を統合したことにより、組織適合検査に関わる検査技師を1名増員した。また、HLA適合検査について、DQA1、DPB1ローカスの項目を増やした。															
周産期救急医療及び小児救急医療の充実	地域周産期母子医療センターとして、また最重症合併症妊産婦受入れ医療機関としてさらなる機能の充実に努める。	産科においては、救急診療科と連携して、最重症妊産婦を受け入れるとともに、助産師分娩を開始するなど、機能の充実に努めた。	大阪府市共同 住吉母子医療センターにおいては、院内の連携強化により、大動脈バルーン閉鎖下での子宮摘出術の実施など、高度医療を実施するとともに、周産期医療の充実に努め、早産児の治療・ケアの向上のため、在胎28週以上の受入れ体制を整備した。（分娩件数：平成30年度 1,164件、前年度 805件）														
	院内の連携強化により、大阪府市共同 住吉母子医療センターにおいて、迅速かつ効率的に患者を受け入れる。	（再掲）小児救急については、平成30年4月以降、それまでER当直医が行っていた小児救急症例を小児科医が診療する体制を整備した。															
	小児救急医療の受入れ体制のさらなる充実に努める。																

中期計画	年度計画	法人の自己評価		知事の評価																									
		評価の判断理由（実施状況等）	評価	評価	評価の判断理由・評価のコメントなど																								
<p>精神科病棟に身体合併症に特化した機能を持たせ、救急救命センターをはじめ他科との良好な連携の下に比較的重症な身体合併症患者も積極的に受け入れる。</p> <p>難治性糖尿病について、糖尿病合併症治療に関係が深い診療科との連携も強化し、糖尿病の専門医療機関としての機能の充実に努める。</p>	<p>精神医療 (再掲) 精神科病棟では、救命救急センターをはじめ他科との連携により、他の医療機関では受け入れが困難な重度摂食障害の症例や、透析患者などの比較的重症な身体合併症患者を積極的に受け入れる。</p>	<p>精神医療 (再掲) 精神科においては、身体合併症患者を積極的に受け入れ、精神科病棟への新入院335例中、283例(84.5%)が合併症患者であった(前年度は300例中、268例で89.3%)。また、重度摂食障害の患者を3人受け入れた。(前年度：11人) さらに、透析患者などの比較的重症な身体合併症患者や認知症患者についても積極的に受け入れた。(透析患者：平成30年度 12人、前年度 6人、認知症患者：平成30年度 32人、前年度24人)</p>																											
	<p>糖尿病 糖尿病患者データベースの活用により、患者の細小血管合併症の病期の把握や、大血管障害のスクリーニングを行うなど、糖尿病の専門医療機関としての機能の充実に努める。また、他科と連携し、糖尿病腎症による透析予防体制や末梢動脈疾患患者に対する治療体制を確立する。</p>	<p>糖尿病 妊娠糖尿病症例、糖尿病合併症妊娠症例等の産科症例に対して積極的に介入し、共観数は前年度を上回った。(平成30年度 約160例、前年度 約150例) 糖尿病患者データベースの活用によって、ほぼすべての糖尿病患者について糖尿病腎症の病期の把握ができつつあり、顕性蛋白腎症に至っていないのかかわらず、腎機能が低下している症例については、腎臓・高血圧内科で腎生検を行った。また、糖尿病網膜症スクリーニング体制について、PrePDR(前増殖糖尿病網膜症)以上の重症度の症例は眼科で治療するなど、他科と連携して、糖尿病の専門医療機関としての機能の充実に努めた。</p>																											
		<p>○ 臨床研究の推進 臨床研究支援センターにおいては、平成30年7月27日付けで厚生労働大臣から「臨床研究審査委員会」の認定を取得し、臨床研究に関する講習会を開催するなど、臨床研究を推進した。</p>																											
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成28年度 実績</th> <th>平成29年度 実績</th> <th>平成30年度 目標</th> <th>平成30年度 実績</th> <th>目標差 前年度差</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医師主導型臨床研究件数(件)</td> <td>111</td> <td>140</td> <td>110</td> <td>157</td> <td>47 17</td> </tr> </tbody> </table>		区分	平成28年度 実績	平成29年度 実績	平成30年度 目標	平成30年度 実績	目標差 前年度差	医師主導型臨床研究件数(件)	111	140	110	157	47 17														
区分	平成28年度 実績	平成29年度 実績	平成30年度 目標	平成30年度 実績	目標差 前年度差																								
医師主導型臨床研究件数(件)	111	140	110	157	47 17																								
		<p>○ ICTを用いた地域医療連携の取組 「万代e-ネット(診療情報地域連携システム)」やインターネット予約システムについて、地域医療機関の参加を促進するなど、ICTを用いた地域医療連携の強化に取り組んだ。</p>																											
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成28年度 実績</th> <th>平成29年度 実績</th> <th>平成30年度 目標</th> <th>平成30年度 実績</th> <th>目標差 前年度差</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ICTを用いた地域医療連携登録医数(施設)</td> <td>198</td> <td>226</td> <td>250</td> <td>256</td> <td>6 30</td> </tr> <tr> <td>インターネット予約システム参加医療機関件数(件)</td> <td>150</td> <td>169</td> <td>—</td> <td>194</td> <td>— 25</td> </tr> <tr> <td>万代e-ネット参加施設数(件)</td> <td>48</td> <td>57</td> <td>—</td> <td>62</td> <td>— 5</td> </tr> </tbody> </table>		区分	平成28年度 実績	平成29年度 実績	平成30年度 目標	平成30年度 実績	目標差 前年度差	ICTを用いた地域医療連携登録医数(施設)	198	226	250	256	6 30	インターネット予約システム参加医療機関件数(件)	150	169	—	194	— 25	万代e-ネット参加施設数(件)	48	57	—	62	— 5		
区分	平成28年度 実績	平成29年度 実績	平成30年度 目標	平成30年度 実績	目標差 前年度差																								
ICTを用いた地域医療連携登録医数(施設)	198	226	250	256	6 30																								
インターネット予約システム参加医療機関件数(件)	150	169	—	194	— 25																								
万代e-ネット参加施設数(件)	48	57	—	62	— 5																								
		<p><評価の理由> 救命救急医療については、救急車搬入件数及びTCU新入院患者数は目標を上回った。また、心疾患・脳血管疾患に対する専門医療の提供や大阪府市共同 住吉母子医療センターの開設に伴う周産期救急医療及び小児救急医療の充実など、計画を着実に達成したことから、Ⅲ評価とした。</p>																											

中期計画	年度計画	法人の自己評価		知事の評価																																																																					
		評価の判断理由（実施状況等）	評価	評価	評価の判断理由・評価のコメントなど																																																																				
イ 大阪はびきの医療センター																																																																									
<p>評価番号【2】</p> <p>① 役割に応じた医療施策の実施 難治性の呼吸器疾患に対する専門医療の提供</p> <p>多剤耐性結核患者等に対する専門医療の提供</p> <p>気管支喘息、アトピー性皮膚炎、食物アレルギー等に対する専門医療の提供</p> <p>呼吸器疾患、結核及びアレルギー性疾患の合併症に対する医療の提供</p> <p>悪性腫瘍患者に対する診断から集学的治療、緩和ケアまでの総合的な医療の提供</p>	<p>次の専門医療センターで、各専門スタッフが診療科・職種の垣根を越え、患者視点でより効果的な治療を提供する。</p> <table border="1"> <tr> <td>呼吸ケアセンター</td> <td>呼吸器疾患の府内の中核病院として、急性及び慢性の呼吸不全に対し専門医師、専門看護師、専門理学療法士が連携し、急性期の集中治療から慢性期の治療とケア、呼吸リハ、在宅での呼吸ケアまで包括的な診療を行う。</td> </tr> <tr> <td>感染症センター</td> <td>新型インフルエンザ、SARS、エイズ等の新興感染症をはじめ、重症肺炎感染症、多剤耐性肺結核等の蔓延の防止と診療、併発症をもつ結核患者の治療など、多種の感染症に対応する。</td> </tr> <tr> <td>アトピー・アレルギーセンター</td> <td>小児から成人まで症状が多様で治療が困難な気管支喘息、アトピー性皮膚炎、食物アレルギー、薬剤アレルギー等のアレルギー性疾患に対応する。また、府と連携して、アレルギー疾患に関する啓発活動の充実など総合的なアレルギー疾患対策に取り組む。</td> </tr> </table>	呼吸ケアセンター	呼吸器疾患の府内の中核病院として、急性及び慢性の呼吸不全に対し専門医師、専門看護師、専門理学療法士が連携し、急性期の集中治療から慢性期の治療とケア、呼吸リハ、在宅での呼吸ケアまで包括的な診療を行う。	感染症センター	新型インフルエンザ、SARS、エイズ等の新興感染症をはじめ、重症肺炎感染症、多剤耐性肺結核等の蔓延の防止と診療、併発症をもつ結核患者の治療など、多種の感染症に対応する。	アトピー・アレルギーセンター	小児から成人まで症状が多様で治療が困難な気管支喘息、アトピー性皮膚炎、食物アレルギー、薬剤アレルギー等のアレルギー性疾患に対応する。また、府と連携して、アレルギー疾患に関する啓発活動の充実など総合的なアレルギー疾患対策に取り組む。	<p>○ 大阪はびきの医療センターにおける医療施策の実施</p> <table border="1"> <tr> <td>呼吸ケアセンター</td> <td>呼吸ケアセンターにおいて、在宅酸素療法導入患者に対するリハビリ介入など、慢性呼吸不全に対する円滑な在宅移行を見据えたきめ細かい専門医療を提供した。（呼吸器リハビリテーション実施件数：平成30年度 14,178件、前年度 9,578件）</td> </tr> <tr> <td></td> <td>呼吸器看護専門外来を設置し、患者のセルフマネジメント能力の向上や精神的ケアを行うとともに、退院に向けた支援や在宅での呼吸ケアの支援など一貫した専門医療を提供した。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>呼吸器集中治療施設（IRCU）では、重症肺炎、ARDS等の急性呼吸不全患者の集学的治療を行った。（延べ患者数：平成30年度 1,800人、前年度 1,970人）</td> </tr> <tr> <td>感染症センター</td> <td>感染症センターにおいては、通常の結核診療だけでなく、多剤耐性結核患者や重篤な併存疾患のある患者に対する診療を実施した。</td> </tr> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成28年度実績</th> <th>平成29年度実績</th> <th>平成30年度実績</th> <th>前年度差</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>結核入院勧告新患者数（人）</td> <td>198</td> <td>207</td> <td>235</td> <td>28</td> </tr> <tr> <td>多剤耐性結核新入院患者数（人）</td> <td>4</td> <td>6</td> <td>9</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>多剤耐性結核新発生患者数（人）</td> <td>4</td> <td>6</td> <td>9</td> <td>3</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <tr> <td>アトピー・アレルギーセンター</td> <td>アトピー・アレルギーセンターにおいて、アレルギー性疾患に対し、アレルギー内科、皮膚科、小児科、耳鼻咽喉科、眼科等の複数診療科が連携して専門的治療に努めた結果、重症アトピー性皮膚炎患者に対する処置件数は目標を上回った。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>また、食物アレルギー児に対しての総合的な食生活支援を目的として、食物チャレンジテスト、栄養指導、座談会や料理教室などを組み合わせて治療にあたっており、食物チャレンジテスト実施件数は目標を下回ったが、前年度を上回った。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>大阪府アレルギー疾患医療拠点の幹事病院として指定を受け、大阪府や他3つの拠点病院と連携しながら、大阪府全域の医療者や府民等に対して研修や講演会等を実施した。</td> </tr> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成28年度実績</th> <th>平成29年度実績</th> <th>平成30年度目標</th> <th>平成30年度実績</th> <th>目標差</th> <th>前年度差</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>重症アトピー性皮膚炎患者に対する処置件数（件）</td> <td>9,524</td> <td>11,174</td> <td>9,000</td> <td>10,528</td> <td>1,528</td> <td>△ 646</td> </tr> <tr> <td>食物チャレンジテスト実施件数（件）</td> <td>1,319</td> <td>1,271</td> <td>1,400</td> <td>1,275</td> <td>△ 125</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>気管支喘息患者の新患者数（人）</td> <td>727</td> <td>550</td> <td>—</td> <td>570</td> <td>—</td> <td>20</td> </tr> </tbody> </table>	呼吸ケアセンター	呼吸ケアセンターにおいて、在宅酸素療法導入患者に対するリハビリ介入など、慢性呼吸不全に対する円滑な在宅移行を見据えたきめ細かい専門医療を提供した。（呼吸器リハビリテーション実施件数：平成30年度 14,178件、前年度 9,578件）		呼吸器看護専門外来を設置し、患者のセルフマネジメント能力の向上や精神的ケアを行うとともに、退院に向けた支援や在宅での呼吸ケアの支援など一貫した専門医療を提供した。		呼吸器集中治療施設（IRCU）では、重症肺炎、ARDS等の急性呼吸不全患者の集学的治療を行った。（延べ患者数：平成30年度 1,800人、前年度 1,970人）	感染症センター	感染症センターにおいては、通常の結核診療だけでなく、多剤耐性結核患者や重篤な併存疾患のある患者に対する診療を実施した。	区分	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度実績	前年度差	結核入院勧告新患者数（人）	198	207	235	28	多剤耐性結核新入院患者数（人）	4	6	9	3	多剤耐性結核新発生患者数（人）	4	6	9	3	アトピー・アレルギーセンター	アトピー・アレルギーセンターにおいて、アレルギー性疾患に対し、アレルギー内科、皮膚科、小児科、耳鼻咽喉科、眼科等の複数診療科が連携して専門的治療に努めた結果、重症アトピー性皮膚炎患者に対する処置件数は目標を上回った。		また、食物アレルギー児に対しての総合的な食生活支援を目的として、食物チャレンジテスト、栄養指導、座談会や料理教室などを組み合わせて治療にあたっており、食物チャレンジテスト実施件数は目標を下回ったが、前年度を上回った。		大阪府アレルギー疾患医療拠点の幹事病院として指定を受け、大阪府や他3つの拠点病院と連携しながら、大阪府全域の医療者や府民等に対して研修や講演会等を実施した。	区分	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度目標	平成30年度実績	目標差	前年度差	重症アトピー性皮膚炎患者に対する処置件数（件）	9,524	11,174	9,000	10,528	1,528	△ 646	食物チャレンジテスト実施件数（件）	1,319	1,271	1,400	1,275	△ 125	4	気管支喘息患者の新患者数（人）	727	550	—	570	—	20	III	III	III評価とする法人の自己評価は妥当であると判断した。
呼吸ケアセンター	呼吸器疾患の府内の中核病院として、急性及び慢性の呼吸不全に対し専門医師、専門看護師、専門理学療法士が連携し、急性期の集中治療から慢性期の治療とケア、呼吸リハ、在宅での呼吸ケアまで包括的な診療を行う。																																																																								
感染症センター	新型インフルエンザ、SARS、エイズ等の新興感染症をはじめ、重症肺炎感染症、多剤耐性肺結核等の蔓延の防止と診療、併発症をもつ結核患者の治療など、多種の感染症に対応する。																																																																								
アトピー・アレルギーセンター	小児から成人まで症状が多様で治療が困難な気管支喘息、アトピー性皮膚炎、食物アレルギー、薬剤アレルギー等のアレルギー性疾患に対応する。また、府と連携して、アレルギー疾患に関する啓発活動の充実など総合的なアレルギー疾患対策に取り組む。																																																																								
呼吸ケアセンター	呼吸ケアセンターにおいて、在宅酸素療法導入患者に対するリハビリ介入など、慢性呼吸不全に対する円滑な在宅移行を見据えたきめ細かい専門医療を提供した。（呼吸器リハビリテーション実施件数：平成30年度 14,178件、前年度 9,578件）																																																																								
	呼吸器看護専門外来を設置し、患者のセルフマネジメント能力の向上や精神的ケアを行うとともに、退院に向けた支援や在宅での呼吸ケアの支援など一貫した専門医療を提供した。																																																																								
	呼吸器集中治療施設（IRCU）では、重症肺炎、ARDS等の急性呼吸不全患者の集学的治療を行った。（延べ患者数：平成30年度 1,800人、前年度 1,970人）																																																																								
感染症センター	感染症センターにおいては、通常の結核診療だけでなく、多剤耐性結核患者や重篤な併存疾患のある患者に対する診療を実施した。																																																																								
区分	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度実績	前年度差																																																																					
結核入院勧告新患者数（人）	198	207	235	28																																																																					
多剤耐性結核新入院患者数（人）	4	6	9	3																																																																					
多剤耐性結核新発生患者数（人）	4	6	9	3																																																																					
アトピー・アレルギーセンター	アトピー・アレルギーセンターにおいて、アレルギー性疾患に対し、アレルギー内科、皮膚科、小児科、耳鼻咽喉科、眼科等の複数診療科が連携して専門的治療に努めた結果、重症アトピー性皮膚炎患者に対する処置件数は目標を上回った。																																																																								
	また、食物アレルギー児に対しての総合的な食生活支援を目的として、食物チャレンジテスト、栄養指導、座談会や料理教室などを組み合わせて治療にあたっており、食物チャレンジテスト実施件数は目標を下回ったが、前年度を上回った。																																																																								
	大阪府アレルギー疾患医療拠点の幹事病院として指定を受け、大阪府や他3つの拠点病院と連携しながら、大阪府全域の医療者や府民等に対して研修や講演会等を実施した。																																																																								
区分	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度目標	平成30年度実績	目標差	前年度差																																																																			
重症アトピー性皮膚炎患者に対する処置件数（件）	9,524	11,174	9,000	10,528	1,528	△ 646																																																																			
食物チャレンジテスト実施件数（件）	1,319	1,271	1,400	1,275	△ 125	4																																																																			
気管支喘息患者の新患者数（人）	727	550	—	570	—	20																																																																			

中期計画	年度計画	法人の自己評価			知事の評価																							
		評価の判断理由（実施状況等）	評価	評価	評価の判断理由・評価のコメントなど																							
<p>② 診療機能の充実</p> <p>呼吸不全、HOT（在宅酸素療法）等に対する診療機能を集約した呼吸ケアセンターとして、急性期から慢性期まであらゆる病態をカバーする。また、救急患者の受入れをはじめ、在宅医療の後方支援や、呼吸器リハビリテーション機能の強化等診療体制の充実に取り組む。</p> <p>感染症指定医療機関として、新型インフルエンザ、SARS（重症急性呼吸器症候群）等の新興感染症や、AIDS（後天性免疫不全症候群）をはじめ多剤耐性結核等の感染症に対する診療機能の充実に取り組む。</p>	<p>腫瘍センター</p> <p>大阪府がん診療拠点病院（肺がん）として、肺がんをはじめ、悪性腫瘍に対し診断から集学的治療、緩和ケアなどの総合的な医療を行う。</p>	<p>腫瘍センター</p> <p>腫瘍センターにおいては、肺がん等の悪性腫瘍に対して、手術、放射線治療、化学療法等による集学的治療を実施した。肺がんの新入院患者数及び肺がん手術件数については目標・前年度を上回った。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> <th>平成30年度</th> <th>平成30年度</th> <th>目標差</th> </tr> <tr> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>目標</th> <th>実績</th> <th>前年度差</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>肺がん新入院患者数（人）</td> <td>1,271</td> <td>1,552</td> <td>1,485</td> <td>1,682</td> <td>197 130</td> </tr> <tr> <td>肺がん手術件数（件）</td> <td>158</td> <td>155</td> <td>154</td> <td>160</td> <td>6 5</td> </tr> </tbody> </table> <p>大阪府の医療型短期入所施設整備促進事業に対して、気管切開や在宅人工呼吸器を使用している重症心身障がい児者のレスパイト入院を引き続き受け入れた。（延べ受入れ日数：平成30年度 239日、前年度 277日） また、地域包括ケア病棟については、急性期を脱した患者が安心して在宅復帰することができるよう、医師、看護師をはじめ、理学療法士やMSWなど多職種が連携して退院支援を行った。</p>	区分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成30年度	目標差	実績	実績	目標	実績	前年度差	肺がん新入院患者数（人）	1,271	1,552	1,485	1,682	197 130	肺がん手術件数（件）	158	155	154	160	6 5			
	区分	平成28年度		平成29年度	平成30年度	平成30年度	目標差																					
		実績	実績	目標	実績	前年度差																						
肺がん新入院患者数（人）	1,271	1,552	1,485	1,682	197 130																							
肺がん手術件数（件）	158	155	154	160	6 5																							
<p>呼吸ケアセンター</p> <p>在宅酸素療法・人工呼吸療法を推進し、呼吸不全患者のQOLの向上を図る。また、平成29年度より開始した救急患者の受入れを拡大するため、近隣の消防本部との連携強化を図る。</p>	<p>呼吸ケアセンター</p> <p>呼吸ケアセンターにおいては、在宅酸素療法を推進し、在宅酸素療法新規患者数は目標を上回った。また、理学療法士を増員して体制を充実させるとともに、在宅酸素療法導入患者に対するリハビリ介入など、慢性呼吸不全に対する円滑な在宅移行を見据えたきめ細かい専門医療を提供した。（呼吸器リハビリテーション実施件数：平成30年度 14,178件、前年度 9,578件） 救急患者の受入れを拡大するため、呼吸器内科に加えて内科を標榜、集中治療科医師による近隣の消防署訪問を行うとともに、救急隊との意見交換により相互理解を深めた。また、センター主催の、搬送症例に関する合同カンファレンスを開催したほか、救急隊からの要望に応えた内容の講習会を開催するなど連携の強化に努めた。（救急患者受入れ件数：平成30年度 772件、前年度 680件）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> <th>平成30年度</th> <th>平成30年度</th> <th>目標差</th> </tr> <tr> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>目標</th> <th>実績</th> <th>前年度差</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>在宅酸素療法新規患者数（人）</td> <td>140</td> <td>126</td> <td>130</td> <td>155</td> <td>25 29</td> </tr> <tr> <td>在宅人工呼吸器使用患者数（人、年度末）</td> <td>42</td> <td>37</td> <td>—</td> <td>40</td> <td>— 3</td> </tr> </tbody> </table>	区分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成30年度	目標差	実績	実績	目標	実績	前年度差	在宅酸素療法新規患者数（人）	140	126	130	155	25 29	在宅人工呼吸器使用患者数（人、年度末）	42	37	—	40	— 3				
区分	平成28年度		平成29年度	平成30年度	平成30年度	目標差																						
	実績	実績	目標	実績	前年度差																							
在宅酸素療法新規患者数（人）	140	126	130	155	25 29																							
在宅人工呼吸器使用患者数（人、年度末）	42	37	—	40	— 3																							
<p>感染症センター</p> <p>新型インフルエンザ・SARS等の新興感染症をはじめ、重症肺感染症、多剤耐性肺結核の診療及び腎不全・消化器疾患など併発症を有する結核患者の治療や近隣地域の医療従事者へ感染症についての教育研修に取り組む。 二類感染症患者発生時に備え、マニュアルの整備やプリコーションセット（感染予防用のガウン、手袋、マスク等のセット）の管理を行うとともに、感染症患者受入れを想定したシミュレーションや訓練等を行う。</p>	<p>感染症センター</p> <p>羽曳野市主催の「ふれあい健康まつり」や「はびきの健康フォーラム」への参加、また結核予防週間に合わせた結核啓発活動に取り組み、大阪はびきの医療センターの取組や結核啓発活動などについて積極的にアピールした。また、大阪府の感染症対策との連携を図り、接触者検診などの結核対策や意識啓発活動などを実施した。</p> <p>二類感染症患者発生時に備え、マニュアルの見直し、外来感染症診察室の整備、プリコーションセットの管理、アイソレーター車椅子（空気感染または飛沫感染の恐れがある患者を搬送するための車椅子）の点検を実施した。</p>																											

中期計画	年度計画	法人の自己評価		知事の評価		
		評価の判断理由（実施状況等）	評価	評価	評価の判断理由・評価のコメントなど	
<p>アトピー性皮膚炎、食物アレルギー等に対する総合的な診療機能を集約したアトピー・アレルギーセンターとして、食物負荷試験や経口免疫療法の積極的な実施、乳児アトピー性皮膚炎に対する早期介入の積極的な実施等、診療体制の強化及び機能の拡充に取り組む。</p> <p>肺がん等悪性腫瘍に対する診療機能を集約した腫瘍センターとして、早期診断から集学的治療までの診療体制の強化及び機能の拡充に取り組む。</p> <p>周辺医療機関との感染対策ネットワークを充実するとともに、各病院間のネットワーク化を図り、集団感染や耐性菌感染等の情報提供や助言を行うなど、府域の院内感染対策に貢献する。</p>	アトピー・アレルギーセンター	急速経口免疫療法の共同研究への参画や、スギ花粉ペプチド含有米（スギ花粉症緩和米）を使った臨床研究など、アレルギー疾患の根治に向けた取組を行う。	アトピー・アレルギーセンター	小児科を中心に急速経口免疫療法の他施設共同研究へ積極的に参画した。また、複数の研究計画により多角的にスギ花粉ペプチド含有米（スギ花粉症緩和米）を使った臨床研究に取り組んだ。		
	腫瘍センター	進行肺がん患者に対する胸部外科手術の実施や、より低侵襲な胸腔鏡手術及び放射線治療の適用の増加に努める。	腫瘍センター	肺がん等の胸部悪性腫瘍に対し、診断から、手術、化学療法、放射線治療等を組み合わせた集学的治療、緩和ケアまで一貫した治療に取り組むとともに、より患者の身体的負担の少ない低侵襲な胸腔鏡手術及び放射線治療の適用の増加に努めた。 （胸腔鏡手術件数：平成30年度 264件、前年度 225件、放射線治療件数：平成30年度 4,411件、前年度 4,325件）		
	府域の院内感染対策	各病院間のネットワーク化を図り、集団感染や耐性菌感染等の情報提供や助言を行うなど、府域の院内感染対策に貢献する。	府域の院内感染対策	連携医療機関に対して、感染症の診療や手術室の手洗い設備や器材の適切な管理について指導及び提案し、必要な場合は現場に赴いて助言を行うなど、府域の院内感染対策の向上に寄与した。		
	小児医療の充実	呼吸器疾患やアレルギー疾患の専門医療に加え、一般小児医療分野にも診療を拡大し、地域医療に貢献する。	小児医療の充実	小児科においては、週3回（10月から週5日（月～金））の一般小児外来の診療を開始し、呼吸器疾患やアレルギー疾患以外の幅広い疾患の診療を開始し、これまで受け入れてこなかった川崎病等の疾患についても、入院の受け入れをおこなった。		
	リハビリテーションの充実	スタッフの増員により、摂食機能療法リハビリテーションの拡大及び廃用症候群リハビリテーションを実施し、より質の高い医療の提供に努める。	リハビリテーションの充実	言語聴覚士の新規配置により、廃用症候群リハビリテーションを開始した。また、病棟看護師と連携して嚥下評価を実施することにより、誤嚥患者のスクリーニングと嚥下訓練を適切に実施できる体制を整備した。 欠員となっていた作業療法士の採用と、理学療法士の増員など、リハビリテーション提供体制を強化し、患者の状態に応じた呼吸器リハビリテーションを、より多く実施することができた。		
		<p>○ 消化器内科の再開 平成30年4月から消化器内科を再開し、幅広い診療ができる体制を整備した。11月からは消化器内科専用の外来診察室をオープンし、外来診療を拡大した。</p>				
		<p><評価の理由> アレルギー性疾患に対し、専門的治療に努めた結果、重症アトピー性皮膚炎患者に対する処置件数は目標を上回った。また、腫瘍センターにおいては、肺がん等の悪性腫瘍に対する専門治療に努めた結果、肺がん新入院患者数は目標を上回った。 このほか、府域の院内感染対策の向上の取組など、計画を着実に達成したことからⅢ評価とした。</p>				

中期計画	年度計画	法人の自己評価		知事の評価																																																			
		評価の判断理由（実施状況等）	評価	評価	評価の判断理由・評価のコメントなど																																																		
ウ 大阪精神医療センター 評価番号【3】																																																							
<p>① 役割に応じた医療施策の実施 措置入院、緊急措置入院、救急入院等急性期にある患者に対する緊急・救急医療及び症状が急性期を脱した患者に対する退院までの総合的な医療の提供</p> <p>激しい問題行動を伴う難治性症例、薬物等の中毒性精神障がい等の患者に対する高度ケア医療の提供</p> <p>医療型障がい児入所施設として、自閉症患者（自閉症児）の受入れ</p>	<p>措置入院、緊急措置入院の受入れについて24時間体制で行い、緊急救急病棟及び高度ケア病棟と、後送病棟としての役割を果たす総合治療病棟との連携により、受入れを円滑に行う。</p> <p>民間医療機関において処遇が困難な患者を積極的に受け入れ、高度ケア医療を提供する。</p> <p>次の機能を有する病院として専門的取組を行う。</p> <table border="1"> <tr> <td>依存症治療拠点機関</td> <td>平成29年度に設置した依存症治療推進センターを中心に、薬物、アルコール、ギャンブル等の各種依存症の総合的な治療体制の構築及び推進に取り組むとともに、府における依存症治療の普及と発展に取り組む。</td> </tr> <tr> <td>児童思春期精神科医療の充実</td> <td>自閉症などの発達障がい圏の措置児童を受け入れるとともに、児童思春期外来における発達障がいの診断初診外来の充実に取り組むことで、当面、待機患児数の早期減少に努める。</td> </tr> </table>	依存症治療拠点機関	平成29年度に設置した依存症治療推進センターを中心に、薬物、アルコール、ギャンブル等の各種依存症の総合的な治療体制の構築及び推進に取り組むとともに、府における依存症治療の普及と発展に取り組む。	児童思春期精神科医療の充実	自閉症などの発達障がい圏の措置児童を受け入れるとともに、児童思春期外来における発達障がいの診断初診外来の充実に取り組むことで、当面、待機患児数の早期減少に努める。	<p>○ 大阪精神医療センターにおける医療施策の実施 緊急措置入院の受入れについては24時間体制で行うとともに、緊急救急病棟で措置・緊急措置入院対応の空ベッドを1床以上確保するため、他病棟と協力しながら、ベッドコントロールを行った。また、保護室を含めた「空床等状況報告表」を1日2回更新し、円滑に緊急措置入院を受け入れるための病床確保に努めた。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成28年度実績</th> <th>平成29年度実績</th> <th>平成30年度実績</th> <th>前年度差</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">措置患者等の受け入れ件数（件）</td> <td>措置入院</td> <td>15</td> <td>20</td> <td>35</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>緊急措置入院</td> <td>32</td> <td>38</td> <td>38</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>応急入院</td> <td>2</td> <td>6</td> <td>5</td> <td>△ 1</td> </tr> </tbody> </table> <p>処遇困難な患者の受入れについては、大阪府を通じて9件の依頼があり、受入れ対象に該当した7件のうち、4件を平成30年度に受け入れた。</p> <table border="1"> <tr> <td>依存症治療拠点機関</td> <td>依存症治療推進センターにおいて、薬物・アルコール・ギャンブルの各依存症にそれぞれ治療チームを結成し、治療プログラムの運用及び効果検証を行った。 薬物依存症治療については、病棟及び外来でのプログラム実施に加えて、医療機関及び関係機関の見学受入れや、プログラムのモデル実施に対する支援を行うなど、プログラムの普及に努めた。 アルコール依存症治療については、入院治療プログラムの実施、見学受入れに加えて、外来治療プログラムを開始した。 ギャンブル依存症治療については、外来でのプログラムを実施し、積極的に見学を受け入れるとともに、治療体制の強化に努めた。また、府におけるIR招致関連の取組に医療機関として協力し、治療体制の強化に努めた。</td> </tr> <tr> <td>児童思春期精神科医療の充実</td> <td>医療型障がい児入所施設として、自閉スペクトラム障がいのある児童を対象とした療育入院を実施するとともに、発達障がいの診断初診を児童思春期外来において実施した。 待機患児数については、目標を達成しなかったものの、前年度より減少した。令和元年度より医師を増員するとともに、予約方法を変更するなど、今後も待機患児数の減少に向けて取り組む。</td> </tr> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成28年度実績</th> <th>平成29年度実績</th> <th>平成30年度目標</th> <th>平成30年度実績</th> <th>目標差</th> <th>前年度差</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>児童思春期外来延べ患者数（人）</td> <td>11,924</td> <td>11,963</td> <td>—</td> <td>11,810</td> <td>—</td> <td>△ 153</td> </tr> <tr> <td>発達障がい診断初診待機患児数（人）</td> <td>147</td> <td>131</td> <td>100</td> <td>119</td> <td>19</td> <td>△ 12</td> </tr> </tbody> </table>	区分	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度実績	前年度差	措置患者等の受け入れ件数（件）	措置入院	15	20	35	15	緊急措置入院	32	38	38	0	応急入院	2	6	5	△ 1	依存症治療拠点機関	依存症治療推進センターにおいて、薬物・アルコール・ギャンブルの各依存症にそれぞれ治療チームを結成し、治療プログラムの運用及び効果検証を行った。 薬物依存症治療については、病棟及び外来でのプログラム実施に加えて、医療機関及び関係機関の見学受入れや、プログラムのモデル実施に対する支援を行うなど、プログラムの普及に努めた。 アルコール依存症治療については、入院治療プログラムの実施、見学受入れに加えて、外来治療プログラムを開始した。 ギャンブル依存症治療については、外来でのプログラムを実施し、積極的に見学を受け入れるとともに、治療体制の強化に努めた。また、府におけるIR招致関連の取組に医療機関として協力し、治療体制の強化に努めた。	児童思春期精神科医療の充実	医療型障がい児入所施設として、自閉スペクトラム障がいのある児童を対象とした療育入院を実施するとともに、発達障がいの診断初診を児童思春期外来において実施した。 待機患児数については、目標を達成しなかったものの、前年度より減少した。令和元年度より医師を増員するとともに、予約方法を変更するなど、今後も待機患児数の減少に向けて取り組む。	区分	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度目標	平成30年度実績	目標差	前年度差	児童思春期外来延べ患者数（人）	11,924	11,963	—	11,810	—	△ 153	発達障がい診断初診待機患児数（人）	147	131	100	119	19	△ 12	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ評価とする法人の自己評価は妥当であると判断した。
依存症治療拠点機関	平成29年度に設置した依存症治療推進センターを中心に、薬物、アルコール、ギャンブル等の各種依存症の総合的な治療体制の構築及び推進に取り組むとともに、府における依存症治療の普及と発展に取り組む。																																																						
児童思春期精神科医療の充実	自閉症などの発達障がい圏の措置児童を受け入れるとともに、児童思春期外来における発達障がいの診断初診外来の充実に取り組むことで、当面、待機患児数の早期減少に努める。																																																						
区分	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度実績	前年度差																																																			
措置患者等の受け入れ件数（件）	措置入院	15	20	35	15																																																		
	緊急措置入院	32	38	38	0																																																		
	応急入院	2	6	5	△ 1																																																		
依存症治療拠点機関	依存症治療推進センターにおいて、薬物・アルコール・ギャンブルの各依存症にそれぞれ治療チームを結成し、治療プログラムの運用及び効果検証を行った。 薬物依存症治療については、病棟及び外来でのプログラム実施に加えて、医療機関及び関係機関の見学受入れや、プログラムのモデル実施に対する支援を行うなど、プログラムの普及に努めた。 アルコール依存症治療については、入院治療プログラムの実施、見学受入れに加えて、外来治療プログラムを開始した。 ギャンブル依存症治療については、外来でのプログラムを実施し、積極的に見学を受け入れるとともに、治療体制の強化に努めた。また、府におけるIR招致関連の取組に医療機関として協力し、治療体制の強化に努めた。																																																						
児童思春期精神科医療の充実	医療型障がい児入所施設として、自閉スペクトラム障がいのある児童を対象とした療育入院を実施するとともに、発達障がいの診断初診を児童思春期外来において実施した。 待機患児数については、目標を達成しなかったものの、前年度より減少した。令和元年度より医師を増員するとともに、予約方法を変更するなど、今後も待機患児数の減少に向けて取り組む。																																																						
区分	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度目標	平成30年度実績	目標差	前年度差																																																	
児童思春期外来延べ患者数（人）	11,924	11,963	—	11,810	—	△ 153																																																	
発達障がい診断初診待機患児数（人）	147	131	100	119	19	△ 12																																																	

中期計画	年度計画	法人の自己評価		知事の評価																	
		評価の判断理由（実施状況等）		評価	評価	評価の判断理由・評価のコメントなど															
<p>心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律（平成15年法律第110号。以下「医療観察法」という。）に基づく入院対象患者の受入れ</p> <p>発達障がい者（発達障がい児）への医療の提供並びに早期発見及び早期治療に関する研究並びに専門医の育成</p> <p>② 診療機能の充実 精神疾患患者の地域移行の取組を推進するため、福祉事務所や保健所等との適切な役割分担と連携を図り、専門性を発揮した訪問看護の取組を拡充するための体制整備等を行い、在宅療養中の患者のケアを充実する。</p>	<p>医療観察法病棟</p> <p>心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律（平成15年法律第110号。以下「医療観察法」という。）に基づく入院対象者を積極的に受け入れる。</p>	<p>医療観察法病棟</p> <p>医療観察法病棟において、入院患者を積極的に受け入れ、平成30年度の病床利用率は91.8%であった。（前年度：91.7%）</p>	<p>大阪大学、大阪府との三者契約による「発達障がいの子どもへの早期支援のための「気づき」・「診断補助手法の実装」に関する共同研究を推進した。 （ゲイズファインダー実施件数：平成30年度 149件、前年度 162件）</p> <p>大阪府から発達障がい専門医療機関ネットワーク構築事業を受託し、発達障がい精神科医師養成研修として府内の精神科医7名に対し、講義、事例検討、講演、臨床実習を行った。また、発達障がいの診断等に係る医療機関ネットワークに登録された医療機関に対して研修を1回実施した。</p>																		
	<p>ゲイズファインダーを用いた発達障がい患者の早期発見・早期治療に関する研究の推進など、発達障がいに関する医療面の拠点として、「発達障がいの子どもへの早期支援のための「気づき」・診断補助手法の実装」に関する共同研究を引き続き実施する。</p> <p>これまで実施していた発達障がい専門の医師養成に加え、発達障がいの診断等に係る医療機関ネットワークに登録された医療機関に対して、定期的な研修等を通じて連携を図る事業（府からの受託事業・発達障がい専門医療機関ネットワーク構築事業）を府と協力し、実施していく。</p>	<p>大阪府より受託した「枚方版アウトリーチプロジェクト」のうち「未受診者等へのアウトリーチ支援ネットワークモデル事業」については、2名の受療支援活動を実施した。（前年度：2名） （「枚方版アウトリーチプロジェクト」対象者の延べ訪問件数：平成30年度 622回、前年度 591回） また、長期入院患者の地域移行を目指して、多職種が協働し、入院している間から患者との関係を構築することで、患者が自宅や施設へ移行できるように取り組んだ。</p>																			
	<p>アウトリーチの実施</p> <p>地域連携部を中心として、枚方市保健所・支援センター等の関係機関と連携し、治療中断者や未受診者等に対しより早い段階から医療面での支援を行う「枚方版アウトリーチプロジェクト」を実施する。また、退院後を見据えた入院治療を提供するよう、地域医療推進委員会を中心として職員に働きかけていく。</p>	<p>試行段階ではあるものの、ハローワークや就労移行支援事業所や就労継続支援事業所等と協力して、独自の就労支援プログラムを導入した。また、関係機関とは、病状や生活状況に関する情報交換、また必要に応じてカンファレンスを設けるなどの連携を積極的に行った。</p>																			
	<p>デイケアの充実</p> <p>ハローワークや就労支援相談員等と協働した独自の就労支援プログラムを導入する。また、利用者の目的に沿った生活支援及び社会参加に向けた包括的支援を実施するために、関係機関との連携強化を継続する。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成28年度実績</th> <th>平成29年度実績</th> <th>平成30年度実績</th> <th>前年度差</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>デイケアセンター新規入所者数（人）</td> <td>78</td> <td>63</td> <td>95</td> <td>32</td> </tr> <tr> <td>デイケアセンター退所者数（人）</td> <td>73</td> <td>60</td> <td>78</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>うち就労者数（人）</td> <td>26</td> <td>11</td> <td>7</td> <td>△ 4</td> </tr> </tbody> </table>				区分	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度実績	前年度差	デイケアセンター新規入所者数（人）	78	63	95	32	デイケアセンター退所者数（人）	73	60	78	18	うち就労者数（人）
区分	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度実績	前年度差																	
デイケアセンター新規入所者数（人）	78	63	95	32																	
デイケアセンター退所者数（人）	73	60	78	18																	
うち就労者数（人）	26	11	7	△ 4																	

中期計画	年度計画	法人の自己評価			知事の評価																			
		評価の判断理由（実施状況等）		評価	評価	評価の判断理由・評価のコメントなど																		
<p>児童・思春期部門については、教育や子育て、特に保護者との関係が重要であることから、医療、教育及び福祉の連携を強化し、効率的・効果的な医療を提供する。また、待機患児数の解消を目指し、発達障がい診断初診外来の充実に取り組む。</p> <p>医療観察法の規定による対象者や薬物中毒患者等の依存症の患者、重度かつ慢性の患者等、より専門的なケアを必要とする患者を受け入れるとともに、大阪府こころの健康総合センターをはじめ関係機関との連携を図りながら、引き続き精神科救急の中核機関としての役割を果たす。また、増加する認知症患者についても、適切に対応する。</p>	<p>子どもの心の診療拠点病院</p> <p>「子どもの心の診療ネットワーク事業」を推進し、関係機関や福祉施設等と連携し、診療支援・ネットワーク事業や研修事業、府民に対する普及啓発事業などを行う。</p>	<p>子どもの心の診療拠点病院</p> <p>専門職を対象とした講演会の開催や、スーパーバイズ（カウンセラーに対して、より経験が豊富なカウンセラーが助言や指導すること）の実施（月1回）、さらに関係機関や施設等との連携会議の実施など、「子どもの心の診療ネットワーク事業」の推進に取り組んだ。 また、平成30年度から国立成育医療研究センターが作成する子どもの心の診療機関マップに大阪府として参画した。</p>																						
	<p>児童思春期精神科医療の充実</p> <p>自閉症などの発達障がい圏の措置児童を受け入れるとともに、児童思春期外来における発達障がい診断初診外来の充実に取り組むことで、待機患児数の解消を目指し、当面、早期減少に努める。また、児童思春期棟で実施される不登校の中学生を対象とした合宿入院の広報を行い、積極的に患者を受け入れる。</p>	<p>児童思春期精神科医療の充実</p> <p>自閉症児などの精神発達障がい圏の患児の受け入れとともに、発達障がいの診断初診を児童思春期外来において実施した。医師の育成について検討を行うとともに、医師を1名確保する（令和元年度から採用）など、発達障がい診断初診外来の充実に向け取り組んだ。診断初診件数については、目標を下回ったが、これら取組によって、次年度以降も件数の増加に努める。</p> <p>また、児童思春期病棟における、不登校の中学生を対象とした「ひまわり合宿」については、関係機関への広報活動を行うとともに、積極的な患者の受け入れを実施した。（ひまわり合宿の受け入れ人数：平成30年度 11名、前年度 11名）</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成28年度実績</th> <th>平成29年度実績</th> <th>平成30年度目標</th> <th>平成30年度実績</th> <th>目標差 前年度差</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>発達障がい診断初診件数（件）</td> <td>252</td> <td>229</td> <td>350</td> <td>223</td> <td>△ 127 △ 6</td> </tr> <tr> <td>児童思春期病棟病床利用率（%）</td> <td>73.9</td> <td>74.6</td> <td>—</td> <td>69.4</td> <td>— △ 5.2</td> </tr> </tbody> </table>	区分	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度目標	平成30年度実績	目標差 前年度差	発達障がい診断初診件数（件）	252	229	350	223	△ 127 △ 6	児童思春期病棟病床利用率（%）	73.9	74.6	—	69.4	— △ 5.2			
	区分	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度目標	平成30年度実績	目標差 前年度差																		
	発達障がい診断初診件数（件）	252	229	350	223	△ 127 △ 6																		
児童思春期病棟病床利用率（%）	73.9	74.6	—	69.4	— △ 5.2																			
<p>専門治療の提供</p> <p>医療観察法病棟の患者をはじめ治療反応性が悪い患者に対して、積極的にクロザピン、m-ECT（修正型電気けいれん療法）による専門的な治療及び社会心理学的アプローチの導入によって精神症状を改善し、早期の社会復帰を促進する。</p>	<p>専門治療の提供</p> <p>難治性の統合失調症の患者2人に対し、クロザピンの新規導入を実施した。（前年度：9人） m-ECT（修正型電気けいれん療法）については、平成30年度は対象者がいなかったため、実施しなかった。（前年度：6件）</p>																							
<p>訪問看護</p> <p>対象者が入院している間から関係の構築に努め、訪問看護の円滑な導入につなげる。また、福祉事務所や民間訪問看護ステーション等との連携強化に努め、障がい者が自分らしく地域で自立して生活できるよう支援する。</p>	<p>訪問看護</p> <p>訪問看護スタッフが対象者と退院前から関係を構築することや、病棟に勤務する看護師が訪問看護活動に参加することで、退院直後の円滑な訪問看護導入に繋げることができた。また、福祉事務所等の関係者が参加する会議の開催回数を増やすなど、外部との連携強化に努めた。 多職種による訪問看護については、目標を下回ったが、前年度を上回った。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成28年度実績</th> <th>平成29年度実績</th> <th>平成30年度目標</th> <th>平成30年度実績</th> <th>目標差 前年度差</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>訪問看護実施件数（件）</td> <td>5,152</td> <td>5,083</td> <td>5,400</td> <td>5,208</td> <td>△ 192 125</td> </tr> </tbody> </table>	区分	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度目標	平成30年度実績	目標差 前年度差	訪問看護実施件数（件）	5,152	5,083	5,400	5,208	△ 192 125										
区分	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度目標	平成30年度実績	目標差 前年度差																			
訪問看護実施件数（件）	5,152	5,083	5,400	5,208	△ 192 125																			

中期計画	年度計画	法人の自己評価		知事の評価									
		評価の判断理由（実施状況等）	評価	評価	評価の判断理由・評価のコメントなど								
		<p><評価の理由> 数値目標は目標を下回ったものの、措置・緊急措置入院や、各依存症の治療プログラムの運用及び効果検証、発達障がいの診断など、年度計画どおり、役割に応じた医療施策の着実な実施に努めたことから、Ⅲ評価とした。</p>											
エ 大阪国際がんセンター 評価番号【4】													
<p>① 役割に応じた医療施策の実施</p> <p>がん医療の基幹病院として難治性、進行性及び希少がんをはじめ総合的ながん医療の提供</p> <p>特定機能病院として、高度先進医療の提供、新しい診断や治療方法の研究開発及び人材育成機能</p> <p>都道府県がん診療連携拠点病院として、がん患者や家族に対する相談支援や技術支援機能の向上及び医療機関ネットワークの拡充による地域医療連携の強化</p>	<p>他の病院で診療の難しい難治がん、高度進行がん、希少がんを含むあらゆるがん患者に対し、手術、放射線治療、化学療法などを組み合わせた最適な集学的治療を実施する。</p> <p>次の機能を有する病院として専門的取組を行う。</p> <table border="1"> <tr> <td>特定機能病院</td> <td>低侵襲手術、機能温存手術、高精度放射線治療、分子標的治療、免疫治療などの先進医療を実施する。また、新たな診断・治療方法の研究・開発にも取り組む。</td> </tr> <tr> <td>都道府県がん診療連携拠点病院</td> <td>府域のがん診療拠点病院と連携し、大阪府全体のがん医療の向上を図る。</td> </tr> </table> <p>がん登録や予防・検診データの分析を基にした情報を提供し、大阪府のがん対策の推進に寄与する。</p> <p>がん患者及び家族等の支援・相互交流の場やがん患者向けプログラムの提供が可能なトレーニングジム等が設置された患者交流棟を整備する。</p>	特定機能病院	低侵襲手術、機能温存手術、高精度放射線治療、分子標的治療、免疫治療などの先進医療を実施する。また、新たな診断・治療方法の研究・開発にも取り組む。	都道府県がん診療連携拠点病院	府域のがん診療拠点病院と連携し、大阪府全体のがん医療の向上を図る。	<p>○ 大阪国際がんセンターにおける医療施策の実施</p> <p>がん医療の基幹病院として、手術支援ロボットによる手術や内視鏡手術等による低侵襲治療、高精度放射線治療などの先進的な医療を実施するとともに、化学療法については、入院治療から外来治療へと移行を行い、より治療を受けやすい体制を整備し、患者の病態に合わせたがん医療を行った。（外来化学療法件数：平成30年度 20,512件、前年度 17,365件）</p> <p>また、2台目の手術支援ロボットを導入し、新たな治療法の研究にも積極的に取り組んだ。</p> <table border="1"> <tr> <td>特定機能病院</td> <td>特定機能病院として、ロボット手術等による低侵襲治療や高精度放射線治療などの先進的な医療を実施した。また、平成29年度に厚生労働省から「がんゲノム医療連携病院」に指定されており、遺伝子分析診療を開始し、新たな診断や治療方法の開発に取り組んだ。</td> </tr> <tr> <td>都道府県がん診療連携拠点病院</td> <td>都道府県がん診療連携拠点病院として、大阪府がん診療連携協議会や各部会を開催するなど、大阪府域のがん医療の向上を図った。</td> </tr> </table> <p>第3期大阪府がん対策推進計画のモニタリングや詳細分析を行うため、がん登録をはじめとする様々なデータを収集・分析して大阪府や保健所、市町村、がん診療拠点病院、研究機関、患者会に対して情報の提供を行い、大阪府のがん対策の推進に寄与した。</p> <p>平成31年2月末に患者交流棟が竣工した。3月からは調剤薬局や患者交流団体等の営業や活動が開始され、がん患者や家族等の支援や交流の場を整備した。</p>	特定機能病院	特定機能病院として、ロボット手術等による低侵襲治療や高精度放射線治療などの先進的な医療を実施した。また、平成29年度に厚生労働省から「がんゲノム医療連携病院」に指定されており、遺伝子分析診療を開始し、新たな診断や治療方法の開発に取り組んだ。	都道府県がん診療連携拠点病院	都道府県がん診療連携拠点病院として、大阪府がん診療連携協議会や各部会を開催するなど、大阪府域のがん医療の向上を図った。	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ評価とする法人の自己評価は妥当であると判断した。
特定機能病院	低侵襲手術、機能温存手術、高精度放射線治療、分子標的治療、免疫治療などの先進医療を実施する。また、新たな診断・治療方法の研究・開発にも取り組む。												
都道府県がん診療連携拠点病院	府域のがん診療拠点病院と連携し、大阪府全体のがん医療の向上を図る。												
特定機能病院	特定機能病院として、ロボット手術等による低侵襲治療や高精度放射線治療などの先進的な医療を実施した。また、平成29年度に厚生労働省から「がんゲノム医療連携病院」に指定されており、遺伝子分析診療を開始し、新たな診断や治療方法の開発に取り組んだ。												
都道府県がん診療連携拠点病院	都道府県がん診療連携拠点病院として、大阪府がん診療連携協議会や各部会を開催するなど、大阪府域のがん医療の向上を図った。												

中期計画	年度計画	法人の自己評価			知事の評価																														
		評価の判断理由（実施状況等）		評価	評価	評価の判断理由・評価のコメントなど																													
<p>② 診療機能の充実</p> <p>がん医療の基幹病院として、悪性腫瘍疾患患者に対する診断から集学的治療、緩和ケアまで、安心かつQOLの向上を目指した総合的な医療とケアを提供する。また、難治性・進行性・希少がん患者に対し、手術、放射線治療、化学療法等を組み合わせた最適な集学的治療を推進する。</p> <p>特定機能病院として、病院、がん予防情報センター及び研究所の横断的連携を進め、高度先進医療を提供する。併せて、悪性腫瘍疾患患者に対する診断から治療まで、新しい診断や治療方法の研究開発等を行う。</p> <p>都道府県がん診療連携拠点病院として、府域の医療機関との地域医療連携を強化するため、医師の相互派遣の実施や診療連携ネットワークシステムの構築を図る。</p>	がん医療の基幹病院	悪性腫瘍疾患患者に対する診断から集学的治療、緩和ケアまで、安心かつQOLの向上を目指した総合的な医療とケアを提供する。	がん医療の基幹病院	がん医療の基幹病院として、悪性腫瘍疾患患者の適切な診断を行うとともに、患者の病態に応じた手術、放射線治療及び化学療法等を組み合わせた集学的治療を実施するとともに、患者のQOL向上に重点を置いた医療を提供した。																															
	集学的治療の実施	難治がん、高度進行がん、希少がんを含むあらゆるがん患者に対し、手術、放射線治療、化学療法などを組み合わせた最適な集学的治療を実施する。	集学的治療の実施	がん医療の基幹病院として、他の病院で受入れ困難な難治がんや希少がんなどの患者を積極的に受け入れ、手術支援ロボットによる手術や内視鏡手術等による低侵襲治療や高精度放射線治療などの先進的な医療、化学療法などを組み合わせた最適な集学的治療を実施した。																															
	循環器系合併症	がん治療に伴う循環器系合併症に対する専門医療を提供する。	循環器系合併症	腫瘍循環器科において、循環器疾患を併存するハイリスク患者に対応するため、24時間体制で診療を実施するとともに、がん治療の安全な実施に努めた。また、がん治療に伴う循環器系合併症患者の増加に対応するため、マスター負荷心電図等の検査枠を拡大した。さらに、がん治療に伴う循環器系合併症患者に対する診療依頼に円滑に対応し、がん治療の安全な実施に寄与した。																															
	特定機能病院	特定機能病院として、病院、がん対策センター及び研究所との間で横断的連携を進め、高度専門医療を提供するとともに、がん診療・がん対策が向上するための新しい取組を図る。	特定機能病院	難治がん・希少がんの新規分子標的治療法やがん免疫療法の創薬研究に向け、民間企業との共同研究部の設置に向けた体制整備を進めた。																															
	新しい診断や治療方法の開発	研究所との連携、他施設との共同研究も含め、新しい診断や治療方法の臨床研究・開発に取り組む。	新しい診断や治療方法の開発	がん治療における腫瘍治療装置を開発し、企業と共同で特許を出願した。																															
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成28年度実績</th> <th>平成29年度実績</th> <th>平成30年度目標</th> <th>平成30年度実績</th> <th>目標差 前年度差</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>手術実施件数（件）</td> <td>3,390</td> <td>3,929</td> <td>4,200</td> <td>4,014</td> <td>△ 186 85</td> </tr> <tr> <td>放射線治療件数（件）</td> <td>31,109</td> <td>35,016</td> <td>35,000</td> <td>35,587</td> <td>587 571</td> </tr> <tr> <td>新入院患者数（人）</td> <td>11,711</td> <td>13,226</td> <td>14,994</td> <td>13,925</td> <td>△ 1,069 699</td> </tr> <tr> <td>1日あたり初診患者数（人/日）</td> <td>28.1</td> <td>36.3</td> <td>40.0</td> <td>35.8</td> <td>△ 4.2 △ 0.5</td> </tr> </tbody> </table>		区分	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度目標	平成30年度実績	目標差 前年度差	手術実施件数（件）	3,390	3,929	4,200	4,014	△ 186 85	放射線治療件数（件）	31,109	35,016	35,000	35,587	587 571	新入院患者数（人）	11,711	13,226	14,994	13,925	△ 1,069 699	1日あたり初診患者数（人/日）	28.1	36.3	40.0	35.8	△ 4.2 △ 0.5		
区分	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度目標	平成30年度実績	目標差 前年度差																														
手術実施件数（件）	3,390	3,929	4,200	4,014	△ 186 85																														
放射線治療件数（件）	31,109	35,016	35,000	35,587	587 571																														
新入院患者数（人）	11,711	13,226	14,994	13,925	△ 1,069 699																														
1日あたり初診患者数（人/日）	28.1	36.3	40.0	35.8	△ 4.2 △ 0.5																														

中期計画	年度計画	法人の自己評価			知事の評価												
		評価の判断理由（実施状況等）		評価	評価	評価の判断理由・評価のコメントなど											
<p>重粒子線がん治療施設等と相互に連携し、最先端のがん治療を府民に提供する。</p> <p>医療における国際貢献の一環として、府域における外国人患者への高度先進医療の提供や、外国人医療従事者への技術指導及び研修を実施するための体制整備等を行う。</p>	<table border="1"> <tr> <td>院内感染対策</td> <td>地域の医療機関との相互ラウンド及びカンファレンスを実施し、院外からの意見反映など情報共有を促進し、院内感染対策を強化する。</td> </tr> <tr> <td>地域医療連携システムの活用</td> <td>地域医療連携システム「おおてまえネット」を活用し、大手前病院と連携しながら、効率的な医療の提供を行う。また、大阪重粒子線センターとも同システムの構築を図る。</td> </tr> <tr> <td>国際部の設置</td> <td>国際部を設置し、ホームページの多言語対応の充実等、外国人患者の受入れ体制の整備を進める。</td> </tr> </table>	院内感染対策	地域の医療機関との相互ラウンド及びカンファレンスを実施し、院外からの意見反映など情報共有を促進し、院内感染対策を強化する。	地域医療連携システムの活用	地域医療連携システム「おおてまえネット」を活用し、大手前病院と連携しながら、効率的な医療の提供を行う。また、大阪重粒子線センターとも同システムの構築を図る。	国際部の設置	国際部を設置し、ホームページの多言語対応の充実等、外国人患者の受入れ体制の整備を進める。	<table border="1"> <tr> <td>院内感染対策</td> <td>森ノ宮病院や大手前病院との相互ラウンドを実施するとともに、ボバース記念病院とのカンファレンスを開催するなど、地域医療機関との連携を通して感染防止対策の強化を図った。</td> </tr> <tr> <td>地域医療連携システムの活用</td> <td>地域医療連携システム「おおてまえネット」を活用し、大手前病院と連携しながら、診療データの相互閲覧を行い、より効率的な医療の提供を行った。また、大阪重粒子線センターとの同システムの構築については、連絡会議を実施し、連携が円滑に進むよう全職員を対象に説明会を実施した。</td> </tr> <tr> <td>国際部の設置</td> <td>外国人患者のスムーズな受入れを行うため、国際部を設置した。また、電話医療通訳「メディフォン」の導入やホームページ、パンフレットの多言語化を図るなど、外国人患者が治療を受けやすい環境整備を行った。（外国人患者受入れ数：平成30年度 97名、前年度 31名）</td> </tr> </table>	院内感染対策	森ノ宮病院や大手前病院との相互ラウンドを実施するとともに、ボバース記念病院とのカンファレンスを開催するなど、地域医療機関との連携を通して感染防止対策の強化を図った。	地域医療連携システムの活用	地域医療連携システム「おおてまえネット」を活用し、大手前病院と連携しながら、診療データの相互閲覧を行い、より効率的な医療の提供を行った。また、大阪重粒子線センターとの同システムの構築については、連絡会議を実施し、連携が円滑に進むよう全職員を対象に説明会を実施した。	国際部の設置	外国人患者のスムーズな受入れを行うため、国際部を設置した。また、電話医療通訳「メディフォン」の導入やホームページ、パンフレットの多言語化を図るなど、外国人患者が治療を受けやすい環境整備を行った。（外国人患者受入れ数：平成30年度 97名、前年度 31名）			
	院内感染対策	地域の医療機関との相互ラウンド及びカンファレンスを実施し、院外からの意見反映など情報共有を促進し、院内感染対策を強化する。															
地域医療連携システムの活用	地域医療連携システム「おおてまえネット」を活用し、大手前病院と連携しながら、効率的な医療の提供を行う。また、大阪重粒子線センターとも同システムの構築を図る。																
国際部の設置	国際部を設置し、ホームページの多言語対応の充実等、外国人患者の受入れ体制の整備を進める。																
院内感染対策	森ノ宮病院や大手前病院との相互ラウンドを実施するとともに、ボバース記念病院とのカンファレンスを開催するなど、地域医療機関との連携を通して感染防止対策の強化を図った。																
地域医療連携システムの活用	地域医療連携システム「おおてまえネット」を活用し、大手前病院と連携しながら、診療データの相互閲覧を行い、より効率的な医療の提供を行った。また、大阪重粒子線センターとの同システムの構築については、連絡会議を実施し、連携が円滑に進むよう全職員を対象に説明会を実施した。																
国際部の設置	外国人患者のスムーズな受入れを行うため、国際部を設置した。また、電話医療通訳「メディフォン」の導入やホームページ、パンフレットの多言語化を図るなど、外国人患者が治療を受けやすい環境整備を行った。（外国人患者受入れ数：平成30年度 97名、前年度 31名）																
<p><評価の理由> あらゆるがん患者に対し、手術、放射線治療、化学療法などを組み合わせた最適な集学的治療を実施し、ESD実施件数は目標を上回った。また、2台目の手術支援ロボットを導入し、新たな治療法の研究にも積極的に取り組んだ。 さらに、がん治療における腫瘍治療装置の開発や、外国人患者受入れ体制の整備等、計画を着実に実施したことから、Ⅲ評価とした。</p>																	
<p>オ 大阪母子医療センター</p> <p>評価番号【5】</p> <p>① 役割に応じた医療施策の実施 総合周産期母子医療センターとして、ハイリスク妊産婦、疾病新生児・超低出生体重児に対する母体及び胎児から新生児に対する高度専門的な診療機能</p>	<p>双胎間輸血症候群レーザー治療などの胎児治療を実施するとともにハイリスク妊産婦、超低出生体重児、先天性異常のある新生児の治療等、周産期医療施設として中核的役割を果たす。</p>	<p>○ 大阪母子医療センターにおける医療施策の実施 総合周産期母子医療センターとして、新生児や胎児に対する手術などの高度専門医療を提供した。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成28年度実績</th> <th>平成29年度実績</th> <th>平成30年度実績</th> <th>前年度差</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>双胎間輸血症候群レーザー治療（件）</td> <td>31</td> <td>39</td> <td>37</td> <td>△ 2</td> </tr> </tbody> </table>	区分	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度実績	前年度差	双胎間輸血症候群レーザー治療（件）	31	39	37	△ 2	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ評価とする法人の自己評価は妥当であると判断した。		
区分	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度実績	前年度差													
双胎間輸血症候群レーザー治療（件）	31	39	37	△ 2													

中期計画	年度計画	法人の自己評価			知事の評価																																																												
		評価の判断理由（実施状況等）		評価	評価	評価の判断理由・評価のコメントなど																																																											
<p>OGCS（産婦人科診療相互援助システム）及びNMCS（新生児診療相互援助システム）の基幹病院としての中核機能</p> <p>小児がんに代表される小児難治性疾患や先天性心疾患に代表される新生児・乳幼児外科疾患に対する高度専門医療の提供</p>	<p>次の機能を有する病院として専門的取組を行う。</p> <table border="1"> <tr> <td>OGCS及びNMCS基幹病院</td> <td>重症妊婦・病的新生児の緊急搬送を迅速にするための調整機能の役割を果たす。</td> </tr> <tr> <td>小児がん拠点病院</td> <td>小児がん相談窓口の運営など、患者支援等の体制整備を進めるとともに、近畿ブロック小児がん診療病院連絡会議等を通じて近畿圏の小児がん診療病院との連携を強化し、積極的に患者を受け入れる。</td> </tr> </table> <p>新生児外科手術、3歳未満児の開心術や小児人工内耳手術、小児に対する腎移植などの高度専門医療を推進する。</p> <p>患者にとって負担の少ない骨髄非破壊的前処置による造血幹細胞移植法（RIST法）による造血幹細胞移植を推進する。</p>	OGCS及びNMCS基幹病院	重症妊婦・病的新生児の緊急搬送を迅速にするための調整機能の役割を果たす。	小児がん拠点病院	小児がん相談窓口の運営など、患者支援等の体制整備を進めるとともに、近畿ブロック小児がん診療病院連絡会議等を通じて近畿圏の小児がん診療病院との連携を強化し、積極的に患者を受け入れる。	<p>OGCS 産婦人科診療相互援助システム（OGCS）及び新生児診療相互援助システム（NMCS）を経由した重症妊婦・病的新生児の緊急搬送を積極的に受け入れ、府域における安定的な周産期医療体制の確保に取り組んだ。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成28年度実績</th> <th>平成29年度実績</th> <th>平成30年度目標</th> <th>平成30年度実績</th> <th>目標差 前年度差</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1,000g未満の超低出生体重児取扱件数（件）</td> <td>34</td> <td>35</td> <td>35</td> <td>40</td> <td>5 5</td> </tr> </tbody> </table> <p>小児がん拠点病院 小児がん拠点病院として、「患者相談窓口」において小児がん相談に対応するとともに、「近畿ブロック小児がん拠点病院協議会」などを開催し、近畿圏の小児がん診療病院間との連携強化を図った。 血液・腫瘍科において、小児がん患者に対し、造血幹細胞移植法（RIST法）を26件実施し、患者にとって負担の少ない移植を推進した。（前年度：29件）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成28年度実績</th> <th>平成29年度実績</th> <th>平成30年度目標</th> <th>平成30年度実績</th> <th>目標差 前年度差</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小児がん長期フォロー延べ患者数（件）</td> <td>322</td> <td>353</td> <td>350</td> <td>388</td> <td>38 35</td> </tr> </tbody> </table> <p>新生児を含む1歳未満児に対する外科手術、3歳未満児の開心術や小児人工内耳手術、小児に対する腎移植などの高度専門医療の提供に取り組んだ。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成28年度実績</th> <th>平成29年度実績</th> <th>平成30年度実績</th> <th>前年度差</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>新生児を含む1歳未満児に対する手術件数（件）</td> <td>809</td> <td>770</td> <td>765</td> <td>△ 5</td> </tr> <tr> <td>開心術件数（3歳未満）（件）</td> <td>128</td> <td>120</td> <td>103</td> <td>△ 17</td> </tr> <tr> <td>先天性横隔膜ヘルニア患者数（件）</td> <td>6</td> <td>7</td> <td>8</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>人工内耳手術件数（件）</td> <td>17</td> <td>11</td> <td>12</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>小児に対する腎移植（件）</td> <td>2</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table> <p>造血幹細胞移植法（RIST法）を26件実施し、患者にとって負担の少ない移植を推進した。（前年度：29件）</p>			区分	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度目標	平成30年度実績	目標差 前年度差	1,000g未満の超低出生体重児取扱件数（件）	34	35	35	40	5 5	区分	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度目標	平成30年度実績	目標差 前年度差	小児がん長期フォロー延べ患者数（件）	322	353	350	388	38 35	区分	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度実績	前年度差	新生児を含む1歳未満児に対する手術件数（件）	809	770	765	△ 5	開心術件数（3歳未満）（件）	128	120	103	△ 17	先天性横隔膜ヘルニア患者数（件）	6	7	8	1	人工内耳手術件数（件）	17	11	12	1	小児に対する腎移植（件）	2	4	4	0			
	OGCS及びNMCS基幹病院	重症妊婦・病的新生児の緊急搬送を迅速にするための調整機能の役割を果たす。																																																															
小児がん拠点病院	小児がん相談窓口の運営など、患者支援等の体制整備を進めるとともに、近畿ブロック小児がん診療病院連絡会議等を通じて近畿圏の小児がん診療病院との連携を強化し、積極的に患者を受け入れる。																																																																
区分	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度目標	平成30年度実績	目標差 前年度差																																																												
1,000g未満の超低出生体重児取扱件数（件）	34	35	35	40	5 5																																																												
区分	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度目標	平成30年度実績	目標差 前年度差																																																												
小児がん長期フォロー延べ患者数（件）	322	353	350	388	38 35																																																												
区分	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度実績	前年度差																																																													
新生児を含む1歳未満児に対する手術件数（件）	809	770	765	△ 5																																																													
開心術件数（3歳未満）（件）	128	120	103	△ 17																																																													
先天性横隔膜ヘルニア患者数（件）	6	7	8	1																																																													
人工内耳手術件数（件）	17	11	12	1																																																													
小児に対する腎移植（件）	2	4	4	0																																																													

中期計画	年度計画	法人の自己評価		知事の評価																																							
		評価の判断理由（実施状況等）	評価	評価	評価の判断理由・評価のコメントなど																																						
<p>高度な集中治療等重篤小児の超急性期を含む救命救急医療の提供</p> <p>高度専門医療を受けた小児及び家族に対する心のケア、子どもの心の診療機能の充実並びに在宅医療の機能強化</p> <p>発達障がい児への医療の提供、発達障がいの早期発見及び早期治療に関する研究の推進並びに専門医の育成</p> <p>妊産婦や小児の疾患に関する新しい診断や治療方法の研究開発及び人材育成機能</p>	<p>高度な集中治療など、重篤小児の超急性期を含む救命救急医療を提供する。</p> <p>在宅において高度なケアが必要な患者が、家族とともに過ごせるよう在宅医療への移行を進める。また、低出生体重児の発達フォローや、様々な先天性疾患など高度専門医療を受けた子どもの心と体と家族の心に寄り添う長期フォロー体制の確立を目指す。</p> <p>ゲイズファインダーを導入した「発達障がい気づき診断」を継続し、引き続き保護者等からの意見の聞き取りを行う。大阪母子医療センターと大阪大学との契約による「発達障がいの子どもへの早期支援のための「気づき」・診断補助手法の実装」に関する共同研究を推進する。</p> <p>これまで実施していた発達障がい専門の医師養成に加え、発達障がいの診断等に係る医療機関ネットワークに登録された医療機関に対して、定期的な研修等を通じて連携を図る事業（府からの受託事業・発達障がい専門医療機関ネットワーク構築事業）を府と協力し、実施していく。</p> <p>研究所企画調整会議において承認された課題について研究を推進し、研究成果については外部評価委員会において評価を受ける。また、臨床医等の研究能力向上のための支援を行う。</p>	<p>病院間搬送患者の受入れなど、重篤小児の救命救急医療を提供した。（病院間搬送による重篤小児患者の受入れ件数：平成30年度 96件、前年度 100件） また、平成30年11月に大阪府から小児救命救急センターに指定された。</p> <p>患者支援センター在宅医療支援部門において、高度なケアが必要な患者や家族からの相談に対し、専門スタッフと連携しながら対応した。（延べ利用人数：平成30年度 5,031人、前年度 4,831人） また、在宅移行支援について検討するため、多職種によるカンファレンスを週1回開催した。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成29年度実績</th> <th>平成30年度実績</th> <th>前年度差</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>新生児科発達外来延べ患者数（人）</td> <td>679</td> <td>682</td> <td>3</td> </tr> </tbody> </table> <p>ゲイズファインダーを用いた検査については、大阪府からの受託事業である「発達障がい気づき診断調査事業」は中断となったが、検査の精度向上と適応拡大の研究として、引き続き実施した。（ゲイズファインダー実施件数：平成30年度 10件、前年度 12件）</p> <p>「発達障がいの子どもへの早期支援のための「気づき」・診断補助手法の実装」に関する共同研究については、引き続き実施した。</p> <p>大阪府からの受託事業である「発達障がい専門医療機関ネットワーク構築事業」について、府域の発達障がいに係る診療連携体制の構築及び診断医師の養成研修を行った。また、過去の参加者のフォローアップ研修を実施した。</p> <p>研究所においては、母性小児疾患総合診断解析センターとして、原因不明の先天性等小児疾患に対して系統的に診断・解析を実施した。 また、研究所評価委員会を開催し、外部委員による研究成果の審議を行うとともに、病院部門所属の医師6名を臨床研究員として受け入れ、指導した。</p> <p>（研究成果等の外部発表数及び競争的資金獲得件数）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">平成28年度実績</th> <th rowspan="2">平成29年度実績</th> <th rowspan="2">平成30年度目標</th> <th rowspan="2">平成30年度実績</th> <th colspan="2">目標差</th> </tr> <tr> <th>前年度差</th> <th>目標差</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>国際学術誌発表論文（件）</td> <td>36</td> <td>45</td> <td>30</td> <td>30</td> <td>0</td> <td>△ 15</td> </tr> <tr> <td>学会発表（件）</td> <td>40</td> <td>59</td> <td>40</td> <td>46</td> <td>6</td> <td>△ 13</td> </tr> <tr> <td>外部資金獲得件数（件）</td> <td>30</td> <td>26</td> <td>25</td> <td>25</td> <td>0</td> <td>△ 1</td> </tr> </tbody> </table>	区分	平成29年度実績	平成30年度実績	前年度差	新生児科発達外来延べ患者数（人）	679	682	3	区分	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度目標	平成30年度実績	目標差		前年度差	目標差	国際学術誌発表論文（件）	36	45	30	30	0	△ 15	学会発表（件）	40	59	40	46	6	△ 13	外部資金獲得件数（件）	30	26	25	25	0	△ 1			
区分	平成29年度実績	平成30年度実績	前年度差																																								
新生児科発達外来延べ患者数（人）	679	682	3																																								
区分	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度目標	平成30年度実績	目標差																																						
					前年度差	目標差																																					
国際学術誌発表論文（件）	36	45	30	30	0	△ 15																																					
学会発表（件）	40	59	40	46	6	△ 13																																					
外部資金獲得件数（件）	30	26	25	25	0	△ 1																																					

中期計画	年度計画	法人の自己評価			知事の評価																																		
		評価の判断理由（実施状況等）			評価	評価の判断理由・評価のコメントなど																																	
<p>② 診療機能の充実</p> <p>OGCS（産婦人科診療相互援助システム）及びNMCS（新生児診療相互援助システム）の基幹病院としての役割を拡充し、府域における安定的な周産期医療体制の確保に取り組む。</p> <p>新手術棟を運用し、重篤小児患者の受入れを担う府域全体のPICU（小児集中治療室）としての機能を発揮する体制を構築するとともに、小児患者に対するチーム医療を推進する。</p> <p>高度小児医療機能の向上を図るとともに、小児期に発症した慢性疾患を持ちながら成人になっていく子どもと家族の成人診療への移行の支援を充実する。</p> <p>研究所では、病院と連携して小児の難治性疾患や早産・不育症等の原因不明疾患に対する研究開発を行い、母性・小児疾患総合診断解析センターとしての機能を果たすと同時に、新しい治療法の開発を行う。</p>	<p>OGCS及びNMCS基幹病院</p> <p>重症妊婦・病的新生児の緊急搬送を迅速にするための調整機能の役割を果たす。</p>	<p>OGCS及びNMCS基幹病院</p> <p>産婦人科診療相互援助システム（OGCS）、新生児診療相互援助システム（NMCS）の基幹病院として、安定的な周産期医療体制の確保に努めた。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th>平成28年度実績</th> <th>平成29年度実績</th> <th>平成30年度目標</th> <th>平成30年度実績</th> <th>目標差</th> </tr> <tr> <th></th> <th></th> <th></th> <th></th> <th>前年度差</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>母体緊急搬送受入件数（件）</td> <td>256</td> <td>232</td> <td>200</td> <td>201</td> <td>1 △ 31</td> </tr> <tr> <td>母体緊急搬送コーディネート件数（件）</td> <td>451</td> <td>391</td> <td>—</td> <td>346</td> <td>— △ 45</td> </tr> <tr> <td>新生児緊急搬送受入件数（件）</td> <td>89</td> <td>95</td> <td>—</td> <td>83</td> <td>— △ 12</td> </tr> <tr> <td>新生児緊急搬送コーディネート件数（件）</td> <td>217</td> <td>209</td> <td>—</td> <td>182</td> <td>— △ 27</td> </tr> </tbody> </table>	区分	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度目標	平成30年度実績	目標差					前年度差	母体緊急搬送受入件数（件）	256	232	200	201	1 △ 31	母体緊急搬送コーディネート件数（件）	451	391	—	346	— △ 45	新生児緊急搬送受入件数（件）	89	95	—	83	— △ 12	新生児緊急搬送コーディネート件数（件）	217	209	—	182	— △ 27		
	区分	平成28年度実績		平成29年度実績	平成30年度目標	平成30年度実績	目標差																																
						前年度差																																	
	母体緊急搬送受入件数（件）	256	232	200	201	1 △ 31																																	
	母体緊急搬送コーディネート件数（件）	451	391	—	346	— △ 45																																	
新生児緊急搬送受入件数（件）	89	95	—	83	— △ 12																																		
新生児緊急搬送コーディネート件数（件）	217	209	—	182	— △ 27																																		
<p>大阪府重篤小児患者受入ネットワーク</p> <p>重篤小児患者を一般小児病院等からの要請に応じ受け入れる。また、PICUと一体運用となる1階東病棟を開設し、長期にPICUに滞在する患者の移行等に活用することで、新規救急患者の受入れや効率的な病床運用につなげる。</p>	<p>大阪府重篤小児患者受入ネットワーク</p> <p>重篤小児に対する救急医療の充実を図るため、麻酔科及び集中治療科レジデントの確保に取り組んだ。また、集中治療科の医師が外部の救急医療施設において実務研修を実施し、最先端の小児救急医療の習得に努めた。（病院間搬送による重篤小児患者の受入れ件数：平成30年度 96件、前年度 100件）</p>																																						
<p>長期療養児の在宅移行</p> <p>地域の医療機関等との連携を迅速に進めるため、大阪母子医療センターのカルテ情報が閲覧できるICTシステムを構築する。</p>	<p>長期療養児の在宅移行</p> <p>患者にとって安全で質の高い診療を切れ目なく行うことを目的に、平成29年度末に導入した地域診療情報連携システム（南大阪MOCOネット）を運用した。（平成31年3月末時点の利用機関数：診療所9ヶ所、病院3ヶ所、訪問看護ステーション3ヶ所、保健所3ヶ所） また、在宅移行支援パスについて、8症例に導入し、長期入院児の在宅療養への円滑な移行を図った。（前年度：13例）</p>																																						
<p>長期フォロー体制の整備</p> <p>性分化疾患患者など先天性泌尿器科疾患患者の思春期以降の心のフォローを含め、子どもと家族の心と体の長期フォロー体制を整備する。</p>	<p>長期フォロー体制の整備</p> <p>高度医療を受けた子どもの心理的社会的予後の向上のために、医療トラウマや愛着障害からくる、子どもの精神問題や虐待の予防から治療について心理士を中心に取り組んだ。また、ホスピタルプレイ士による療養支援の拡充など、高度医療を受けた子ども・家族に対する心のケアの充実を努めた。（ホスピタルプレイ士等の患児への関わり実績：平成30年度 延べ6,182件、前年度 6,348件）</p>																																						
<p>診断・解析技術の開発及び実施</p> <p>高度医療に必要な診断・解析技術を開発し、実施する。</p>	<p>診断・解析技術の開発及び実施</p> <p>原因不明の先天性小児疾患等に対して系統的に診断・解析を行う「母性小児疾患総合診断解析センター」の充実を図り、外部医療機関からの依頼に対応し、672件の診断・解析を実施した。（前年度：593件） （先天性小児疾患等の解析の例） 母体SNP解析 先天性グリコシル化異常症解析 など</p>																																						

中期計画	年度計画	法人の自己評価		知事の評価					
		評価の判断理由（実施状況等）	評価	評価	評価の判断理由・評価のコメントなど				
	<table border="1"> <tr> <td>WHO指定研究協力センター</td> <td>海外医療スタッフの研修受入れを積極的に行う。</td> </tr> </table>	WHO指定研究協力センター	海外医療スタッフの研修受入れを積極的に行う。	<table border="1"> <tr> <td>WHO指定研究協力センター</td> <td>WHO指定研究協力センターとして、海外からの医療スタッフの研修の受入れを行った。 ・ JICA関西より、課題別研修「周産期・新生児保健医療」コース 10/1～10/19 7ヶ国10名（前年度：5カ国7名）</td> </tr> </table>	WHO指定研究協力センター	WHO指定研究協力センターとして、海外からの医療スタッフの研修の受入れを行った。 ・ JICA関西より、課題別研修「周産期・新生児保健医療」コース 10/1～10/19 7ヶ国10名（前年度：5カ国7名）			
WHO指定研究協力センター	海外医療スタッフの研修受入れを積極的に行う。								
WHO指定研究協力センター	WHO指定研究協力センターとして、海外からの医療スタッフの研修の受入れを行った。 ・ JICA関西より、課題別研修「周産期・新生児保健医療」コース 10/1～10/19 7ヶ国10名（前年度：5カ国7名）								
		<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p><評価の理由> 重症妊婦・病的新生児の受入れに努め、母体緊急搬送受入件数は目標を上回った。また、小児救命救急センターに指定され、救急搬送の患者を積極的に受け入れた。さらに、ICTシステムの運用など、年度計画の項目を着実に実施したことから、Ⅲ評価とした。</p> </div>							
③ 新しい治療法の開発・研究等									
評価番号【6】 各病院の特徴を活かし、がんや循環器疾患、消化器疾患、結核・感染症、精神科緊急・救急、リハビリテーション等、高度専門医療分野で臨床研究に取り組むとともに、大学等の研究機関及び企業との共同研究等に取り組む、府域の医療水準の向上を図る。	府域の医療水準の向上を図るため、各病院の特徴を活かし、がんや循環器疾患、消化器疾患、結核・感染症、精神科緊急措置・精神科救急、リハビリテーションなど、高度専門医療分野で臨床研究や、大学等の研究機関及び企業との共同研究などに取り組む。	○ 各病院の臨床研究における取組状況 【急性期C】 臨床研究・治験活性化協議会や大阪大学医学部付属病院IRB/REC事務局セミナー、大阪臨床研究ネットワーク（OCR-net）等に参加し、臨床研究に関する情報を収集を行った。また、臨床研究に関する講習会を開催し、臨床研究に関する教育を推進した。 【はびきのC】 肺気腫を含む呼吸器疾患、結核・感染症、肺がん等の悪性腫瘍、アトピー性皮膚炎やアレルギー疾患等の領域で臨床研究を実施するとともに、大学等の研究機関や企業との共同研究に取り組んだ。 【精神 C】 臨床研究倫理審査委員会を開催し、臨床研究を20件承認した。 【国際がんC】 臨床研究支援室を設置し、臨床現場との連携を促進するための機能を拡張した。 【母子 C】 国等からの競争的研究費、民間団体からの研究助成金、企業等からの奨励寄付金等の外部の研究資金の獲得を推進した。また、臨床研究支援室による研究倫理セミナーの開催等、研究倫理に関する教育を推進し、平成30年度においては111件の臨床研究を承認した。	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ評価とする法人の自己評価は妥当であると判断した。				

中期計画	年度計画	法人の自己評価		知事の評価	
		評価の判断理由（実施状況等）	評価	評価	評価の判断理由・評価のコメントなど
<p>大阪国際がんセンター及び大阪母子医療センターにおいて、研究所と病院が連携し、がんや母子医療の分野において、診断技法及び治療法の開発並びに臨床応用のための研究に積極的に取り組む。大阪国際がんセンター研究所においては、開発した特許技術によって、生きたがん細胞や遺伝子異常の検索技術を活用しがん治療創薬研究に貢献する。また、研究所評価委員会において、専門的見地から研究成果の外部評価を引き続き実施する。</p> <p>大阪国際がんセンター及び大阪母子医療センターにおいて、がん予防情報センター（大阪母子医療センターにあつては、母子保健情報センター）と病院が連携し、疫学調査を進め、疾病予防や臨床応用に役立てることにより、府民の健康づくりに貢献する。</p> <p>大阪国際がんセンターがん予防情報センターにおいて、大阪府がん登録事業を継続実施し、各協力病院の全国がん登録の整備を進めることにより、更なる登録情報の精度向上を図る。</p>	<p>(大阪国際がんセンター・大阪母子医療センター研究所)</p> <p>大阪国際がんセンター (研究所) 病院・がん対策センターとの連携及び、大学・企業等との共同研究を促進し検体の集積、標本作成、培養法・保存法における最適化条件の改善に取り組むとともに、がん専門病院として、発がんのメカニズム・がん診療の診断・治療法の開発に取り組む。また、新規培養技術を用いた治療効果予測による個別化がん医療とがん細胞バンク創設による新規創薬へ貢献する。 研究所評価委員会を開催し、専門的見地から研究成果の外部評価を引き続き実施する。 国等からの競争的研究費等の外部資金の獲得を進め、臨床研究の充実を図る。</p> <p>(がん対策センター) 病院と連携し、院内がん登録及び患者の予後調査に関するデータを活用した臨床疫学研究を引き続き推進する。 健康と生活習慣に関するアンケート調査、院内がん登録資料、診療科データベースをリンクして作成した統合データベースを用いて、がん患者の予後予測モデルを作成する。また、がん患者の診断時の生活習慣を解析し、長期予後への影響について分析を行う。 がん循環器病予防センターとの連携により、がん検診の効果検証や受診率の向上及び精度の評価を行う。 がん登録推進法（全国がん登録）の大阪府がん登録室として、大阪府がん登録を円滑に行う。また、府域の全医療機関を対象に、全国がん登録や院内がん登録の実務者に対する支援を行う。</p>	<p>大阪国際がんセンター 研究所で開発したがん細胞培養法iGCを用いて、新たながん細胞特性（接着による転移の亢進など）の分子機構の解析を行うなど、新たな治療方法の開発に取り組んだ。また、抗がん剤の感受性テストの臨床研究が承認された。</p> <p>ヒト検体を用いて、がん患者における抗腫瘍免疫応答についての研究を進め、論文を発表するとともに、企業との共同研究も開始した。</p> <p>平成31年1月18日に研究所評価委員会を開催し、外部委員により研究所の研究課題及び研究業績に関する審議を行い、今後の研究の進展等について提言を得た。</p> <p>国等からの競争的研究費の申請を行うとともに、企業等との共同研究の推進を図り、令和元年度から共同研究を実施する。また、大阪国際がんセンターの研究者が、年1名にのみ授与される「カールマイヤー国際賞」を日本国内の研究者としては初めて受賞した。</p> <p>院内がん登録資料および地域がん登録資料を活用して、甲状腺癌罹患率の推移等について解析した研究成果を発信した。また、これまでとは異なる視点から多重がん研究を立案し分析を進めた。重粒子治療に注目し、放射線治療の違いによる続発がん罹患を分析した国際共同研究を実施し、論文を出版した。</p> <p>がんの予後予測モデルに関しては、担当者の退職により、論文草稿及び予後予測モデルの統計的手法の精緻化をもって研究を終了した。</p> <p>市町村で実施しているがん検診の個別受診勧奨と受診率について、その関連を検討した結果を大阪府に報告した。また、大阪府が設定した「検診の重点受診勧奨対象者層」における調査結果を大阪府と大阪がん循環器病予防センターと共有し、個別受診勧奨を行う際の啓発資料とした。</p> <p>さらに、新たな検査方法や検査システムの変更など、今後も継続したモニタリングとデータ収集を行い、許容値との比較や指標の差異の有無を検証し、検診の精度向上に向けて大阪府とともに取り組む。</p> <p>がん診療拠点病院や指定診療所など、約370施設の医療機関から平成29年診断全国がん登録対象症例の届出を約106,000件受け付け、全国がん登録システムでの登録を完了した。また、大阪府がん診療連携協議会がん登録・情報提供部会を開催し、府内医療機関向けに全国がん登録や院内がん登録の実務者支援を行った。</p>			

中期計画	年度計画	法人の自己評価		知事の評価	
		評価の判断理由（実施状況等）	評価	評価	評価の判断理由・評価のコメントなど
	<p>大阪母子医療センター</p> <p>（研究所） 原因不明疾患に対して高度な解析と診断を行う「母性・小児疾患解析・総合診断支援センター機能」を果たすことで研究成果を医療に還元する。また、連携大学院制度等の活用により大学院生の受け入れを進め、研究人材の育成に努める。</p> <p>研究所評価委員会を開催し、専門的見地から研究成果の外部評価を引き続き実施する。</p> <p>国等からの競争的研究費等の外部資金の獲得を進め、臨床研究の充実を図る。</p> <p>（母子保健情報センター） 母子保健調査室が中心となり、エコチル調査を実施するなど母子保健疫学データの発信、市町村が実施する乳幼児健診等母子保健事業の精度管理等を推進し、母子保健分野における疫学調査等の研究に継続して取り組む。</p> <p>大阪急性期・総合医療センター及び大阪国際がんセンターにおいては、臨床研究法（平成29年法律第16号）に定める認定臨床研究審査委員会の認定取得を目指す。</p>	<p>大阪母子医療センター</p> <p>（再掲）原因不明の先天性小児疾患等に対して系統的に診断・解析を行う「母性小児疾患総合診断解析センター」の充実を図り、外部医療機関からの依頼に対応し、672件の診断・解析を実施した。（前年度：593件） （先天性小児疾患等の解析の例） 母体SNP解析 先天性グリコシル化異常症解析 など</p> <p>また、連携大学からの大学院生を2名受け入れた。（前年度：2名）</p> <p>平成30年9月21日に研究所評価委員会を開催し、外部委員により研究所の研究課題及び研究業績に関する審議を行い、今後の研究の進展等について提言を得た。</p> <p>国等からの競争的研究費、民間企業等との共同研究による資金、企業等からの奨励寄付金等の外部の研究資金の獲得を進め、25件の外部資金を獲得した。</p> <p>大阪母子医療センターの母子保健関連業務を取りまとめて発信することで、保健機関との更なる連携強化、大阪府内母子保健活動の向上に寄与することを目的に、母子保健情報センター報告書を作成した。その中で、大阪府母子保健に関する疫学データについて、全国との比較、二次医療圏ごと、市町村ごとに分析し、情報発信を行った。</p> <p>大阪府内の調査対象地域の子ども及びその母親を対象に、大阪大学とともにエコチル調査（子どもの健康と環境に関する全国調査：環境省委託事業）を実施した。平成31年3月末における、子どもの参加者は7,665人、母親の延べ参加者は7,569人であった。また、エコチル調査地域運営協議会及び産科・小児科合同専門委員会を開催し、エコチル調査の進捗状況、調査分析結果等を報告した。</p> <p>妊娠に関する悩みの相談窓口「にんしんSOS」の平成30年度相談件数については2,682件の相談が寄せられた。（前年度：2,101件）</p> <p>大阪急性期・総合医療センター及び大阪国際がんセンターにおいては、臨床研究法（平成29年法律第16号）に定める認定臨床研究審査委員会の認定を平成30年7月に取得した。</p> <p><評価の理由> 各病院における臨床研究の実施や、大阪国際がんセンター・大阪母子医療センターの研究所、大阪国際がんセンターにおけるがん対策センター、大阪母子医療センターにおける母子保健情報センターの取組について、計画を着実に実施したことから、Ⅲ評価とした。</p>			

中期計画	年度計画	法人の自己評価		知事の評価	
		評価の判断理由（実施状況等）	評価	評価	評価の判断理由・評価のコメントなど
④ 治験の推進 評価番号【7】 各病院の特性及び機能を活かして、治療の効果及び安全性を高めるため、積極的に治験に取り組み、新薬の開発等に貢献する。	各病院においては、医薬品の臨床試験の実施に関する省令（平成9年厚生省令第28号）及び臨床研究法（平成29年法律第16号）を遵守しつつ、新薬開発への貢献や治療の効果検証及び安全性を高めるため、積極的に治験を実施する。	<p>○ 各病院での治験に対する取組 各病院においては、新薬開発への貢献や治療の効果及び安全性を高めるため、積極的に治験を実施するとともに、以下の取組を実施した。</p> <p>【急性期C】 医師の意欲を向上するため、臨床研究に関する講習会にて、治験同意取得上位の医師を表彰した。</p> <p>【はびきのC】 肺がん領域で3試験、皮膚科領域で2試験、アレルギー疾患領域で2試験、耳鼻咽喉科領域で1試験の治験を新たに開始した。</p> <p>【精神 C】 新たに4件の治験を受託するとともに、収益増につながる使用成績調査や特定使用成績調査を積極的に実施した。</p> <p>【国際がんC】 治療の効果検証及び安全性を高めるため、積極的に治験を実施し、治験実施件数は過去最高の137件となった。（前年度：120件）</p> <p>【母子 C】 センターの特性及び機能をいかして、新薬の開発等に貢献するため、国際共同治験・医師主導治験を含め積極的に新規治験を受託した。（新規契約数：8件）</p>	III	III	III評価とする法人の自己評価は妥当であると判断した。

中期計画	年度計画	法人の自己評価			知事の評価																																																																																																								
		評価の判断理由（実施状況等）	評価	評価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど																																																																																																								
		<p>○ 各病院における治験の実施件数</p> <p>治験実施件数（単位：件）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>病院名</th> <th>区分</th> <th>平成28年度 実績</th> <th>平成29年度 実績</th> <th>平成30年度 実績</th> <th>前年度差</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">急性期C</td> <td>治験実施件数</td> <td>47</td> <td>54</td> <td>55</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>治験実施症例数</td> <td>430</td> <td>431</td> <td>483</td> <td>52</td> </tr> <tr> <td>受託研究件数</td> <td>175</td> <td>180</td> <td>180</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">はびきのC</td> <td>治験実施件数</td> <td>32</td> <td>37</td> <td>38</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>治験実施症例数</td> <td>149</td> <td>167</td> <td>164</td> <td>△ 3</td> </tr> <tr> <td>受託研究件数</td> <td>62</td> <td>66</td> <td>53</td> <td>△ 13</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">精神C</td> <td>治験実施件数</td> <td>7</td> <td>7</td> <td>6</td> <td>△ 1</td> </tr> <tr> <td>治験実施症例数</td> <td>13</td> <td>20</td> <td>9</td> <td>△ 11</td> </tr> <tr> <td>受託研究件数</td> <td>7</td> <td>8</td> <td>10</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">国際がんC</td> <td>治験実施件数</td> <td>100</td> <td>120</td> <td>137</td> <td>17</td> </tr> <tr> <td>治験実施症例数</td> <td>616</td> <td>689</td> <td>817</td> <td>128</td> </tr> <tr> <td>受託研究件数</td> <td>93</td> <td>105</td> <td>104</td> <td>△ 1</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">母子C</td> <td>治験実施件数</td> <td>21</td> <td>23</td> <td>26</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>治験実施症例数</td> <td>40</td> <td>52</td> <td>48</td> <td>△ 4</td> </tr> <tr> <td>受託研究件数</td> <td>87</td> <td>70</td> <td>61</td> <td>△ 9</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">法人全体</td> <td>治験実施件数</td> <td>207</td> <td>241</td> <td>262</td> <td>21</td> </tr> <tr> <td>治験実施症例数</td> <td>1248</td> <td>1359</td> <td>1521</td> <td>162</td> </tr> <tr> <td>受託研究件数</td> <td>424</td> <td>429</td> <td>408</td> <td>△ 21</td> </tr> </tbody> </table>			病院名	区分	平成28年度 実績	平成29年度 実績	平成30年度 実績	前年度差	急性期C	治験実施件数	47	54	55	1	治験実施症例数	430	431	483	52	受託研究件数	175	180	180	0	はびきのC	治験実施件数	32	37	38	1	治験実施症例数	149	167	164	△ 3	受託研究件数	62	66	53	△ 13	精神C	治験実施件数	7	7	6	△ 1	治験実施症例数	13	20	9	△ 11	受託研究件数	7	8	10	2	国際がんC	治験実施件数	100	120	137	17	治験実施症例数	616	689	817	128	受託研究件数	93	105	104	△ 1	母子C	治験実施件数	21	23	26	3	治験実施症例数	40	52	48	△ 4	受託研究件数	87	70	61	△ 9	法人全体	治験実施件数	207	241	262	21	治験実施症例数	1248	1359	1521	162	受託研究件数	424	429	408	△ 21			
病院名	区分	平成28年度 実績	平成29年度 実績	平成30年度 実績	前年度差																																																																																																								
急性期C	治験実施件数	47	54	55	1																																																																																																								
	治験実施症例数	430	431	483	52																																																																																																								
	受託研究件数	175	180	180	0																																																																																																								
はびきのC	治験実施件数	32	37	38	1																																																																																																								
	治験実施症例数	149	167	164	△ 3																																																																																																								
	受託研究件数	62	66	53	△ 13																																																																																																								
精神C	治験実施件数	7	7	6	△ 1																																																																																																								
	治験実施症例数	13	20	9	△ 11																																																																																																								
	受託研究件数	7	8	10	2																																																																																																								
国際がんC	治験実施件数	100	120	137	17																																																																																																								
	治験実施症例数	616	689	817	128																																																																																																								
	受託研究件数	93	105	104	△ 1																																																																																																								
母子C	治験実施件数	21	23	26	3																																																																																																								
	治験実施症例数	40	52	48	△ 4																																																																																																								
	受託研究件数	87	70	61	△ 9																																																																																																								
法人全体	治験実施件数	207	241	262	21																																																																																																								
	治験実施症例数	1248	1359	1521	162																																																																																																								
	受託研究件数	424	429	408	△ 21																																																																																																								
		<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p><評価の理由> 各病院において治験を積極的に受託し、治験実施件数は法人全体で前年度よりも増加するなど、計画を着実に達成したことから、Ⅲ評価とした。</p> </div>																																																																																																											

中期計画	年度計画	法人の自己評価		知事の評価								
		評価の判断理由（実施状況等）	評価	評価	評価の判断理由・評価のコメントなど							
⑤ 災害時における医療協力等												
<p>評価番号【8】</p> <p>大阪急性期・総合医療センターは、基幹災害医療センターとして、救急患者の受入れ、患者及び医薬品等の広域搬送拠点としての活動等に加え、地域災害医療センター間の調整を行うとともに、災害発生時に備え、府、地域医療機関等の参加による災害医療訓練や府内の災害医療機関の医療従事者を対象とする災害医療研修を実施する。</p> <p>また、全国のDMAT (Disaster Medical Assistance Team) 研修修了者を対象に国の委託事業であるNBC (Nuclear Biological Chemical) 災害及びテロ対策等医療に関する研修を実施する。</p> <p>大阪急性期・総合医療センターは、院内に整備した大阪府災害医療コントロールセンターにおいて、必要な情報を一元的に集約し、的確な判断及び対応につなげるための指揮命令機能を発揮する。</p> <p>大阪急性期・総合医療センター以外の4病院は、特定診療災害医療センターとして、専門医療を必要とする患者の受入れ、医療機関間の調整、医療機関への支援等を行う。</p> <p>大阪精神医療センターでは、災害時において府の精神科基幹病院として、治療をはじめこころのケアを行う体制の中心的な役割を担うとともに、府のDPAT (Disaster Psychiatric Assistance Team) の先遣隊として登録し、災害発生時には精神保健医療機能の支援を実施する。</p>												
<p>災害時には、大阪府地域防災計画及び災害対策規程に基づき、府の指示に応じるとき、又は自ら必要と認めるときは、基幹災害医療センター及び特定診療災害医療センターとして、患者を受け入れるとともに、医療スタッフを現地に派遣して医療救護活動を実施する。</p>		<table border="1"> <tr> <td>大阪急性期・総合医療センター</td> <td> <p>基幹災害医療センターとして、BCPマニュアルに応じた災害医療訓練を実施する。</p> <p>大阪府災害医療コントロールセンターにおいて情報集約機能や指揮命令機能が発揮できるよう備える。</p> <p>DMAT (災害医療派遣チーム) 研修への職員派遣を行う。また、全国のDMAT研修修了者を対象に、財団法人日本中毒情報センターが行う「NBC災害・テロ対策研修」(国の委託事業。医師、看護師及び放射線技師等で構成されるチームで参加)を実施する。</p> </td> </tr> <tr> <td>大阪精神医療センター</td> <td> <p>府のDPAT (災害派遣精神医療チーム) 及びDPATの先遣隊として登録し、災害発生時の精神保健医療機能の支援を実施する。また、府が開催するDPAT研修に協力し、DPAT隊の養成に貢献する。</p> </td> </tr> <tr> <td>大阪急性期・総合医療センター以外の4病院</td> <td> <p>特定診療災害医療センターとして、災害時に即応できるよう、職員への連絡体制、配備計画等の整備に努めるとともに、災害時には、専門医療を必要とする疾病患者に対応する医療機関間の調整及び医療機関への支援、関係情報の収集・提供を行う。</p> </td> </tr> </table>		大阪急性期・総合医療センター	<p>基幹災害医療センターとして、BCPマニュアルに応じた災害医療訓練を実施する。</p> <p>大阪府災害医療コントロールセンターにおいて情報集約機能や指揮命令機能が発揮できるよう備える。</p> <p>DMAT (災害医療派遣チーム) 研修への職員派遣を行う。また、全国のDMAT研修修了者を対象に、財団法人日本中毒情報センターが行う「NBC災害・テロ対策研修」(国の委託事業。医師、看護師及び放射線技師等で構成されるチームで参加)を実施する。</p>	大阪精神医療センター	<p>府のDPAT (災害派遣精神医療チーム) 及びDPATの先遣隊として登録し、災害発生時の精神保健医療機能の支援を実施する。また、府が開催するDPAT研修に協力し、DPAT隊の養成に貢献する。</p>	大阪急性期・総合医療センター以外の4病院	<p>特定診療災害医療センターとして、災害時に即応できるよう、職員への連絡体制、配備計画等の整備に努めるとともに、災害時には、専門医療を必要とする疾病患者に対応する医療機関間の調整及び医療機関への支援、関係情報の収集・提供を行う。</p>	III	III	III評価とする法人の自己評価は妥当であると判断した。
大阪急性期・総合医療センター	<p>基幹災害医療センターとして、BCPマニュアルに応じた災害医療訓練を実施する。</p> <p>大阪府災害医療コントロールセンターにおいて情報集約機能や指揮命令機能が発揮できるよう備える。</p> <p>DMAT (災害医療派遣チーム) 研修への職員派遣を行う。また、全国のDMAT研修修了者を対象に、財団法人日本中毒情報センターが行う「NBC災害・テロ対策研修」(国の委託事業。医師、看護師及び放射線技師等で構成されるチームで参加)を実施する。</p>											
大阪精神医療センター	<p>府のDPAT (災害派遣精神医療チーム) 及びDPATの先遣隊として登録し、災害発生時の精神保健医療機能の支援を実施する。また、府が開催するDPAT研修に協力し、DPAT隊の養成に貢献する。</p>											
大阪急性期・総合医療センター以外の4病院	<p>特定診療災害医療センターとして、災害時に即応できるよう、職員への連絡体制、配備計画等の整備に努めるとともに、災害時には、専門医療を必要とする疾病患者に対応する医療機関間の調整及び医療機関への支援、関係情報の収集・提供を行う。</p>											
		<table border="1"> <tr> <td>大阪急性期・総合医療センター</td> <td> <p>基幹災害医療センターとして、平成30年9月11日に災害医療訓練を行うとともに、BCPマニュアルの改訂を行った。</p> <p>また、平成30年6月18日の大阪府北部地震、平成30年9月4日の台風21号の際には、行政支援のために大阪府庁に職員を派遣した。</p> <p>さらに、大阪DMAT研修を平成30年9月1日～2日に、NBC災害・テロ対策研修を平成30年11月1日～3日に実施した。</p> </td> </tr> <tr> <td>大阪精神医療センター</td> <td> <p>DPAT先遣隊研修や大阪府地震・津波災害対策訓練に参加するとともに、先遣隊研修の内容に関する伝達研修を院内で実施した。また、大阪府DPAT養成研修に職員3名が参加し、新たなDPAT隊隊員の養成に貢献した。</p> </td> </tr> <tr> <td>大阪急性期・総合医療センター以外の4病院</td> <td> <p>【はびきのC】 防火・防災委員会及びワーキンググループにおいて大阪はびきの医療センター版BCPの作成を進め、平成31年3月に策定した。</p> <p>【精神 C】 大阪府北部地震の際には、大阪府DPAT調整本部にコーディネーターとして職員1名を派遣した。また、この地震や台風等の経験を踏まえ、大阪精神医療センター版BCPを更新した。</p> <p>【国際がんC】 事業継続計画策定委員会を設置し、大阪国際がんセンター版BCPの作成を進めた。</p> <p>【母子 C】 防災対策マニュアルに基づき、災害時を想定した訓練を実施した。また、平成31年3月に大阪母子医療センター版BCPを策定した。</p> </td> </tr> </table>		大阪急性期・総合医療センター	<p>基幹災害医療センターとして、平成30年9月11日に災害医療訓練を行うとともに、BCPマニュアルの改訂を行った。</p> <p>また、平成30年6月18日の大阪府北部地震、平成30年9月4日の台風21号の際には、行政支援のために大阪府庁に職員を派遣した。</p> <p>さらに、大阪DMAT研修を平成30年9月1日～2日に、NBC災害・テロ対策研修を平成30年11月1日～3日に実施した。</p>	大阪精神医療センター	<p>DPAT先遣隊研修や大阪府地震・津波災害対策訓練に参加するとともに、先遣隊研修の内容に関する伝達研修を院内で実施した。また、大阪府DPAT養成研修に職員3名が参加し、新たなDPAT隊隊員の養成に貢献した。</p>	大阪急性期・総合医療センター以外の4病院	<p>【はびきのC】 防火・防災委員会及びワーキンググループにおいて大阪はびきの医療センター版BCPの作成を進め、平成31年3月に策定した。</p> <p>【精神 C】 大阪府北部地震の際には、大阪府DPAT調整本部にコーディネーターとして職員1名を派遣した。また、この地震や台風等の経験を踏まえ、大阪精神医療センター版BCPを更新した。</p> <p>【国際がんC】 事業継続計画策定委員会を設置し、大阪国際がんセンター版BCPの作成を進めた。</p> <p>【母子 C】 防災対策マニュアルに基づき、災害時を想定した訓練を実施した。また、平成31年3月に大阪母子医療センター版BCPを策定した。</p>			
大阪急性期・総合医療センター	<p>基幹災害医療センターとして、平成30年9月11日に災害医療訓練を行うとともに、BCPマニュアルの改訂を行った。</p> <p>また、平成30年6月18日の大阪府北部地震、平成30年9月4日の台風21号の際には、行政支援のために大阪府庁に職員を派遣した。</p> <p>さらに、大阪DMAT研修を平成30年9月1日～2日に、NBC災害・テロ対策研修を平成30年11月1日～3日に実施した。</p>											
大阪精神医療センター	<p>DPAT先遣隊研修や大阪府地震・津波災害対策訓練に参加するとともに、先遣隊研修の内容に関する伝達研修を院内で実施した。また、大阪府DPAT養成研修に職員3名が参加し、新たなDPAT隊隊員の養成に貢献した。</p>											
大阪急性期・総合医療センター以外の4病院	<p>【はびきのC】 防火・防災委員会及びワーキンググループにおいて大阪はびきの医療センター版BCPの作成を進め、平成31年3月に策定した。</p> <p>【精神 C】 大阪府北部地震の際には、大阪府DPAT調整本部にコーディネーターとして職員1名を派遣した。また、この地震や台風等の経験を踏まえ、大阪精神医療センター版BCPを更新した。</p> <p>【国際がんC】 事業継続計画策定委員会を設置し、大阪国際がんセンター版BCPの作成を進めた。</p> <p>【母子 C】 防災対策マニュアルに基づき、災害時を想定した訓練を実施した。また、平成31年3月に大阪母子医療センター版BCPを策定した。</p>											

中期計画	年度計画	法人の自己評価		知事の評価	
		評価の判断理由（実施状況等）	評価	評価	評価の判断理由・評価のコメントなど
<p>新型インフルエンザ発生時の対応を行う体制やその他の感染症の集団発生に備えた受入体制を整備するなど、府立の病院として医療面の危機対応を行う。</p>	<p>各病院においては、府の「新型インフルエンザ等対策行動計画」における各発生段階において、各病院の専門的機能に応じた役割を積極的に果たすとともに、診療継続計画の見直し等により、受入れ体制の整備を進める。また、指定地方公共機関として、府と連携し、新型インフルエンザ等対策を図っていくため、機構本部が作成した業務計画に基づき、発生時に備えるとともに、緊急事態宣言時等においては、必要に応じ医療従事者の派遣等の協力を行う。</p> <p>その他の感染症についても、集団発生時の対応についてマニュアルの策定等、受入れ体制の整備を進めるとともに、感染制御における5病院の協力体制の構築を図る。</p>	<p>○ 感染症発生時の各病院の対応 感染対策について、各病院においては以下の取組を実施した。</p> <p>【急性期C】 院内季節性インフルエンザ感染対策マニュアルを更新し、麻疹診療対応マニュアルを作成した。また、総合内科において、感染症コンサルト診療を積極的に行った。（コンサルト診療件数：平成30年度 469件、前年度 434件）</p> <p>【はびきのC】 「麻疹」疑い患者の受入れ体制を整備し、受入れ時のフォローシートを作成した。</p> <p>【精神 C】 大阪府からの要請に基づき、結核入院の患者の受入れを実施した。</p> <p>【国際がんC】 感染症について、集団発生時に対応できるよう、職員連絡体制や受入れ体制の整備を進めた。</p> <p>【母子 C】 新型インフルエンザ等の感染症の蔓延期において、小児の重症患者を中心とした患者の受入れを実施した。また、周産期医療の専門的基幹として診療を継続するため、新型インフルエンザ等診療継続計画書案（BCP）を作成した。</p>			
		<p><評価の理由> 大阪急性期・総合医療センターをはじめとした災害時の体制整備の取組や感染症発生時の対応など、各病院において計画を着実に実施したことから、Ⅲ評価とした。</p>			

中期計画	年度計画	法人の自己評価		知事の評価																																				
		評価の判断理由（実施状況等）	評価	評価	評価の判断理由・評価のコメントなど																																			
<p>第1 府民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>1 高度専門医療の提供及び医療水準の向上 (2) 診療機能充実のための基盤づくり</p>																																								
中期目標	<p>① 優秀な医療人材の確保及び育成</p> <ul style="list-style-type: none"> 各病院の医療水準の向上を図るため、医師や看護師等、優れた医療人材の確保に努めること。 また、優秀な人材を育成するため、教育研修機能の充実及びキャリアパスづくりや職務に関連する専門資格の取得等をサポートする仕組みづくりを進めること。 更に、勤務形態の多様化等、職員にとって働きやすい環境づくりに努めるとともに、共同研究への参画等職員の活躍の場を広げ、魅力ある病院づくりを目指すこと。 <p>② 施設、医療機器等の計画的な整備</p> <ul style="list-style-type: none"> 各病院における診療機能の充実、医療の安全性向上及び患者等の満足度向上を図るため、施設の改修及び医療機器の更新等を計画的に進めること。 																																							
① 優れた医療スタッフの確保及び育成																																								
<p>評価番号【9】</p> <p>各病院の医療水準の向上を図るとともに、医療環境の変化に対応した医療の提供体制を構築するため、医師や看護師をはじめとした優れた医療人材の確保に努める。</p> <p>優秀な人材を育成するため、教育研修機能の充実を進めるとともに、職員の職務に関連する専門資格の取得等、自己研鑽をサポートする仕組みを構築する。</p>	<p>i 人材の確保</p> <p>より優れた医療スタッフを確保するため、柔軟な勤務形態や採用のあり方について検討を行うとともに、人事評価制度の運用により、医療スタッフの資質、能力及び勤務意欲の更なる向上に努める。</p> <p>法人内の各病院での兼任や応援など、医療スタッフの人材交流を目的とした協力体制等を整備する。</p> <p>ア 医師</p> <p>医師の採用にあたっては、大学医学部、医科大学等への働きかけを行い、各病院のホームページによる公募などを通じ、各病院が有する高度で専門的な医療機能を積極的に発信し、より優れた人材を確保できるよう工夫していく。</p> <p>臨床研修医及びレジデントへの魅力ある研修プログラムを提供するとともに、各病院のホームページ等による効果的なPRや、大阪府医療人キャリアセンター（府委託事業：大阪急性期・総合医療センターに設置）の運営など、臨床研修医及びレジデントの確保に努める。</p>	<p>○ 病院間での協力体制</p> <p>大阪急性期・総合医療センターから大阪母子医療センターへ、臓器移植対応のために医師の兼務による専門的技術応援を実施するなど、効率的・効果的に医療機能を発揮するため、法人間で医師の兼務や応援を必要に応じて実施した。</p> <p>○ 医療技術職の連携強化及び人材交流促進に向けた組織体制の強化</p> <p>各病院の連携強化及び人材交流促進を目的とした職種の取りまとめポストの設置を検討し、平成31年4月1日より新設した。</p> <p>また、リハビリテーション部門の人材育成強化のために、研修プログラム（初期研修の場合、採用後に各病院を巡回して研修を実施）を策定した。（施行は平成31年4月1日）</p> <p>○ 医師の確保に関する取組及び就労環境の改善</p> <p>各病院において、大学病院等に積極的な働きかけを行うなど、医師やレジデントの確保に努めた。また、ホームページにおける公募や病院見学会の実施、ホームページ等に研修プログラム内容を掲載するなど、採用PR等の強化を行い、5病院全体の医師の現員数（平成31年3月1日時点）は、前年度から11人増加した。</p> <p>医師の現員数（単位：人）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>病院名</th> <th>平成29年3月1日時点 現員数</th> <th>平成30年3月1日時点 現員数</th> <th>平成31年3月1日時点 現員数</th> <th>前年度差</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>急性期C</td> <td>159</td> <td>170</td> <td>172</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>はびきのC</td> <td>63</td> <td>68</td> <td>70</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>精神C</td> <td>29</td> <td>29</td> <td>28</td> <td>△1</td> </tr> <tr> <td>国際がんC</td> <td>131</td> <td>138</td> <td>141</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>母子C</td> <td>107</td> <td>106</td> <td>111</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>489</td> <td>511</td> <td>522</td> <td>11</td> </tr> </tbody> </table> <p>※研究職を除き、歯科医師を含む。</p>	病院名	平成29年3月1日時点 現員数	平成30年3月1日時点 現員数	平成31年3月1日時点 現員数	前年度差	急性期C	159	170	172	2	はびきのC	63	68	70	2	精神C	29	29	28	△1	国際がんC	131	138	141	3	母子C	107	106	111	5	合計	489	511	522	11	III	III	III評価とする法人の自己評価は妥当であると判断した。
病院名	平成29年3月1日時点 現員数	平成30年3月1日時点 現員数	平成31年3月1日時点 現員数	前年度差																																				
急性期C	159	170	172	2																																				
はびきのC	63	68	70	2																																				
精神C	29	29	28	△1																																				
国際がんC	131	138	141	3																																				
母子C	107	106	111	5																																				
合計	489	511	522	11																																				

中期計画	年度計画	法人の自己評価		知事の評価																																																																																						
		評価の判断理由（実施状況等）	評価	評価	評価の判断理由・評価のコメントなど																																																																																					
多数を占める女性医療スタッフが働きやすい職場環境の改善に取り組む。	<p>イ 看護師 優れた人材を確保するため、ホームページや民間の広報媒体の活用、就職説明会への参加など、効果的なPRに努めるとともに、採用選考については、看護師募集案内を年度当初に一斉オープンするなど計画的に採用選考を実施する。また、必要に応じて採用試験の実施回数や実施時期、実施会場等を見直す。</p> <p>大阪府立大学等の看護師養成学校との連携強化を図り、看護実習受入れ校等からの看護師確保に努める。</p> <p>ウ 医療技術職員 専門技能の有資格者など能力が高い人材を確保できるよう、受験資格、採用方法や選考実施時期等を工夫するとともに効果的なPRに努める。特に確保が困難な職種については、ホームページ以外にもハローワークや職能団体の募集広告を活用し、人材確保に努める。</p>	<p>○ 看護師等の確保に関する取組・就労環境の改善等 企業主催の病院合同説明会及び大学主催の学内説明会及びホームページへの掲載等において、機構の教育体制等を効果的にPRしたことにより、多くの受験申込者を確保できた。また、看護師募集案内を年度当初に一斉オープンし、計画的な採用選考の実施に取り組み、優れた人材の確保に努めた結果、5病院全体の看護師の現員数（平成31年3月1日時点）は、前年度から80人増加した。</p> <p>看護師の現員数（単位：人）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>病院名</th> <th>平成29年3月1日時点 現員数</th> <th>平成30年3月1日時点 現員数</th> <th>平成31年3月1日時点 現員数</th> <th>前年度差</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>急性期C</td> <td>820</td> <td>847</td> <td>902</td> <td>55</td> </tr> <tr> <td>はびきのC</td> <td>367</td> <td>370</td> <td>365</td> <td>△ 5</td> </tr> <tr> <td>精神C</td> <td>288</td> <td>286</td> <td>285</td> <td>△ 1</td> </tr> <tr> <td>国際がんC</td> <td>504</td> <td>536</td> <td>549</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>母子C</td> <td>494</td> <td>520</td> <td>538</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>2,473</td> <td>2,559</td> <td>2,639</td> <td>80</td> </tr> </tbody> </table> <p>看護師の応募人数及び採用人数（人）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>病院名</th> <th>平成28年度 実績</th> <th>平成29年度 実績</th> <th>平成30年度 実績</th> <th>前年度差</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>応募人数（人）</td> <td>450</td> <td>579</td> <td>567</td> <td>△ 12</td> </tr> <tr> <td>採用人数（人）</td> <td>274</td> <td>241</td> <td>237</td> <td>△ 4</td> </tr> </tbody> </table> <p>学内就職説明会への参加など、機構の教育体制等のPRに努めた結果、看護実習受入れ校等から、多くの受験申込者を確保できた。</p> <p>○ 医療技術職員の確保に向けた取組 ホームページ及び民間の広報媒体の活用や、就職説明会及び大学学内就職説明会にも参加するなど、優れた人材の確保に努めた結果、5病院全体の医療技術職員の現員数（平成31年3月1日時点）は、前年度から33人増加した。</p> <p>医療技術職の現員数（単位：人）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>病院名</th> <th>平成29年3月1日時点 現員数</th> <th>平成30年3月1日時点 現員数</th> <th>平成31年3月1日時点 現員数</th> <th>前年度差</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>急性期C</td> <td>239</td> <td>246</td> <td>262</td> <td>16</td> </tr> <tr> <td>はびきのC</td> <td>62</td> <td>61</td> <td>68</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>精神C</td> <td>40</td> <td>41</td> <td>40</td> <td>△ 1</td> </tr> <tr> <td>国際がんC</td> <td>149</td> <td>160</td> <td>170</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>母子C</td> <td>92</td> <td>89</td> <td>90</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>582</td> <td>597</td> <td>630</td> <td>33</td> </tr> </tbody> </table>	病院名	平成29年3月1日時点 現員数	平成30年3月1日時点 現員数	平成31年3月1日時点 現員数	前年度差	急性期C	820	847	902	55	はびきのC	367	370	365	△ 5	精神C	288	286	285	△ 1	国際がんC	504	536	549	13	母子C	494	520	538	18	合計	2,473	2,559	2,639	80	病院名	平成28年度 実績	平成29年度 実績	平成30年度 実績	前年度差	応募人数（人）	450	579	567	△ 12	採用人数（人）	274	241	237	△ 4	病院名	平成29年3月1日時点 現員数	平成30年3月1日時点 現員数	平成31年3月1日時点 現員数	前年度差	急性期C	239	246	262	16	はびきのC	62	61	68	7	精神C	40	41	40	△ 1	国際がんC	149	160	170	10	母子C	92	89	90	1	合計	582	597	630	33			
病院名	平成29年3月1日時点 現員数	平成30年3月1日時点 現員数	平成31年3月1日時点 現員数	前年度差																																																																																						
急性期C	820	847	902	55																																																																																						
はびきのC	367	370	365	△ 5																																																																																						
精神C	288	286	285	△ 1																																																																																						
国際がんC	504	536	549	13																																																																																						
母子C	494	520	538	18																																																																																						
合計	2,473	2,559	2,639	80																																																																																						
病院名	平成28年度 実績	平成29年度 実績	平成30年度 実績	前年度差																																																																																						
応募人数（人）	450	579	567	△ 12																																																																																						
採用人数（人）	274	241	237	△ 4																																																																																						
病院名	平成29年3月1日時点 現員数	平成30年3月1日時点 現員数	平成31年3月1日時点 現員数	前年度差																																																																																						
急性期C	239	246	262	16																																																																																						
はびきのC	62	61	68	7																																																																																						
精神C	40	41	40	△ 1																																																																																						
国際がんC	149	160	170	10																																																																																						
母子C	92	89	90	1																																																																																						
合計	582	597	630	33																																																																																						

中期計画	年度計画	法人の自己評価		知事の評価																															
		評価の判断理由（実施状況等）	評価	評価	評価の判断理由・評価のコメントなど																														
	<p>医療専門資格手当の周知を行う等、専門性の高い資格を有する優れた医療技術職の確保に努める。</p>	<p>ホームページに研修内容を掲載することで、人材育成に力を入れていることをPRした結果、薬剤師の応募人数は前年度を上回った。</p> <p>薬剤師の応募人数及び採用人数（人）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>病院名</th> <th>平成28年度実績</th> <th>平成29年度実績</th> <th>平成30年度実績</th> <th>前年度差</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>応募人数（人）</td> <td>27</td> <td>44</td> <td>52</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>採用人数（人）</td> <td>8</td> <td>16</td> <td>14</td> <td>△ 2</td> </tr> </tbody> </table>	病院名	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度実績	前年度差	応募人数（人）	27	44	52	8	採用人数（人）	8	16	14	△ 2																		
病院名	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度実績	前年度差																															
応募人数（人）	27	44	52	8																															
採用人数（人）	8	16	14	△ 2																															
	<p>ii 職務能力の向上 大学等関係機関との連携の強化や教育研修の充実等により、資質に優れた医師の育成に努める。</p> <p>臨床研修医及びレジデントについて教育研修プログラムの充実に努めるとともに、大阪府医療人キャリアセンターを運営するなど引き続き医師の職務能力向上に努める。</p> <p>長期自主研修支援制度の利用を推進し、認定看護師、専門看護師及び助産師の資格取得を促進する。</p> <p>大阪母子医療センターにおいて重篤小児の集中看護に関する専門看護師育成を目的とした院内研修の機会を設けるなど、専門性に合わせた研修を各病院が実施する。</p> <p>資格取得者は、その知識・看護技術等を活用し、院内外で講師等として指導を行うとともに、専門外来などを通じて専門知識や技術を患者に提供する。</p> <p>新人看護師の研修については、厚生労働省の「新人看護職員研修ガイドライン」を踏まえて実施する。</p>	<p>○ 職務能力の向上 大阪大学や地域の医療機関と連携し、臨床研修医に対して、初期研修や後期研修のプログラムを提供した。 また、大阪医療人キャリアセンターにおいては、大阪府内で医学部を設置している5つの大学や地域の中核的な役割を担っている病院との協力のもとで構築する人材育成ネットワークの中で、個々の医師の意向も踏まえながら、適切な時期に適切な研修・指導を受け、効率的にキャリアアップが図れるように、情報提供と調整を行った。</p> <p>○ 資格取得の促進 長期自主研修支援制度について、がん化学療法認定看護師教育課程の受講等、平成30年度は6人の看護師が利用した。</p> <p>認定看護師及び専門看護師取得者の状況（平成31年3月31日現在）（単位：人）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>病院名</th> <th>平成28年度実績</th> <th>平成29年度実績</th> <th>平成30年度実績</th> <th>前年度差</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>急性期C</td> <td>23</td> <td>24</td> <td>25</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>はびきのC</td> <td>8</td> <td>9</td> <td>9</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>精神C</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>国際がんC</td> <td>20</td> <td>22</td> <td>19</td> <td>△ 3</td> </tr> <tr> <td>母子C</td> <td>11</td> <td>11</td> <td>10</td> <td>△ 1</td> </tr> </tbody> </table> <p>大阪母子医療センターにおいては、看護部研修プログラムをレベル別に設定し、段階的に専門性を高めていく研修や、重症心身障がい児の特徴を理解し、効果的なケアが提供できる能力の育成を目的として、専門的ケアの手法を習得するための研修を実施するなど、専門性に合わせた研修を各病院において実施した。</p> <p>○ 資格取得後の活動状況 各病院において、認定看護師等がそれぞれの専門看護分野で院内や院外で講師等として活動を行うほか、緩和ケアチームなどをはじめとした医療チームの一員として専門的に患者・家族のサポートを行うなど、各専門分野で実践と指導を行った。</p> <p>○ 新人看護職員への研修 新人看護職員の研修については、厚生労働省の「新人看護職員研修ガイドライン」を踏まえて適切に実施した。</p>	病院名	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度実績	前年度差	急性期C	23	24	25	1	はびきのC	8	9	9	0	精神C	4	4	4	0	国際がんC	20	22	19	△ 3	母子C	11	11	10	△ 1			
病院名	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度実績	前年度差																															
急性期C	23	24	25	1																															
はびきのC	8	9	9	0																															
精神C	4	4	4	0																															
国際がんC	20	22	19	△ 3																															
母子C	11	11	10	△ 1																															

中期計画	年度計画	法人の自己評価		知事の評価	
		評価の判断理由（実施状況等）	評価	評価	評価の判断理由・評価のコメントなど
	<p>薬剤師、放射線技師、検査技師等の医療技術職について、専門的技術の向上を図るため、各病院の各々の部門で外部研修を活用するなど研修を実施するとともに、職種ごとに5病院合同の研修を実施するなど、各部門の基礎研修及び専門研修の充実に努める。</p>	<p>○ 医療技術職員への研修 各病院においては、薬剤師、放射線技師、検査技師等の医療技術職について、学会への参加促進や専門研修への参加促進に努めた。 また、5病院合同集合研修として基礎研修（職員倫理・個人情報保護・接遇・コミュニケーション・メンタルヘルス等を含む）や専門研修を開催するなど、各職種の専門的技術の向上に取り組んだ。</p>			
	<p>iii 労働環境の向上 業務の効率化の推進や、労働安全衛生の向上の取組により、職員の労働環境の改善に努める。</p> <p>多様な勤務形態や育児支援に向けた服務制度の導入など、女性医療スタッフが自らのライフスタイルやライフステージに応じた働き方の実現に向けた検討を進める。</p> <p>短時間常勤職員制度の周知を行い、就業時間に制約のある人等、これまで雇用できなかった人材から幅広く優秀な人材を確保できるよう努める。病院で勤務する医師等を支援するための環境整備に取り組む、特に女性医師の確保に努める。</p>	<p>○ 業務の効率化の推進 チーム医療の推進や、医師の負担を軽減するため、医師事務作業補助者を引き続き配置するなど、業務の効率化に向けた取組を実施した。</p> <p>○ 安全衛生協議会の実施 平成30年度安全衛生協議会を実施し、職員の健康の保持増進等に関する重要事項について議論を行った。</p> <p>○ 安全週間・労働衛生週間の実施 平成30年7月1日～7月7日にかけて大阪府立病院機構安全週間を、平成30年10月1日～10月7日まで大阪府立病院機構労働衛生週間を実施し、健康管理活動の強化、職場環境の点検、改善・労働衛生の理解と意識の向上に取り組んだ。 その他、ハラスメント相談窓口の継続（外部委託）や、各種健康管理窓口の周知など、職員の労働環境の向上に努めた。</p> <p>○ ワークライフバランスを支援する取組 育児のための短時間勤務制度を運用するなど、女性医療スタッフのライフスタイルやライフステージに応じた働き方を支援した。（短時間勤務制度取得者：平成30年度 医師 9名、看護師 71名、前年度 医師 8名、看護師 55名）</p> <p>また、より働きやすい環境を整備するため、育児短時間の取得勤務形態の追加及び休日の代休指定単位の変更を行った（施行は平成31年4月1日）。</p> <p>さらに、職員採用募集ホームページ等により、子育て中の医師の方へ向けた支援制度等について、引き続き情報提供を行った。</p>			
		<p><評価の理由> 医師については大学病院への働きかけ等、看護師については計画的な採用選考の実施等により、現員数は前年度同時期を上回った。また、長期自主研修支援制度の継続など医療スタッフの育成や、職員のワークライフバランスの支援について、計画を着実に実施したことからⅢ評価とした。</p>			

中期計画	年度計画	法人の自己評価		知事の評価	
		評価の判断理由（実施状況等）	評価	評価	評価の判断理由・評価のコメントなど
<p>② 施設及び医療機器の計画的な整備 評価番号【10】</p> <p>高度医療機器の整備については、平成27年度に策定した高度医療機器整備計画等に基づき効率的・効果的に推進し稼働の向上に努めるとともに、リース等導入方法の工夫により、調達コストの抑制に努めつつ、医療の質の向上や収支改善につながる機器整備を図る。</p> <p>施設の老朽化に伴う大規模改修について、大規模施設設備改修計画に基づき、計画的に進める。</p>	<p>大阪精神医療センターにおいてCTを更新するなど、各病院において診療機能の維持・向上を図る上で必要となる機器の整備を進める。</p> <p>各病院においては、医療機器の稼働の向上に努めるとともに、高度医療機器について目標延べ患者数を設定し、その状況を点検する。</p> <p>大規模施設設備改修計画に基づき、大阪急性期・総合医療センターの受変電設備改修工事（第2期）に着手する。また、大阪母子医療センターにおいては、引き続き排水改修工事（第2期）を実施するとともに、排水改修工事（第3期）を計画的に進める。</p>	<p>○ 医療機器等の整備 大阪精神医療センターにおいてCTを更新するなど、各病院において医療機器の更新・整備を行った。また、大阪国際がんセンターにおいては、患者に負担の少ない低侵襲治療を行うため、2台目の手術支援ロボットを導入した。</p> <p>各病院において、医療機器の稼働の向上に努め、大阪精神医療センターにおいては、機器の更新により、CT検査の延べ患者数は目標を上回った。 また、大阪急性期・総合医療センターにおいては、サテライトを有効に活用することで、CT検査及びMRI検査の延べ患者数は目標を上回った。（次頁）</p> <p>○ 大規模施設設備改修等の実施 (平成30年度に整備が完了したもの) 【母 子 C】排水改修工事（第2期・第3期） (平成31年度に引き続き整備を実施するもの) 【急性期C】受変電設備改修工事（第2期）</p>	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ評価とする法人の自己評価は妥当であると判断した。
		<p><評価の理由> 医療機器の整備や大規模施設設備改修について、計画の項目を着実に実施し、各病院において高度医療機器の稼働の向上に努めたことから、Ⅲ評価とした。</p>			

中期計画	年度計画	法人の自己評価				知事の評価																																																																																																																																																																																			
		評価の判断理由（実施状況等）				評価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど																																																																																																																																																																																		
		CT、MRI、アンギオ、RI、リニアック、PET-CTの稼働状況（延べ患者数） （単位：人）																																																																																																																																																																																							
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>機器種別</th> <th>病院名</th> <th>平成28年度 実績</th> <th>平成29年度 実績</th> <th>平成30年度 目標</th> <th>平成30年度 実績</th> <th>目標差 前年度差</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="6">CT</td> <td>急性期C</td> <td>33,727</td> <td>35,554</td> <td>35,300</td> <td>37,566</td> <td>2,266</td> </tr> <tr> <td>はびきのC</td> <td>12,005</td> <td>13,413</td> <td>13,000</td> <td>14,706</td> <td>2,012</td> </tr> <tr> <td>精神C</td> <td>1,417</td> <td>1,385</td> <td>1,300</td> <td>1,513</td> <td>1,706</td> </tr> <tr> <td>国際がんC</td> <td>22,364</td> <td>26,585</td> <td>26,230</td> <td>28,268</td> <td>1,293</td> </tr> <tr> <td>母子C</td> <td>3,380</td> <td>3,137</td> <td>3,100</td> <td>2,776</td> <td>213</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>72,893</td> <td>80,074</td> <td>78,930</td> <td>84,829</td> <td>128</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">MRI</td> <td>急性期C</td> <td>9,189</td> <td>10,376</td> <td>10,350</td> <td>10,787</td> <td>2,038</td> </tr> <tr> <td>はびきのC</td> <td>2,262</td> <td>2,605</td> <td>2,500</td> <td>2,808</td> <td>1,683</td> </tr> <tr> <td>国際がんC</td> <td>7,687</td> <td>9,784</td> <td>9,800</td> <td>10,190</td> <td>390</td> </tr> <tr> <td>母子C</td> <td>2,144</td> <td>2,229</td> <td>2,200</td> <td>2,071</td> <td>406</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>21,282</td> <td>24,994</td> <td>24,850</td> <td>25,856</td> <td>△129</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">アンギオ</td> <td>急性期C</td> <td>4,417</td> <td>4,628</td> <td>4,680</td> <td>4,467</td> <td>△158</td> </tr> <tr> <td>はびきのC</td> <td>279</td> <td>296</td> <td>290</td> <td>281</td> <td>1,006</td> </tr> <tr> <td>国際がんC</td> <td>991</td> <td>1,128</td> <td>1,100</td> <td>1,199</td> <td>862</td> </tr> <tr> <td>母子C</td> <td>360</td> <td>403</td> <td>380</td> <td>367</td> <td>△213</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>6,047</td> <td>6,455</td> <td>6,450</td> <td>6,314</td> <td>△161</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">RI</td> <td>急性期C</td> <td>2,850</td> <td>2,596</td> <td>2,650</td> <td>2,572</td> <td>△9</td> </tr> <tr> <td>はびきのC</td> <td>862</td> <td>931</td> <td>940</td> <td>834</td> <td>△15</td> </tr> <tr> <td>国際がんC</td> <td>1,188</td> <td>1,251</td> <td>1,230</td> <td>1,137</td> <td>99</td> </tr> <tr> <td>母子C</td> <td>428</td> <td>406</td> <td>350</td> <td>335</td> <td>71</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>5,328</td> <td>5,184</td> <td>5,170</td> <td>4,878</td> <td>△13</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">リニアック</td> <td>急性期C</td> <td>10,458</td> <td>12,337</td> <td>12,820</td> <td>10,290</td> <td>△36</td> </tr> <tr> <td>はびきのC</td> <td>2,138</td> <td>4,377</td> <td>4,850</td> <td>4,411</td> <td>△136</td> </tr> <tr> <td>国際がんC</td> <td>31,064</td> <td>34,888</td> <td>35,000</td> <td>35,500</td> <td>△141</td> </tr> <tr> <td>母子C</td> <td>476</td> <td>380</td> <td>250</td> <td>538</td> <td>△78</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>44,136</td> <td>51,982</td> <td>52,920</td> <td>50,739</td> <td>△24</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">PET-CT</td> <td>急性期C</td> <td>650</td> <td>689</td> <td>710</td> <td>543</td> <td>△106</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>△97</td> </tr> </tbody> </table>	機器種別	病院名	平成28年度 実績	平成29年度 実績	平成30年度 目標	平成30年度 実績	目標差 前年度差	CT	急性期C	33,727	35,554	35,300	37,566	2,266	はびきのC	12,005	13,413	13,000	14,706	2,012	精神C	1,417	1,385	1,300	1,513	1,706	国際がんC	22,364	26,585	26,230	28,268	1,293	母子C	3,380	3,137	3,100	2,776	213	計	72,893	80,074	78,930	84,829	128	MRI	急性期C	9,189	10,376	10,350	10,787	2,038	はびきのC	2,262	2,605	2,500	2,808	1,683	国際がんC	7,687	9,784	9,800	10,190	390	母子C	2,144	2,229	2,200	2,071	406	計	21,282	24,994	24,850	25,856	△129	アンギオ	急性期C	4,417	4,628	4,680	4,467	△158	はびきのC	279	296	290	281	1,006	国際がんC	991	1,128	1,100	1,199	862	母子C	360	403	380	367	△213	計	6,047	6,455	6,450	6,314	△161	RI	急性期C	2,850	2,596	2,650	2,572	△9	はびきのC	862	931	940	834	△15	国際がんC	1,188	1,251	1,230	1,137	99	母子C	428	406	350	335	71	計	5,328	5,184	5,170	4,878	△13	リニアック	急性期C	10,458	12,337	12,820	10,290	△36	はびきのC	2,138	4,377	4,850	4,411	△136	国際がんC	31,064	34,888	35,000	35,500	△141	母子C	476	380	250	538	△78	計	44,136	51,982	52,920	50,739	△24	PET-CT	急性期C	650	689	710	543	△106						△97		
機器種別	病院名	平成28年度 実績	平成29年度 実績	平成30年度 目標	平成30年度 実績	目標差 前年度差																																																																																																																																																																																			
CT	急性期C	33,727	35,554	35,300	37,566	2,266																																																																																																																																																																																			
	はびきのC	12,005	13,413	13,000	14,706	2,012																																																																																																																																																																																			
	精神C	1,417	1,385	1,300	1,513	1,706																																																																																																																																																																																			
	国際がんC	22,364	26,585	26,230	28,268	1,293																																																																																																																																																																																			
	母子C	3,380	3,137	3,100	2,776	213																																																																																																																																																																																			
	計	72,893	80,074	78,930	84,829	128																																																																																																																																																																																			
MRI	急性期C	9,189	10,376	10,350	10,787	2,038																																																																																																																																																																																			
	はびきのC	2,262	2,605	2,500	2,808	1,683																																																																																																																																																																																			
	国際がんC	7,687	9,784	9,800	10,190	390																																																																																																																																																																																			
	母子C	2,144	2,229	2,200	2,071	406																																																																																																																																																																																			
	計	21,282	24,994	24,850	25,856	△129																																																																																																																																																																																			
アンギオ	急性期C	4,417	4,628	4,680	4,467	△158																																																																																																																																																																																			
	はびきのC	279	296	290	281	1,006																																																																																																																																																																																			
	国際がんC	991	1,128	1,100	1,199	862																																																																																																																																																																																			
	母子C	360	403	380	367	△213																																																																																																																																																																																			
	計	6,047	6,455	6,450	6,314	△161																																																																																																																																																																																			
RI	急性期C	2,850	2,596	2,650	2,572	△9																																																																																																																																																																																			
	はびきのC	862	931	940	834	△15																																																																																																																																																																																			
	国際がんC	1,188	1,251	1,230	1,137	99																																																																																																																																																																																			
	母子C	428	406	350	335	71																																																																																																																																																																																			
	計	5,328	5,184	5,170	4,878	△13																																																																																																																																																																																			
リニアック	急性期C	10,458	12,337	12,820	10,290	△36																																																																																																																																																																																			
	はびきのC	2,138	4,377	4,850	4,411	△136																																																																																																																																																																																			
	国際がんC	31,064	34,888	35,000	35,500	△141																																																																																																																																																																																			
	母子C	476	380	250	538	△78																																																																																																																																																																																			
	計	44,136	51,982	52,920	50,739	△24																																																																																																																																																																																			
PET-CT	急性期C	650	689	710	543	△106																																																																																																																																																																																			
						△97																																																																																																																																																																																			

中期計画	年度計画	法人の自己評価		知事の評価					
		評価の判断理由（実施状況等）	評価	評価	評価の判断理由・評価のコメントなど				
<p>第1 府民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>1 高度専門医療の提供及び医療水準の向上</p> <p>(3) 府域の医療水準の向上</p>									
中期目標	<p>① 地域の医療機関等との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> 患者に適した医療機関の紹介及び紹介された患者の受入れを進めるとともに、医師等の派遣による支援や研修会への協力、高度医療機器の共同利用、ICT（情報通信技術をいう。）の活用等により、地域の医療機関との連携を図り、府域の医療水準の向上に貢献する取組を進めること。 <p>② 府域の医療従事者育成への貢献</p> <ul style="list-style-type: none"> 臨床研修医及びレジデントを積極的に受け入れるほか、他の医療機関等からの研修や実習等の要請に積極的に協力し、府域における医療従事者の育成に貢献すること。 <p>③ 府民への保健医療情報の提供及び発信並びに普及啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> 府が進める健康医療施策に係る啓発や各病院における取組について、ホームページの活用や公開講座の開催等により、府民への保健医療情報の提供及び発信並びに普及啓発を積極的に行うこと。 								
① 地域医療への貢献									
<p>評価番号【11】</p> <p>地域医療の向上を図るため、ネットワーク型の連携システムの構築や、地域の医療機関との一層の連携強化等を行うため、紹介率及び逆紹介率の向上に努めるとともに、各病院で、地域の医療機関からの高度医療機器の共同利用を進める。</p>	<p>各病院において、地域医師会との連携や医師会所属医師との研究会への参画、また、次の取組により、地域医療機関との連携を強化し、紹介率、逆紹介率を向上させる。</p> <table border="1"> <tr> <td>大阪急性期・総合医療センター</td> <td> <p>緊急患者の積極的な受入れのための病床管理を行うとともに、MSWの活用により退院支援体制を拡充し、地域の医療機関や介護施設とのネットワークを強化し患者のスムーズな退院につなげる。</p> <p>慢性疾患患者の安心・安全な療養生活を維持するため、地域連携パスの推進やICTを利用した地域連携の拡大などに努める。</p> </td> </tr> </table>	大阪急性期・総合医療センター	<p>緊急患者の積極的な受入れのための病床管理を行うとともに、MSWの活用により退院支援体制を拡充し、地域の医療機関や介護施設とのネットワークを強化し患者のスムーズな退院につなげる。</p> <p>慢性疾患患者の安心・安全な療養生活を維持するため、地域連携パスの推進やICTを利用した地域連携の拡大などに努める。</p>	<p>○ 各病院における地域医療機関との連携強化の取組</p> <table border="1"> <tr> <td>大阪急性期・総合医療センター</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 緊急入院患者については、9,507人を受け入れた。（前年度：8,293人）また、退院前カンファレンスの開催を推進し、退院支援に努めた。（退院前カンファレンス件数：平成30年度 874件、前年度：772件） 胃がん等のがん地域連携パスを運用するとともに、病診連携研修会や各診療科主催の研修会等を開催し、近隣の病院や訪問看護ステーションとの連携会議を行うなど、地域医療連携の強化に努めた。 ICTを活用した地域連携を推進し、「万代e-ネット」に参加する登録医は62件まで増加した。（前年度：57件） </td> </tr> </table>	大阪急性期・総合医療センター	<ul style="list-style-type: none"> 緊急入院患者については、9,507人を受け入れた。（前年度：8,293人）また、退院前カンファレンスの開催を推進し、退院支援に努めた。（退院前カンファレンス件数：平成30年度 874件、前年度：772件） 胃がん等のがん地域連携パスを運用するとともに、病診連携研修会や各診療科主催の研修会等を開催し、近隣の病院や訪問看護ステーションとの連携会議を行うなど、地域医療連携の強化に努めた。 ICTを活用した地域連携を推進し、「万代e-ネット」に参加する登録医は62件まで増加した。（前年度：57件） 	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ評価とする法人の自己評価は妥当であると判断した。
大阪急性期・総合医療センター	<p>緊急患者の積極的な受入れのための病床管理を行うとともに、MSWの活用により退院支援体制を拡充し、地域の医療機関や介護施設とのネットワークを強化し患者のスムーズな退院につなげる。</p> <p>慢性疾患患者の安心・安全な療養生活を維持するため、地域連携パスの推進やICTを利用した地域連携の拡大などに努める。</p>								
大阪急性期・総合医療センター	<ul style="list-style-type: none"> 緊急入院患者については、9,507人を受け入れた。（前年度：8,293人）また、退院前カンファレンスの開催を推進し、退院支援に努めた。（退院前カンファレンス件数：平成30年度 874件、前年度：772件） 胃がん等のがん地域連携パスを運用するとともに、病診連携研修会や各診療科主催の研修会等を開催し、近隣の病院や訪問看護ステーションとの連携会議を行うなど、地域医療連携の強化に努めた。 ICTを活用した地域連携を推進し、「万代e-ネット」に参加する登録医は62件まで増加した。（前年度：57件） 								

中期計画	年度計画	法人の自己評価		知事の評価																		
		評価の判断理由（実施状況等）	評価	評価	評価の判断理由・評価のコメントなど																	
	<p>大阪はびきの医療センター</p> <p>地域の医療水準の向上と地域医療機関との連携強化に資するため、羽曳野からだ塾や、SOCC（南大阪ケア&キュア）の会、羽曳野オンコロジー等の府民向け講座や研究会、症例検討会等を充実させる。また、平成29年度に開始した「はびきのアカデミー」や近隣の消防本部との勉強会を定期的に開催することにより、さらなる地域連携の強化と救急患者の受入れを促進する。</p>	<p>大阪はびきの医療センター</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ SOCC（南大阪ケア&キュア）の開催（年2回）に加え、更に登録医との連携強化を図るため、「はびきのアカデミー」を開催した（年2回）。また、病診連携勉強会を実施した（年4回）。 ・ 羽曳野市、藤井寺市の地域包括ケアシステムの構築に向け、意見交換や情報共有を目的とした「羽曳野・藤井寺市ネットワーク会議」に参加するなど、地域中核病院としての役割を担った。 ・ 救急患者の受入れを促進するため、搬送症例に関する合同カンファレンスを開催したほか、救急隊からの要望に応えた内容の講習会を開催するなど、連携の強化に努めた。（救急患者受入れ件数：平成30年度 772件、前年度 680件） 																				
	<p>大阪精神医療センター</p> <p>医療福祉相談センターと地域医療推進センターの機能を集約し、前方連携と後方連携を一元的に担う組織として、新たに地域連携部を設置する。地域連携部を中心として、地域医療機関への訪問を計画的に実施し、顔の見える関係を構築する。</p>	<p>大阪精神医療センター</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 平成30年度より設置した地域連携部及び地域連携推進室（集約に伴い地域医療推進センターの名称を変更）において、医療機関及び関係機関からの受診・入院相談の円滑な受入れ（前方連携）と5年以上の長期入院者の退院促進（後方連携）を実施した。 ・ 地域連携推進室主導で、患者紹介や入院・受診相談の多い医療機関等を中心に訪問活動を実施した。地域連携部及び地域連携推進室の活動内容の説明ならびに意見交換を行い、顔の見える関係の構築に努めた。 																				
	<p>大阪国際がんセンター</p> <p>入院時から退院に向けて地域医療機関との連携や退院支援を進めるとともに、地域医療機関への訪問活動や講演会等の実施により、さらなる連携強化を図る。</p>	<p>大阪国際がんセンター</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 入院時から退院に向けて地域医療機関との連携を図るため、地域連携ネットワーク講演会、大手前地区合同セミナー等を開催した。 ・ 地域医療機関訪問については、訪問時に施設内見学や病院調整部門担当者との意見交換を行う等、自施設の課題や他施設からのニーズを確認した。 <p>国際がんC連携登録医数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> <th>平成30年度</th> <th>平成30年度</th> <th>目標差</th> </tr> <tr> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>目標</th> <th>実績</th> <th>前年度差</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>連携登録医数（機関）</td> <td>210</td> <td>262</td> <td>280</td> <td>319</td> <td>39 57</td> </tr> </tbody> </table>	区分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成30年度	目標差	実績	実績	目標	実績	前年度差	連携登録医数（機関）	210	262	280	319	39 57			
区分	平成28年度	平成29年度		平成30年度	平成30年度	目標差																
	実績	実績	目標	実績	前年度差																	
連携登録医数（機関）	210	262	280	319	39 57																	
	<p>大阪母子医療センター</p> <p>患者支援センターにおける医療機関との連携や情報発信機能の向上を図り、地域との連携を強化する。また、移行期医療（小児科医療から成人期医療に移行する過程）の支援体制を確立するため、慢性疾患の患者・家族の意思決定支援や、紹介先医療機関からの要望対応に取り組む。</p>	<p>大阪母子医療センター</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 患者支援センターにおいて、イブニングセミナー（9回）、地域連携懇話会の開催、産科セミオープンシステムによる妊産婦の受入れ（平成30年度 95件、前年度 86件）など、地域との連携強化に努めた結果、紹介率は目標・前年度を上回った。 ・ 相談対応を一元的に行う患者相談窓口を設置し、ケースワーカー、看護師、心理士、保健師を配置し、多職種と連携して相談対応に取り組んだ。（相談件数：平成30年度 977件、前年度 796件） ・ 連携医療機関との連携強化を目的としたメールでの医師向け相談窓口を運用した。（相談件数：平成30年度 9件、前年度 8件） ・ 患者にとって安全で質の高い診療を切れ目なく行うことを目的に、平成29年度末に導入した地域診療情報連携システム（南大阪MOCOネット）を運用した。（平成31年3月末時点の利用機関数：診療所9ヶ所、病院3ヶ所、訪問看護ステーション3ヶ所、保健所3ヶ所） 																				

中期計画	年度計画	法人の自己評価		知事の評価																																																																																										
		評価の判断理由（実施状況等）	評価	評価	評価の判断理由・評価のコメントなど																																																																																									
	<p>大阪急性期・総合医療センター及び大阪はびきの医療センターにおいては、高度医療機器を有効利用する観点から共同利用の促進に取り組む。</p>	<p>○ 紹介率・逆紹介率の状況</p> <p>紹介率・逆紹介率（単位：％）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">病院名</th> <th rowspan="2">区分</th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> <th>平成30年度</th> <th>平成30年度</th> <th colspan="2">目標差</th> </tr> <tr> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>目標</th> <th>実績</th> <th>前年度差</th> <th>前年度差</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">急性期C</td> <td>紹介率</td> <td>83.1</td> <td>83.6</td> <td>84.0</td> <td>81.6</td> <td>△ 2.4</td> <td>△ 2.0</td> </tr> <tr> <td>逆紹介率</td> <td>99.8</td> <td>94.5</td> <td>94.0</td> <td>90.4</td> <td>△ 3.6</td> <td>△ 4.1</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">はびきのC</td> <td>紹介率</td> <td>61.8</td> <td>65.5</td> <td>67.0</td> <td>65.9</td> <td>△ 1.1</td> <td>0.4</td> </tr> <tr> <td>逆紹介率</td> <td>69.8</td> <td>75.8</td> <td>76.0</td> <td>66.0</td> <td>△ 10.0</td> <td>△ 9.8</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">精神C</td> <td>紹介率</td> <td>31.8</td> <td>32.7</td> <td>35.0</td> <td>32.1</td> <td>△ 2.9</td> <td>△ 0.6</td> </tr> <tr> <td>逆紹介率</td> <td>42.9</td> <td>41.1</td> <td>41.0</td> <td>41.3</td> <td>0.3</td> <td>0.2</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">国際がんC</td> <td>紹介率</td> <td>97.1</td> <td>97.1</td> <td>98.0</td> <td>97.0</td> <td>△ 1.0</td> <td>△ 0.1</td> </tr> <tr> <td>逆紹介率</td> <td>129.5</td> <td>100.4</td> <td>—</td> <td>109.3</td> <td>—</td> <td>8.9</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">母子C</td> <td>紹介率</td> <td>93.3</td> <td>94.2</td> <td>90.0</td> <td>95.8</td> <td>5.8</td> <td>1.6</td> </tr> <tr> <td>逆紹介率</td> <td>39.0</td> <td>37.4</td> <td>36.0</td> <td>35.2</td> <td>△ 0.8</td> <td>△ 2.2</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 紹介率(%)＝紹介患者数÷(初診患者数－救急搬入患者数、休日・夜間に受診した患者数)×100 ※ 逆紹介率(%)＝逆紹介患者数÷(初診患者数－救急搬入患者数、休日・夜間に受診した患者数)×100</p> <p>○ 高度医療機器の共同利用件数 【急性期C】MRI 79件（前年度：64件） CT 414件（前年度：416件） RI 3件（前年度：18件） 【はびきのC】MRI 2件（前年度：6件） CT 103件（前年度：107件） RI 43件（前年度：70件）</p> <p>○ 開放病床の状況 【急性期C】登録医届出数：979人（前年度：959人）、利用患者数：29人（前年度：30人） 【はびきのC】登録医届出数：183人（前年度：162人）、利用患者数：0人（前年度：0人）</p>	病院名	区分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成30年度	目標差		実績	実績	目標	実績	前年度差	前年度差	急性期C	紹介率	83.1	83.6	84.0	81.6	△ 2.4	△ 2.0	逆紹介率	99.8	94.5	94.0	90.4	△ 3.6	△ 4.1	はびきのC	紹介率	61.8	65.5	67.0	65.9	△ 1.1	0.4	逆紹介率	69.8	75.8	76.0	66.0	△ 10.0	△ 9.8	精神C	紹介率	31.8	32.7	35.0	32.1	△ 2.9	△ 0.6	逆紹介率	42.9	41.1	41.0	41.3	0.3	0.2	国際がんC	紹介率	97.1	97.1	98.0	97.0	△ 1.0	△ 0.1	逆紹介率	129.5	100.4	—	109.3	—	8.9	母子C	紹介率	93.3	94.2	90.0	95.8	5.8	1.6	逆紹介率	39.0	37.4	36.0	35.2	△ 0.8	△ 2.2			
病院名	区分	平成28年度			平成29年度	平成30年度	平成30年度	目標差																																																																																						
		実績	実績	目標	実績	前年度差	前年度差																																																																																							
急性期C	紹介率	83.1	83.6	84.0	81.6	△ 2.4	△ 2.0																																																																																							
	逆紹介率	99.8	94.5	94.0	90.4	△ 3.6	△ 4.1																																																																																							
はびきのC	紹介率	61.8	65.5	67.0	65.9	△ 1.1	0.4																																																																																							
	逆紹介率	69.8	75.8	76.0	66.0	△ 10.0	△ 9.8																																																																																							
精神C	紹介率	31.8	32.7	35.0	32.1	△ 2.9	△ 0.6																																																																																							
	逆紹介率	42.9	41.1	41.0	41.3	0.3	0.2																																																																																							
国際がんC	紹介率	97.1	97.1	98.0	97.0	△ 1.0	△ 0.1																																																																																							
	逆紹介率	129.5	100.4	—	109.3	—	8.9																																																																																							
母子C	紹介率	93.3	94.2	90.0	95.8	5.8	1.6																																																																																							
	逆紹介率	39.0	37.4	36.0	35.2	△ 0.8	△ 2.2																																																																																							

中期計画	年度計画	法人の自己評価		知事の評価																																																																									
		評価の判断理由（実施状況等）	評価	評価	評価の判断理由・評価のコメントなど																																																																								
地域の医療従事者を対象とした研修会への講師派遣や医師の地域医療機関での診療等、必要に応じて医療スタッフの派遣を行う。	地域の医療水準を向上させるため、各病院において、医師等による地域の医療機関等への支援、地域の医療従事者を対象とした研修会講師への医療スタッフの派遣を行う。	<p>○ 地域への医療スタッフの派遣等の状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>病院名</th> <th>区分</th> <th>平成28年度実績</th> <th>平成29年度実績</th> <th>平成30年度実績</th> <th>前年度差</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">急性期C</td> <td>研修会への講師派遣数（延人数）</td> <td>553</td> <td>638</td> <td>738</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>地域の医師等の参加による症例検討会等の開催回数（回）</td> <td>39</td> <td>22</td> <td>29</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">はびきのC</td> <td>研修会への講師派遣数（延人数）</td> <td>247</td> <td>303</td> <td>302</td> <td>△ 1</td> </tr> <tr> <td>地域の医師等の参加による症例検討会等の開催回数（回）</td> <td>21</td> <td>25</td> <td>25</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">精神C</td> <td>研修会への講師派遣数（延人数）</td> <td>173</td> <td>202</td> <td>214</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>地域の医師等の参加による症例検討会等の開催回数（回）</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>6</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">国際がんC</td> <td>研修会への講師派遣数（延人数）</td> <td>186</td> <td>185</td> <td>167</td> <td>△ 18</td> </tr> <tr> <td>地域の医師等の参加による症例検討会等の開催回数（回）</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">母子C</td> <td>研修会への講師派遣数（延人数）</td> <td>264</td> <td>348</td> <td>181</td> <td>△ 167</td> </tr> <tr> <td>地域の医師等の参加による症例検討会等の開催回数（回）</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">合計</td> <td>研修会への講師派遣数（延人数）</td> <td>1,428</td> <td>1,676</td> <td>1,602</td> <td>△ 74</td> </tr> <tr> <td>地域の医師等の参加による症例検討会等の開催回数（回）</td> <td>58</td> <td>67</td> <td>75</td> <td>8</td> </tr> </tbody> </table> <p><評価の理由> 大阪精神医療センターにおける地域連携部の設置等、各病院において地域連携の強化に積極的に取り組み、大阪国際がんセンターにおける連携登録医数が目標を上回ったことなどから、Ⅲ評価とした。</p>	病院名	区分	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度実績	前年度差	急性期C	研修会への講師派遣数（延人数）	553	638	738	100	地域の医師等の参加による症例検討会等の開催回数（回）	39	22	29	7	はびきのC	研修会への講師派遣数（延人数）	247	303	302	△ 1	地域の医師等の参加による症例検討会等の開催回数（回）	21	25	25	0	精神C	研修会への講師派遣数（延人数）	173	202	214	12	地域の医師等の参加による症例検討会等の開催回数（回）	5	5	6	1	国際がんC	研修会への講師派遣数（延人数）	186	185	167	△ 18	地域の医師等の参加による症例検討会等の開催回数（回）	3	3	3	0	母子C	研修会への講師派遣数（延人数）	264	348	181	△ 167	地域の医師等の参加による症例検討会等の開催回数（回）	12	12	12	0	合計	研修会への講師派遣数（延人数）	1,428	1,676	1,602	△ 74	地域の医師等の参加による症例検討会等の開催回数（回）	58	67	75	8			
病院名	区分	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度実績	前年度差																																																																								
急性期C	研修会への講師派遣数（延人数）	553	638	738	100																																																																								
	地域の医師等の参加による症例検討会等の開催回数（回）	39	22	29	7																																																																								
はびきのC	研修会への講師派遣数（延人数）	247	303	302	△ 1																																																																								
	地域の医師等の参加による症例検討会等の開催回数（回）	21	25	25	0																																																																								
精神C	研修会への講師派遣数（延人数）	173	202	214	12																																																																								
	地域の医師等の参加による症例検討会等の開催回数（回）	5	5	6	1																																																																								
国際がんC	研修会への講師派遣数（延人数）	186	185	167	△ 18																																																																								
	地域の医師等の参加による症例検討会等の開催回数（回）	3	3	3	0																																																																								
母子C	研修会への講師派遣数（延人数）	264	348	181	△ 167																																																																								
	地域の医師等の参加による症例検討会等の開催回数（回）	12	12	12	0																																																																								
合計	研修会への講師派遣数（延人数）	1,428	1,676	1,602	△ 74																																																																								
	地域の医師等の参加による症例検討会等の開催回数（回）	58	67	75	8																																																																								
<p>② 府域の医療従事者育成への貢献</p> <p>評価番号【12】</p> <p>府域の医療従事者の育成を図るため、研修医等に高度な医療技術を教育し、及び研修する教育研修センターの積極的活用や研修プログラムの開発等教育研修機能を充実し、臨床研修医及びレジデントの受け入れを行うとともに、各病院は、地域医療機関からの医療スタッフの受け入れ等に積極的に取り組む。</p>	府域の医療従事者の育成を図るため、研修プログラムの開発等教育研修機能を充実させるとともに、臨床研修医及びレジデントを受け入れる。	<p>○ 臨床研修医及びレジデントの受け入れ状況</p> <p>各病院において、臨床研修医及びレジデントの受け入れを積極的に行い、優れた医療スタッフの育成に努めた。</p> <p>臨床研修医・レジデントの受け入れ数（単位：人）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成28年度実績</th> <th>平成29年度実績</th> <th>平成30年度実績</th> <th>前年度差</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>臨床研修医</td> <td>48</td> <td>47</td> <td>50</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>協力型受け入れ（外数）</td> <td>43</td> <td>40</td> <td>36</td> <td>△ 4</td> </tr> <tr> <td>レジデント</td> <td>148</td> <td>152</td> <td>185</td> <td>33</td> </tr> </tbody> </table> <p>備考 協力型受け入れ数は、協力型研修病院（主たる臨床研修病院と共同して、特定の診療科において短期間の臨床研修を行う病院）として、臨床研修医を受け入れた人数。</p>	区分	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度実績	前年度差	臨床研修医	48	47	50	3	協力型受け入れ（外数）	43	40	36	△ 4	レジデント	148	152	185	33	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ評価とする法人の自己評価は妥当であると判断した。																																																				
区分	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度実績	前年度差																																																																									
臨床研修医	48	47	50	3																																																																									
協力型受け入れ（外数）	43	40	36	△ 4																																																																									
レジデント	148	152	185	33																																																																									

中期計画	年度計画	法人の自己評価		知事の評価																																																																							
		評価の判断理由（実施状況等）	評価	評価	評価の判断理由・評価のコメントなど																																																																						
府域における看護師、薬剤師等の医療スタッフの資質の向上を図るため、実習の受入れ等を積極的に行う。	<p>府域における看護師・薬剤師等医療スタッフの資質の向上を図るため、実習生の受入れ等を積極的に行う。また、大阪府立大学と締結した協定をもとに、5病院との交流を促進し、実習の受入れを進める。</p> <p>大阪府医療人キャリアセンターを運営する中で、大学等と連携し医師のキャリア形成支援と府内における地域や診療科間のバランスのとれた医師確保に向けた取組の充実を図る。</p> <p>大阪母子医療センターにおいて、他病院より周産期専門医の取得を目標としたレジデントの研修受入れを行う「産科シニアフェロー制度」により、周産期医療に従事する医師の水準向上に貢献する。</p>	<p>レジデントの受入れ数の病院別内訳（単位：人）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成28年度実績</th> <th>平成29年度実績</th> <th>平成30年度実績</th> <th>前年度差</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>急性期C</td> <td>66</td> <td>65</td> <td>74</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>はびきのC</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>7</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>精神C</td> <td>8</td> <td>10</td> <td>12</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>国際がんC</td> <td>41</td> <td>43</td> <td>54</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>母子C</td> <td>31</td> <td>31</td> <td>38</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>148</td> <td>152</td> <td>185</td> <td>33</td> </tr> </tbody> </table> <p>○ 看護学生等の実習の受入れ 5病院における看護実習生の受入れ数については、全体では前年度よりも減少した。協定を締結している大阪府立大学からは、実習生を935名受け入れた。（前年度：1,314名）</p> <p>看護学生実習受入れ数（単位：人）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成28年度実績</th> <th>平成29年度実績</th> <th>平成30年度実績</th> <th>前年度差</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>急性期C</td> <td>710</td> <td>822</td> <td>762</td> <td>△ 60</td> </tr> <tr> <td>はびきのC</td> <td>355</td> <td>383</td> <td>422</td> <td>39</td> </tr> <tr> <td>精神C</td> <td>667</td> <td>604</td> <td>628</td> <td>24</td> </tr> <tr> <td>国際がんC</td> <td>436</td> <td>488</td> <td>390</td> <td>△ 98</td> </tr> <tr> <td>母子C</td> <td>888</td> <td>896</td> <td>767</td> <td>△ 129</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>3,056</td> <td>3,193</td> <td>2,969</td> <td>△ 224</td> </tr> </tbody> </table> <p>大阪府医療人キャリアセンター（府委託）においては、医師のキャリア形成支援に取り組むとともに、積極的な広報活動やセミナーの開催によって、会員登録数の増加に努めた。（キャリアプラン会員数：平成30年度 162人、前年度 145人）</p> <p>大阪母子医療センターでは、「産科シニアフェロー制度」により平成30年度においては3人の医師を受け入れ、周産期医療に関する専門技術の水準向上に寄与した。（前年度：2名）</p> <p><評価の理由> 臨床研修医やレジデント、看護実習生の受入れなど、府域の医療従事者の育成について、計画を着実に実施したことからⅢ評価とした。</p>	区分	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度実績	前年度差	急性期C	66	65	74	9	はびきのC	2	3	7	4	精神C	8	10	12	2	国際がんC	41	43	54	11	母子C	31	31	38	7	合計	148	152	185	33	区分	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度実績	前年度差	急性期C	710	822	762	△ 60	はびきのC	355	383	422	39	精神C	667	604	628	24	国際がんC	436	488	390	△ 98	母子C	888	896	767	△ 129	合計	3,056	3,193	2,969	△ 224			
区分	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度実績	前年度差																																																																							
急性期C	66	65	74	9																																																																							
はびきのC	2	3	7	4																																																																							
精神C	8	10	12	2																																																																							
国際がんC	41	43	54	11																																																																							
母子C	31	31	38	7																																																																							
合計	148	152	185	33																																																																							
区分	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度実績	前年度差																																																																							
急性期C	710	822	762	△ 60																																																																							
はびきのC	355	383	422	39																																																																							
精神C	667	604	628	24																																																																							
国際がんC	436	488	390	△ 98																																																																							
母子C	888	896	767	△ 129																																																																							
合計	3,056	3,193	2,969	△ 224																																																																							

中期計画	年度計画	法人の自己評価		知事の評価	
		評価の判断理由（実施状況等）	評価	評価	評価の判断理由・評価のコメントなど
<p>③ 府民への保健医療情報の提供・発信</p> <p>評価番号【13】</p> <p>各病院に蓄積された専門医療に関する情報を効果的に活用するため、PR方策や情報の活用等の検討を進め、情報発信を推進する。</p> <p>健康に関する保健医療情報や、病院の診療機能を客観的に表す臨床評価指標等について、ホームページによる情報発信を積極的に行う。</p> <p>新たな診断技法や治療法について、府民を対象とした公開講座を開催し、医療に関する知識の普及や啓発に努める。</p>	<p>法人及び各病院のホームページにおいて、臨床評価指標などの診療実績や医療の質を分かりやすく紹介するとともに、法人の各種情報、府民講座に関する情報など、患者・府民が必要な最新情報に容易にアクセスできるよう順次更新を行う。</p> <p>各病院に蓄積された専門医療に関する情報をもとに、府民に病気の予防や健康の保持・増進に役立てていただくため、府民を対象とした公開講座を開催し、医療に関する知識の普及や啓発に努めるとともに、法人のホームページ上において広報・動画配信を行うなど、情報発信力の充実を図る。</p>	<p>○ ホームページ、SNSの活用</p> <p>法人のホームページにおいては、財務情報や臨床評価指標などの各種情報を更新し、各病院のホームページにおいては、疾病や健康に関する情報を公開するなど、患者・府民が必要な最新情報を順次更新した。</p> <p>大阪急性期・総合医療センターにおいては、大阪府市共同 住吉母子医療センター情報誌「きらり」を11月に創刊し、第2号を1月に発行してホームページに掲載するなど、新規事業に係る広報活動を積極的に行った。</p> <p>○ 府民への情報の発信</p> <p>各病院において、府民を対象とした公開講座を開催し、法人及び各病院のホームページで公表することで、情報発信の充実を図った。</p> <p>【急性期C】 府民公開講座、すこやかセミナー、各診療科による患者教室 など 【はびきのC】 羽曳野からだ塾、食物アレルギー教室 など 【精神 C】 枚方市保健所との共催による精神保健家族講演会 など 【国際がんC】 成人病公開講座、隣がん教室、セルフケアフェア など 【母子 C】 府民公開講座、きつずセミナーの開催 など</p>	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ評価とする法人の自己評価は妥当であると判断した。
		<p><評価の理由></p> <p>法人及び各病院のホームページにおいて、疾病や健康に関する情報の発信や、府民を対象とした公開講座の開催を計画どおり実施したことからⅢ評価とした。</p>			

中期計画	年度計画	法人の自己評価		知事の評価					
		評価の判断理由（実施状況等）	評価	評価	評価の判断理由・評価のコメントなど				
<p>第1 府民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>1 高度専門医療の提供及び医療水準の向上 (4) より安心して信頼できる質の高い医療の提供</p>									
中期目標	<p>① 医療安全対策等の徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全で質の高い医療を提供するため、各病院のヒヤリ・ハット事例の報告や検証の取組、事故を回避するシステムの導入等、医療安全対策の徹底を図り、取組内容について積極的に公表を行うこと。 ・また、院内感染防止の取組についても確実に実施すること。 <p>② 医療の標準化と最適な医療の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・患者負担を軽減しながら、短期間で効果的な医療を提供するため、クリニカルパス（疾患別に退院までの治療内容を標準化した計画表をいう。）を活用して、患者にとって最適な医療を提供すること。 <p>③ 患者中心の医療の実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ・患者中心の医療を実践するため、患者自身が自分に合った治療法を選択できるよう、インフォームド・コンセント（正しい情報を伝えた上での医療従事者と患者との合意をいう。）を徹底すること。 ・更に、各病院が、それぞれの高度専門性を活かして、セカンドオピニオン（患者やその家族が、治療法等の判断に当たって、主治医とは別の専門医の意見を聞くことをいう。）や医療相談等を実施すること。 								
<p>① 医療安全対策等の徹底</p> <p>評価番号【14】</p> <p>府民に信頼される良質な医療を提供するため、医療安全管理体制の充実を図るとともに、外部委員も参画した医療安全委員会、事故調査委員会等において医療事故に関する情報の収集及び分析に努め、医療安全対策を徹底する。</p>	<p>各病院の医療安全管理委員会、事故調査委員会等において医療事故に関する情報の収集・分析に努め、次の以下の医療安全対策を徹底する。</p> <table border="1"> <tr> <td>定期的な会議の開催</td> <td>医療事故防止のため、各病院の医療安全管理者による会議を定期的に行い、病院間の医療事故等の情報交換・共有に努める。</td> </tr> </table>	定期的な会議の開催	医療事故防止のため、各病院の医療安全管理者による会議を定期的に行い、病院間の医療事故等の情報交換・共有に努める。	<table border="1"> <tr> <td>定期的な会議の開催</td> <td>各病院においては医療安全管理委員会を開催し、院内での医療事故防止に努めた。（毎月実施） また、5病院の医療安全管理者による会議（医療安全管理者連絡会議）を定期的に行い（10回開催）、病院間の医療事故等の情報交換・共有に努めた。</td> </tr> </table>	定期的な会議の開催	各病院においては医療安全管理委員会を開催し、院内での医療事故防止に努めた。（毎月実施） また、5病院の医療安全管理者による会議（医療安全管理者連絡会議）を定期的に行い（10回開催）、病院間の医療事故等の情報交換・共有に努めた。	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ評価とする法人の自己評価は妥当であると判断した。
定期的な会議の開催	医療事故防止のため、各病院の医療安全管理者による会議を定期的に行い、病院間の医療事故等の情報交換・共有に努める。								
定期的な会議の開催	各病院においては医療安全管理委員会を開催し、院内での医療事故防止に努めた。（毎月実施） また、5病院の医療安全管理者による会議（医療安全管理者連絡会議）を定期的に行い（10回開催）、病院間の医療事故等の情報交換・共有に努めた。								

中期計画	年度計画	法人の自己評価		知事の評価	
		評価の判断理由（実施状況等）	評価	評価	評価の判断理由・評価のコメントなど
<p>院内における死亡例の把握を踏まえて、予期せぬ医療事故（死亡又は死産に係るものに限る。）が発生したときは、医療法（昭和23年法律第205号）に定められた医療事故調査制度（平成27年10月1日施行）に基づき院内調査を実施し、その調査結果を民間の第三者機関（医療事故調査・支援センター）等に報告し、再発防止を行う。併せて、医療事故の公表基準を適切に運用し、医療に関する透明性を高める。</p> <p>患者、家族等の安全や病院職員の健康の確保のため、感染源や感染経路等に応じた適切な院内感染予防策を実施するなど、院内感染対策の充実を図る。</p>	<p>医療事故調査制度の遵守</p> <p>院内における死亡例の把握を踏まえて、予期せぬ医療事故（死亡又は死産に係るものに限る。）が発生したときは、医療法に定められた医療事故調査制度（平成27年10月1日施行）に基づき院内調査を実施し、その調査結果を民間の第三者機関（医療事故調査・支援センター）等に報告し、再発防止を行う。併せて、医療事故の公表基準を適切に運用し、医療に関する透明性を高める。</p>	<p>医療事故調査制度の遵守</p> <p>各病院においては、予期せぬ医療事故が発生したときは、医療事故調査制度に基づき、死亡・死産事例が医療に起因するかどうか、及び予期せぬ死亡かどうか検証を行った。</p>			
	<p>医療事故の公表</p> <p>医療に関する透明性を高めるため、医療事故の公表基準に基づき、各病院において公表を行う。</p>	<p>医療事故の公表</p> <p>医療事故公表基準に基づき、「医療事故の状況」について各病院のホームページで公表を行った。 平成29年度下半期分：平成30年4月公表 平成30年度上半期分：平成30年10月公表 平成30年度下半期分：平成31年4月公表</p>			
	<p>医療安全研修の実施</p> <p>医療安全の推進に資するため、各病院単位で実施する医療安全研修会のほか、5病院合同での研修を実施する。</p>	<p>医療安全研修の実施</p> <p>各病院において実施した医療安全研修会のほか、医療コンフリクト・マネジメントの概念や知識、理論や技法を学び、実際のメディエーションの場面で活用するスキルを習得するため、外部講師を招聘し5病院合同の医療コンフリクト・マネジメント研修会を平成30年5月に実施した。</p>			
	<p>インシデントの分析</p> <p>院内で発生したインシデントの報告を促し、その内容を分析することによって、マニュアルの見直しなど再発防止に取り組む。</p>	<p>インシデントの分析</p> <p>【急性期C】 4M分析やRCA分析等（インシデント事象の分析手法の一種）の研修会の開催 ラウンドやインシデント報告等の結果に基づき、マニュアルの見直し など 【はびきのC】 インシデント報告に基づき、再発防止策の立案及びマニュアルの見直し など 【精神 C】 業務改善計画書及び報告書を新たに作成し運用 など 【国際がんC】 インシデント報告に基づき、再発防止のための取組を実施 など 【母子 C】 インシデント報告に基づき、再発防止のための取組を実施 など</p>			
	<p>院内感染防止対策</p> <p>各病院において、院内感染防止対策委員会を定期的に開催するとともに、感染原因ごとのマニュアルを点検する。また、院内感染防止対策を徹底するため、ラウンドの実施や研修等により職員への周知を図る。</p>	<p>院内感染防止対策</p> <p>各病院において、定例の院内感染防止対策委員会を毎月開催したほか、職員に対する研修会の開催や感染管理に関する情報提供、各種感染マニュアルの改訂、ICT（感染制御チーム）ラウンドを定期的に開催した。</p>			

中期計画	年度計画	法人の自己評価		知事の評価					
		評価の判断理由（実施状況等）	評価	評価	評価の判断理由・評価のコメントなど				
医薬品等の安全確保のため、医薬品及び医療機器に関する安全情報の的確な提供に努める。	<table border="1"> <tr> <td>安全情報の提供</td> <td>医薬品等の安全確保のため、医薬品及び医療機器に関する安全情報の的確な提供に努める。</td> </tr> </table>	安全情報の提供	医薬品等の安全確保のため、医薬品及び医療機器に関する安全情報の的確な提供に努める。	<table border="1"> <tr> <td>安全情報の提供</td> <td> <p>各病院において、医薬品・医療機器に関する安全情報等の入手に努め、院内LANへの掲載やカンファレンスでの報告など迅速な情報発信と周知徹底を図った。</p> <p>大阪急性期・総合医療センターにおいては、保険薬局と電子お薬手帳等でデータの連携が可能なシステムを構築し、入院時の服用薬確認業務の効率化を図るとともに、入退院時のサマリー等の情報を共有するためのクラウド型地域お薬カルテシステム「e - お薬カルテ」を平成30年10月から導入した。</p> </td> </tr> </table>	安全情報の提供	<p>各病院において、医薬品・医療機器に関する安全情報等の入手に努め、院内LANへの掲載やカンファレンスでの報告など迅速な情報発信と周知徹底を図った。</p> <p>大阪急性期・総合医療センターにおいては、保険薬局と電子お薬手帳等でデータの連携が可能なシステムを構築し、入院時の服用薬確認業務の効率化を図るとともに、入退院時のサマリー等の情報を共有するためのクラウド型地域お薬カルテシステム「e - お薬カルテ」を平成30年10月から導入した。</p>			
安全情報の提供	医薬品等の安全確保のため、医薬品及び医療機器に関する安全情報の的確な提供に努める。								
安全情報の提供	<p>各病院において、医薬品・医療機器に関する安全情報等の入手に努め、院内LANへの掲載やカンファレンスでの報告など迅速な情報発信と周知徹底を図った。</p> <p>大阪急性期・総合医療センターにおいては、保険薬局と電子お薬手帳等でデータの連携が可能なシステムを構築し、入院時の服用薬確認業務の効率化を図るとともに、入退院時のサマリー等の情報を共有するためのクラウド型地域お薬カルテシステム「e - お薬カルテ」を平成30年10月から導入した。</p>								
		<p><評価の理由> インシデント報告の分析や医療安全管理マニュアルの見直しなど、各病院において医療事故防止に取り組むとともに、5病院の医療安全管理者による会議を開催するなど、機構全体で医療安全の徹底に努めたことから、Ⅲ評価とした。</p>							

② 医療の標準化と最適な医療の提供

評価番号【15】

<p>入院における患者の負担軽減及び分かりやすい医療の提供のため、EBM（Evidence Based Medicine：科学的な根拠に基づく医療）の提供及び医療の効率化の両面を踏まえて、クリニカルパス（疾患別に退院までの治療内容を標準化した計画表をいう。）の作成、適用及び見直しを行い、より短い期間で質の高い効果的な医療を提供する。</p>	<p>入院における患者の負担軽減及び分かりやすい医療の提供のため、各病院において、電子カルテやDPCの導入状況を踏まえつつ、院内のクリニカルパス委員会等における検討を通じ、クリニカルパスの定期的な点検・見直しや、新たなパスの作成に努める。</p>	<p>○ クリニカルパスの適用・作成状況（精神医療センターを除く） クリニカルパスについては、既に作成したパスの見直しや新たなパスの作成を行い、適正かつ効率的な運用に努めた。 適用率については、4病院で目標を上回り、種類数については、4病院中2病院で目標を下回った。</p> <p>クリニカルパス適用状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">病院名</th> <th rowspan="2">区分</th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> <th>平成30年度</th> <th>平成30年度</th> <th colspan="2">目標差</th> </tr> <tr> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>目標</th> <th>実績</th> <th>前年度差</th> <th>今年度差</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">急性期C</td> <td>適用率（%）</td> <td>51.6</td> <td>53.0</td> <td>55.0</td> <td>57.9</td> <td>2.9</td> <td>5.0</td> </tr> <tr> <td>種類数</td> <td>608</td> <td>569</td> <td>550</td> <td>442</td> <td>△ 108</td> <td>△ 127</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">はびきのC</td> <td>適用率（%）</td> <td>62.2</td> <td>63.1</td> <td>62.8</td> <td>65.7</td> <td>2.9</td> <td>2.6</td> </tr> <tr> <td>種類数</td> <td>295</td> <td>273</td> <td>268</td> <td>299</td> <td>31</td> <td>26</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">国際がんC</td> <td>適用率（%）</td> <td>75.0</td> <td>78.2</td> <td>78.0</td> <td>81.9</td> <td>3.9</td> <td>3.7</td> </tr> <tr> <td>種類数</td> <td>330</td> <td>385</td> <td>390</td> <td>383</td> <td>△ 7</td> <td>△ 2</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">母子C</td> <td>適用率（%）</td> <td>54.0</td> <td>56.1</td> <td>57.0</td> <td>58.0</td> <td>1.0</td> <td>1.9</td> </tr> <tr> <td>種類数</td> <td>204</td> <td>210</td> <td>210</td> <td>221</td> <td>11</td> <td>11</td> </tr> </tbody> </table>	病院名	区分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成30年度	目標差		実績	実績	目標	実績	前年度差	今年度差	急性期C	適用率（%）	51.6	53.0	55.0	57.9	2.9	5.0	種類数	608	569	550	442	△ 108	△ 127	はびきのC	適用率（%）	62.2	63.1	62.8	65.7	2.9	2.6	種類数	295	273	268	299	31	26	国際がんC	適用率（%）	75.0	78.2	78.0	81.9	3.9	3.7	種類数	330	385	390	383	△ 7	△ 2	母子C	適用率（%）	54.0	56.1	57.0	58.0	1.0	1.9	種類数	204	210	210	221	11	11	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ評価とする法人の自己評価は妥当であると判断した。
病院名	区分	平成28年度			平成29年度	平成30年度	平成30年度	目標差																																																																							
		実績	実績	目標	実績	前年度差	今年度差																																																																								
急性期C	適用率（%）	51.6	53.0	55.0	57.9	2.9	5.0																																																																								
	種類数	608	569	550	442	△ 108	△ 127																																																																								
はびきのC	適用率（%）	62.2	63.1	62.8	65.7	2.9	2.6																																																																								
	種類数	295	273	268	299	31	26																																																																								
国際がんC	適用率（%）	75.0	78.2	78.0	81.9	3.9	3.7																																																																								
	種類数	330	385	390	383	△ 7	△ 2																																																																								
母子C	適用率（%）	54.0	56.1	57.0	58.0	1.0	1.9																																																																								
	種類数	204	210	210	221	11	11																																																																								

中期計画	年度計画	法人の自己評価		知事の評価	
		評価の判断理由（実施状況等）	評価	評価	評価の判断理由・評価のコメントなど
<p>蓄積された診療データを分析し、経年変化及び他の医療機関との比較を通じて、各病院における医療の質の向上に役立てる。</p> <p>医療の質の確保及び向上に努め、適切に第三者機関等からの評価等を受審し、それを活用する。</p>	<p>医療の質の改善・向上や、経営改善につなげるため、DPCの診断群分類など、他の医療機関との比較を考慮しつつ、診療データの収集・分析を行う。</p> <p>大阪急性期・総合医療センターにおいては、ISO15189の認定取得を目指すとともに、ISO9001認証の適用範囲の拡大に向けて、医療サービスの質の向上に取り組む。</p> <p>DPC対象病院へ移行する大阪はびきの医療センターにおいては、DPCデータの分析によって医療の質の向上に努める。</p> <p>大阪急性期・総合医療センター、大阪国際がんセンター及び大阪母子医療センターにおいては、病院機能評価受審に向けて、PDCAサイクルに基づいて評価項目の周知と課題の洗い出しや改善、自己評価に取り組み、評価の更新を図る。</p>	<p>○ DPCデータ等の活用による診療データの収集・分析</p> <p>【急性期C】 診療報酬や施設基準に関する解釈等について、大阪医事研究会の参加病院から情報を収集し、各部署への情報提供に努めた。</p> <p>【はびきのC】 他DPC医療機関との比較など、DPC分析の結果による診療工程の改善提言などの説明会を実施した。</p> <p>【精神 C】 全国自治体病院協議会の「医療の質の評価・公表等推進事業」に前年度に引き続き参加し、経年比較及び他の精神科病院との比較を行った。</p> <p>【国際がんC】 DPC分析ソフトを用いて診療科別のデータ収集や分析を行うとともに、各診療科と在院日数の適正化及び短縮化について検討した。</p> <p>【母子 C】 医療の質や経営改善につなげることを目的に、全国11施設のこども病院と連携して共通の指標（34項目）のベンチマーク資料を作成した。結果については、平成30年11月に開催された全国こども病院診療情報管理研究会にて報告した。</p> <p>大阪急性期・総合医療センターにおいては、平成31年2月19日にISO15189の認定を取得した。また、ISO9001については、平成29年度に認証を取得した形成外科とQMS評価室において継続審査を受審し、「登録継続」が承認された。これら第三者評価の受審を通して、業務の効率化やリスクの軽減を図るなど、医療サービスの提供体制の向上を図った。</p> <p>大阪はびきの医療センターにおいては、平成30年4月1日よりDPC対象病院へ移行した。DPC分析ソフトを活用し、後発医薬品導入の検討や抗菌剤の使用頻度分析を実施した。</p> <p>大阪急性期・総合医療センター、大阪国際がんセンター及び大阪母子医療センターにおいては、病院機能評価を受審し、病院全体で課題の改善や検証等に取り組んだ。</p>			
		<p><評価の理由> 各病院においては、クリニカルパスの活用による医療の標準化に取り組み、適用率は4病院で目標を達成した。また、大阪急性期・総合医療センターにおけるISO15189の認定取得など、計画を着実に実施したことから、Ⅲ評価とした。</p>			

中期計画	年度計画	法人の自己評価		知事の評価	
		評価の判断理由（実施状況等）	評価	評価	評価の判断理由・評価のコメントなど
<p>③ 患者中心の医療の実践 評価番号【16】</p> <p>患者中心のより良い医療を提供するため、患者の基本的な権利を尊重することを定めた患者の権利に関する宣言等を職員に周知徹底するとともに、職員を対象とする人権研修に引き続き取り組み、患者の基本的な権利等を尊重する気運の醸成に努める。</p> <p>治療への患者及び家族の積極的な関わりを推進するため、患者等の信頼と納得に基づく診療を行うとともに、検査及び治療の選択について患者の意思を尊重するため、インフォームド・コンセント（正しい情報を伝えた上での医療従事者と患者との合意をいう。）の一層の徹底を図る。</p> <p>患者等が主治医以外の専門医の意見及びアドバイスを求めた場合に適切に対応できるよう、セカンドオピニオン（患者及びその家族が、治療法等の判断に当たって、主治医と別の専門医の意見を聴くことをいう。）や、がん相談支援センターにおける患者及び府民への相談支援の充実に取り組む。</p>	<p>各病院において、「患者の権利に関する宣言」を職員に周知するとともに、院内各所に分かりやすく掲示し、患者等への周知を図る。</p> <p>「人権教育行動指針」に基づき作成した人権教育・研修計画により、職員を対象とする人権研修を実施する。</p> <p>患者の信頼と納得に基づく診療の実践のため実施しているインフォームド・コンセントについては、写真の活用や、特に子どもに対しては専用の説明文書なども用いるなど、対象患者の理解を促進する説明の充実に引き続き努める。</p> <p>各病院（大阪精神医療センターを除く）において、セカンドオピニオン（患者及びその家族が、治療法等の判断に当たって、主治医と別の専門医の意見を聴くことをいう。）について、ホームページを活用するなどPRに努め、相談支援の充実に積極的に取り組む。</p>	<p>○ 「患者の権利に関する宣言」の周知 各病院において、「患者の権利に関する宣言」を掲載した必携カードを配布するなど、職員へ周知するとともに、ホームページや院内掲示板等に「患者の権利に関する宣言」を掲載し、患者等への周知にも努めた。</p> <p>○ 人権研修の実施等 各病院の役割に応じた人権に関する研修等を実施するとともに、本部と病院との共催により職員を対象とした人権研修等（テーマ：個人情報保護など）を実施した。</p> <p>○ インフォームド・コンセントの実施状況の点検と充実のための取組 各病院においては、インフォームド・コンセントの実施状況を点検するために月例のカルテ監査等によって同意文書が適切に使用されているかの検証を行った。</p> <p>【急性期C】 インフォームド・コンセントに関するマニュアルを制定した。その中で医療従事者間での共通認識の確保についても明文化を行った。手術や侵襲を伴う検査等の説明同意書に関しては新書式への変更を行い医療従事者から提供すべき診療情報の統一を図った。</p> <p>【はびきのC】 疾患別や手術別に説明事項を記載した入院診療計画書や説明同意書を作成するとともに、患者用クリニカルパス等を活用したわかりやすい説明を行うなど、よりわかりやすい説明文書の提供に取り組んだ。</p> <p>【精神 C】 隔離、拘束など患者の行動を制限する際には、精神保健福祉法に基づき、説明用の写真を提示しながら告知を行った。精神運動興奮が激しい患者に対しても、必要性を繰り返し伝え、インフォームド・コンセントの徹底を図った。</p> <p>【国際がんC】 説明や同意文書の見直しを行うとともに、患者にリスク情報を含む医療安全情報の提供を行い、患者が納得した上で医療を受けられるようわかりやすい説明を行うなど、インフォームド・コンセントの徹底を図った。</p> <p>【母子 C】 インフォームド・アセント（子どもに理解できるようわかりやすく説明し、内容について子どもの理解を得ること）を徹底した。また、イラストを用いた子ども専用の検査などの説明様式（プレパレーションブック）を36種作成した。</p> <p>○ セカンドオピニオンの実施状況 精神医療センターを除く4病院で実施するとともに、各病院のホームページで府民・患者にPRを行い、充実に努めた。</p> <p>平成30年度：急性期C 31件、はびきのC 13件、国際がんC 1,354件、母子C 35件 （前年度：急性期C 36件、はびきのC 21件、国際がんC 1,283件、母子C 33件）</p>	III	III	III評価とする法人の自己評価は妥当であると判断した。

中期計画	年度計画	法人の自己評価		知事の評価	
		評価の判断理由（実施状況等）	評価	評価	評価の判断理由・評価のコメントなど
<p>患者の病状に応じた治療を行うとともに、個々の患者の希望を尊重した最適な医療の提供に努め、患者のQOLの向上を図るため、新しい医療技術の導入や医師、看護師等の連携によるチーム医療及び各診療科の医師が連携した患者中心の医療を推進する。</p>	<p>大阪急性期・総合医療センター、大阪はびきの医療センター、大阪国際がんセンターにおいては、がん相談支援センターにおいて、電話または面談での相談支援を実施するとともに、相談支援体制を強化する。</p> <p>大阪はびきの医療センターにおいては、呼吸器看護専門外来やがん看護専門外来により、慢性呼吸器疾患患者やがん患者の療養に伴う不安や疑問等についての相談を積極的に実施していく。</p> <p>各病院において、患者のQOLの向上を図るため、新しい医療技術の導入やチーム医療の充実などにより、患者の病態に応じた治療を行うとともに、個々の患者の希望を尊重した最適な医療の提供に努める。</p>	<p>○ がん相談への対応</p> <p>【急性期C】 就労支援に関する院内研修会の開催など就労相談体制を強化するとともに、がん相談支援センターの役割について、地域の医療施設などにリーフレットの配置を依頼するなど、広報活動に努めた。（がん相談件数：平成30年度 1,414件、前年度 1,325件）</p> <p>【はびきのC】 がん患者の悩みや疑問等に対応するため、がん専門看護師等による支援を行った。（相談支援件数：平成30年度 24件、前年度 23件）</p> <p>【国際がんC】 がん患者の新規就労支援を拡充するためハローワーク大阪東との連携を強化し、「出張がん相談」を月に2回開催した。（相談総件数：平成30年度 13,036件、前年度 11,197件）</p> <p>【母子C】 小児がん拠点病院として、「患者相談窓口」において小児がん相談に対応した。（がん相談件数：平成30年度 248件、前年度 157件）</p> <p>○ 患者のQOL（生活の質）向上の主な取組</p> <p>【急性期C】 手術や悪性腫瘍に対する抗癌剤治療など侵襲的治療に際して患者のQOLを損なわない治療選択を目指すため、骨格筋量などの栄養関連指標及びリハビリ関連指標の経時的かつ定量的な測定体制の構築 など</p> <p>【はびきのC】 低侵襲で不整脈の治療が可能なカテーテルアブレーション治療の実施 肺がん患者に対する苦痛のスクリーニングの実施 など</p> <p>【精神C】 各種依存症プログラムの充実 医療福祉相談室において、全ての入院患者に対する各種相談や家族面接等の実施 など</p> <p>【国際がんC】 がんリハシステム構築推進プロジェクトチームを発足し、個々の患者の希望を尊重した医療の提供 など</p> <p>【母子C】 高度医療を受けた小児・家族に対する心のケアの充実 「赤ちゃんにやさしい病院（BFH）」の認定を目指し、母乳育児の保護支援及び推進 など</p>			

中期計画	年度計画	法人の自己評価		知事の評価																																																								
		評価の判断理由（実施状況等）	評価	評価	評価の判断理由・評価のコメントなど																																																							
<p>病院給食について、治療効果を上げるための栄養管理の充実とともに、患者の嗜好にも配慮した選択メニューの拡充等に取り組む。</p>	<p>各病院において、医薬品等の安全確保のため、医薬品及び医療機器に関する安全情報の的確な提供、服薬指導（入院患者が安心して薬を服用することができるよう、薬剤師が直接、副作用の説明等の薬に関する指導を行うことをいう。）を積極的に実施する。</p> <p>病院給食について、患者の嗜好にも配慮した特別食や治療食の提供に取り組むとともに、栄養サポートチーム（NST）活動（医師、看護師、栄養士、薬剤師、検査技師のチーム活動による低栄養状態の改善指導）などの治療効果を高めるための栄養管理を充実する。</p>	<p>○ 医薬品等安全確保の取組 各病院において、医薬品・医療機器に関する安全情報等の入手に努め、院内LANへの掲載やカンファレンスでの報告など迅速な情報発信と周知徹底を図った。 また、病棟薬剤業務ならびに薬剤管理指導業務など、医薬品の適正使用のための患者指導に取り組み、服薬指導件数については、大阪母子医療センターを除く4病院で目標を上回った。</p> <p>服薬指導件数（単位：件）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">病院名</th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> <th>平成30年度</th> <th>平成30年度</th> <th colspan="2">目標差</th> </tr> <tr> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>目標</th> <th>実績</th> <th>前年度差</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>急性期C</td> <td>18,092</td> <td>18,567</td> <td>18,500</td> <td>19,385</td> <td>885</td> <td>818</td> </tr> <tr> <td>はびきのC</td> <td>10,117</td> <td>9,797</td> <td>10,000</td> <td>10,704</td> <td>704</td> <td>907</td> </tr> <tr> <td>精神C</td> <td>2,436</td> <td>2,189</td> <td>2,600</td> <td>2,947</td> <td>347</td> <td>758</td> </tr> <tr> <td>国際がんC</td> <td>8,718</td> <td>9,197</td> <td>9,500</td> <td>10,199</td> <td>699</td> <td>1,002</td> </tr> <tr> <td>母子C</td> <td>5,348</td> <td>4,516</td> <td>5,000</td> <td>4,613</td> <td>△ 387</td> <td>97</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>44,711</td> <td>44,266</td> <td>45,600</td> <td>47,848</td> <td>2,248</td> <td>3,582</td> </tr> </tbody> </table> <p>○ 病院給食の充実への取組 各病院においては、栄養サポートチーム（NST）を中心とした活動等による病院給食の充実のための取組を実施した。 【急性期C】平成30年4月から院外調理を導入、食事調査の実施 など 【はびきのC】嗜好調査の実施、行事食の追加変更 など 【精神C】児童思春期病棟において、患児の要望に沿うメニューの提供を月1回実施 など 【国際がんC】大阪産の農産物を使用した新鮮で安心な食材の提供 など 【母子C】長期入院患児と家族を対象とする食事会を開催しQOLを向上（年11回） など</p> <p>＜評価の理由＞ 各病院において、がん相談への対応や、インフォームド・コンセントの徹底、患者QOL向上のための取組など、患者中心の医療を徹底したことから、Ⅲ評価とした。</p>	病院名	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成30年度	目標差		実績	実績	目標	実績	前年度差		急性期C	18,092	18,567	18,500	19,385	885	818	はびきのC	10,117	9,797	10,000	10,704	704	907	精神C	2,436	2,189	2,600	2,947	347	758	国際がんC	8,718	9,197	9,500	10,199	699	1,002	母子C	5,348	4,516	5,000	4,613	△ 387	97	合計	44,711	44,266	45,600	47,848	2,248	3,582			
病院名	平成28年度	平成29年度		平成30年度	平成30年度	目標差																																																						
	実績	実績	目標	実績	前年度差																																																							
急性期C	18,092	18,567	18,500	19,385	885	818																																																						
はびきのC	10,117	9,797	10,000	10,704	704	907																																																						
精神C	2,436	2,189	2,600	2,947	347	758																																																						
国際がんC	8,718	9,197	9,500	10,199	699	1,002																																																						
母子C	5,348	4,516	5,000	4,613	△ 387	97																																																						
合計	44,711	44,266	45,600	47,848	2,248	3,582																																																						

中期計画	年度計画	法人の自己評価		知事の評価																																																																																			
		評価の判断理由（実施状況等）	評価	評価	評価の判断理由・評価のコメントなど																																																																																		
中期目標	<ul style="list-style-type: none"> 患者等に対するホスピタリティの向上を目指し、職員の接客技術の向上に努め、患者等の立場に立った案内や説明を行うなど、更なるサービスの充実を図ること。 また、院内の快適性を確保する観点から、患者等のニーズ把握に努め、施設及び設備の改修を図ること。 																																																																																						
評価番号【17】 ホスピタリティの向上を図るため、患者の意見等を活用し、接客に関するマニュアルの整備や定期的な研修の実施をはじめ、患者等向け案内冊子等の改善等、接客向上に向けた取組を推進する。	各病院において、患者意見箱や平成29年度までに実施した患者満足度調査結果、院内ラウンドなどにより、患者ニーズの把握に努め、課題の改善及び取組の検証に取り組む。	<p>○ 患者満足度調査の実施 平成30年11月に「患者満足度調査」を実施し、公益財団法人 日本医療機能評価機構が実施する全国調査へ参加した。</p> <p>（調査実施状況） 入院調査：3,069枚配布、1,884枚回収（回収率 61.4%） 外来調査：3,817枚配布、3,220枚回収（回収率 84.4%）</p> <p>全体としてこの病院に満足している割合（入院）（単位：%）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">病院名</th> <th colspan="3">調査年度</th> <th colspan="2">平成30年度との比較</th> </tr> <tr> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> <th>平成30年度</th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>急性期C</td> <td>—</td> <td>76.0</td> <td>89.2</td> <td>—</td> <td>13.2</td> </tr> <tr> <td>はびきのC</td> <td>—</td> <td>95.3</td> <td>96.7</td> <td>—</td> <td>1.4</td> </tr> <tr> <td>精神C</td> <td>—</td> <td>75.9</td> <td>72.1</td> <td>—</td> <td>△ 3.8</td> </tr> <tr> <td>国際がんC</td> <td>—</td> <td>92.6</td> <td>91.2</td> <td>—</td> <td>△ 1.4</td> </tr> <tr> <td>母子C</td> <td>—</td> <td>75.9</td> <td>95.8</td> <td>—</td> <td>19.9</td> </tr> </tbody> </table> <p>全体としてこの病院に満足している割合（外来）（単位：%）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">病院名</th> <th colspan="3">調査年度</th> <th colspan="2">平成30年度との比較</th> </tr> <tr> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> <th>平成30年度</th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>急性期C</td> <td>72.4</td> <td>70.6</td> <td>68.2</td> <td>△ 4.2</td> <td>△ 2.4</td> </tr> <tr> <td>はびきのC</td> <td>86.0</td> <td>82.3</td> <td>85.0</td> <td>△ 1.0</td> <td>2.7</td> </tr> <tr> <td>精神C</td> <td>86.1</td> <td>79.9</td> <td>84.9</td> <td>△ 1.2</td> <td>5.0</td> </tr> <tr> <td>国際がんC</td> <td>87.8</td> <td>84.3</td> <td>85.5</td> <td>△ 2.3</td> <td>1.2</td> </tr> <tr> <td>母子C</td> <td>87.0</td> <td>86.5</td> <td>83.6</td> <td>△ 3.4</td> <td>△ 2.9</td> </tr> </tbody> </table> <p>○ 患者満足度向上のための取組 各病院において、計画的に患者サービス向上のための取組を進めた。大阪国際がんセンターにおいては、サービス企画推進部を発足し、患者サービスマスタープランを策定した。また、患者意見箱や院内ラウンド等により患者のニーズを把握するとともに、化学療法の待ち時間軽減対策としてリクライニングチェア等の設置等、患者サービスの改善に取り組んだ。</p> <p>5病院間で患者サービスに関する取組の情報の共有化を図るなど、PDCAサイクルで取り組み、法人全体で患者・府民のサービス向上を図った。また、「患者サービス向上月間」の10月には、より一層の患者サービス向上に向けた取組について周知徹底を図り、その取組実績について5病院間で情報共有を行った。</p>	病院名	調査年度			平成30年度との比較		平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成28年度	平成29年度	急性期C	—	76.0	89.2	—	13.2	はびきのC	—	95.3	96.7	—	1.4	精神C	—	75.9	72.1	—	△ 3.8	国際がんC	—	92.6	91.2	—	△ 1.4	母子C	—	75.9	95.8	—	19.9	病院名	調査年度			平成30年度との比較		平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成28年度	平成29年度	急性期C	72.4	70.6	68.2	△ 4.2	△ 2.4	はびきのC	86.0	82.3	85.0	△ 1.0	2.7	精神C	86.1	79.9	84.9	△ 1.2	5.0	国際がんC	87.8	84.3	85.5	△ 2.3	1.2	母子C	87.0	86.5	83.6	△ 3.4	△ 2.9	III	III	III評価とする法人の自己評価は妥当であると判断した。
病院名	調査年度			平成30年度との比較																																																																																			
	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成28年度	平成29年度																																																																																		
急性期C	—	76.0	89.2	—	13.2																																																																																		
はびきのC	—	95.3	96.7	—	1.4																																																																																		
精神C	—	75.9	72.1	—	△ 3.8																																																																																		
国際がんC	—	92.6	91.2	—	△ 1.4																																																																																		
母子C	—	75.9	95.8	—	19.9																																																																																		
病院名	調査年度			平成30年度との比較																																																																																			
	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成28年度	平成29年度																																																																																		
急性期C	72.4	70.6	68.2	△ 4.2	△ 2.4																																																																																		
はびきのC	86.0	82.3	85.0	△ 1.0	2.7																																																																																		
精神C	86.1	79.9	84.9	△ 1.2	5.0																																																																																		
国際がんC	87.8	84.3	85.5	△ 2.3	1.2																																																																																		
母子C	87.0	86.5	83.6	△ 3.4	△ 2.9																																																																																		

中期計画	年度計画	法人の自己評価		知事の評価	
		評価の判断理由（実施状況等）	評価	評価	評価の判断理由・評価のコメントなど
<p>NPOの活動と連携し、及び協働して、各病院において院内見学及び意見交換の機会を設けることや、意見箱等を通じて患者及び府民の生の声を把握し、サービス向上の取組を進める。</p>	<p>やすらぎを提供する院内コンサートやギャラリーなどのイベント等の充実を図る。</p> <p>職員の接遇については、マニュアルの整備や研修の実施、あいさつ運動の取組などにより向上を図る。</p> <p>NPOによる院内見学及び意見交換（大阪精神医療センターを予定）などを実施し、各病院の取組に活用する。</p>	<p>○ 患者・府民の満足度向上のための各病院での主な取組 患者の満足度向上に寄与するため、各病院においては意見箱等を活用した患者の要望に対応する取組や院内でのコンサート・イベント等を実施した。</p> <p>【急性期C】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相愛大学連携コンサート、万代・夢寄席、絵手紙講習会を開催 ・小児病棟におけるクリニックラウンジ訪問 ・音楽ボランティアによる病棟内コンサートの実施 ・患者から寄せられた意見・要望について、対応・改善策の回答を掲示 など <p>【はびきのC】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界禁煙週間のイベントの一環として、マジックショーと院内コンサートを開催 ・OSAKAあかるクラブの協力によるクリスマス会を開催 ・府民公開講座「羽曳野からだ塾」を開催 など <p>【精神 C】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・患者意見箱に寄せられた意見を基に、売店横休憩室に掛け時計を設置 ・中宮びょういん祭を開催 など <p>【国際がんC】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・笑いの公演会「わろてまえ劇場（落語や漫才の舞台）」を実施 ・大阪4大オーケストラによるアンサンブル定期演奏会の開催 ・大阪府立江之子島文化芸術創造センター所蔵作品の展示 など <p>【母子 C】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・セラピードッグによる病院訪問を実施 ・「子育てフェスタ」（バザーの出店やブース展示）を開催 ・コンサートやクリスマス会を開催 など <p>○ 職員の接遇向上のための取組 職員の接遇を向上するため、各病院においてはマニュアルの整備、外部講師や「接遇トレーナー養成研修会」を受講した職員による接遇研修会の開催や、あいさつ運動を実施した。</p> <p>○ NPOの院内見学等 大阪精神医療センターにおいては、NPOによる院内見学と意見交換会を平成31年2月に実施し、患者目線に立った客観的な意見を病院の取組に活用することにより、更なる患者・府民サービスへの向上を図った。 また、患者サービスについて先進的・模範的な取組を行っている尼崎総合医療センターの見学会を平成30年10月に実施し、さらに、平成31年1月に機構内病院見学会（大阪急性期・総合医療センターの見学）と併せて他病院見学会の振り返りを実施し、各病院の取組に活用した。</p>			

中期計画	年度計画	法人の自己評価		知事の評価	
		評価の判断理由（実施状況等）	評価	評価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
<p>患者及び来院者により快適な環境を提供するため、病室の個室化、待合室、トイレ、浴室等の改修及び補修を計画的に実施するとともに、患者のプライバシー確保に配慮した院内環境の整備に努める。 患者ニーズの高い店舗の誘致等、来院者の利便性向上を図る。</p>		<p>大阪急性期・総合医療センターにおいては、マニユライフ生命保険株式会社や特定非営利活動法人子ども健康フォーラム等の協力を得て、小児科病棟にあるブレイルームを「わくわくルーム」として改装、入院生活中のお子さん等に「癒し」を感じていただける場所として平成30年10月17日にオープンした。</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <評価の理由> 患者サービス向上のため、大阪国際がんセンターにおける患者サービスマスタープランの策定などの取組や、イベントの開催、接遇研修の実施、NPOによる院内見学等の取組を機構全体で推進したことから、Ⅲ評価とした。 </p>			

中期計画	年度計画	法人の自己評価		知事の評価																																																																	
		評価の判断理由（実施状況等）	評価	評価	評価の判断理由・評価のコメントなど																																																																
<p>第1 府民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>2 患者・府民の満足度向上 (2) 待ち時間及び検査・手術待ちの改善</p>																																																																					
中期目標	<p>・外来診療や検査、手術待ち等で発生している待ち時間の改善に努め、患者等の負担感の軽減を図ること。</p>																																																																				
<p>① 外来待ち時間の対応</p>																																																																					
<p>評価番号【18】</p> <p>待ち時間の実態調査を毎年実施し、待ち時間が発生している要因や患者及び府民のニーズを踏まえながら、改善に取り組む。</p> <p>待ち時間短縮の取組と併せて、待合空間の快適性の向上等により、体感待ち時間ゼロを目指した取組を進める。</p>	<p>待ち時間調査や患者満足度調査の結果を踏まえ、大阪国際がんセンターにおける携帯電話を用いた呼び出しサービスの運用など、各病院においては診療待ち表示システム、患者用PHSなどの活用や声かけ、ボランティアの配置等により患者にできるだけ待ち時間を負担に感じさせないよう取り組む。</p>	<p>○ 外来待ち時間の平成30年度実態調査 前年度に引き続き、診療（予約あり）、診療（予約なし）、会計、投薬の4項目について、待ち時間を病院別に計測・集計した。</p> <p><平成30年度実態調査結果></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">病院名</th> <th colspan="2">診療待ち時間</th> <th rowspan="2">会計待ち時間</th> <th rowspan="2">投薬待ち時間</th> </tr> <tr> <th>予約あり</th> <th>予約なし</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>急性期C</td> <td>18分</td> <td>30分</td> <td>11分</td> <td>10分</td> </tr> <tr> <td>はびきのC</td> <td>37分</td> <td>80分</td> <td>11分</td> <td>1分未満</td> </tr> <tr> <td>精神C</td> <td>22分</td> <td>64分</td> <td>6分</td> <td>11分</td> </tr> <tr> <td>国際がんC</td> <td>28分</td> <td>—</td> <td>10分</td> <td>1分未満</td> </tr> <tr> <td>母子C</td> <td>21分</td> <td>20分</td> <td>13分</td> <td>1分未満</td> </tr> </tbody> </table> <p><前年度実態調査結果></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">病院名</th> <th colspan="2">診療待ち時間</th> <th rowspan="2">会計待ち時間</th> <th rowspan="2">投薬待ち時間</th> </tr> <tr> <th>予約あり</th> <th>予約なし</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>急性期C</td> <td>15分</td> <td>57分</td> <td>8分</td> <td>7分</td> </tr> <tr> <td>はびきのC</td> <td>31分</td> <td>73分</td> <td>14分</td> <td>1分未満</td> </tr> <tr> <td>精神C</td> <td>17分</td> <td>42分</td> <td>4分</td> <td>12分</td> </tr> <tr> <td>国際がんC</td> <td>28分</td> <td>—</td> <td>7分</td> <td>1分未満</td> </tr> <tr> <td>母子C</td> <td>22分</td> <td>33分</td> <td>12分</td> <td>2分</td> </tr> </tbody> </table> <p><各項目の定義></p> <p>① 診療待ち時間の計測 ・予約あり患者：予約時刻（外来受付時刻の方が遅い場合は受付時刻）と診察室呼込み時刻の差 ・予約なし患者：初診、再診の診療申込受付時刻と診察室呼込み時刻の差</p> <p>② 会計待ち時間の計測 会計受付（会計伝票提出）時刻と収納窓口での呼出時刻の差</p> <p>③ 投薬待ち時間の計測 薬局受付時刻（会計支払終了時刻に薬局までの移動時間を加えた時刻）と薬局窓口呼出時刻</p> <p>○ 各病院での待ち時間の負担感解消に向けた取組 待ち時間の負担感の軽減のために、各病院において、待ち時間が長い患者に対しての声掛け等、様々な取組を行った。</p> <p>【急性期C】 ピンポイント予約（5分刻みで診察開始予定時刻を明示）の継続 会計窓口や自動支払機の増設 など</p> <p>【はびきのC】 スマートフォンによる診療待ち状況確認システムの運用 など</p>	病院名	診療待ち時間		会計待ち時間	投薬待ち時間	予約あり	予約なし	急性期C	18分	30分	11分	10分	はびきのC	37分	80分	11分	1分未満	精神C	22分	64分	6分	11分	国際がんC	28分	—	10分	1分未満	母子C	21分	20分	13分	1分未満	病院名	診療待ち時間		会計待ち時間	投薬待ち時間	予約あり	予約なし	急性期C	15分	57分	8分	7分	はびきのC	31分	73分	14分	1分未満	精神C	17分	42分	4分	12分	国際がんC	28分	—	7分	1分未満	母子C	22分	33分	12分	2分	III	III	<p>III評価とする法人の自己評価は妥当であると判断した。</p>
病院名	診療待ち時間			会計待ち時間	投薬待ち時間																																																																
	予約あり	予約なし																																																																			
急性期C	18分	30分	11分	10分																																																																	
はびきのC	37分	80分	11分	1分未満																																																																	
精神C	22分	64分	6分	11分																																																																	
国際がんC	28分	—	10分	1分未満																																																																	
母子C	21分	20分	13分	1分未満																																																																	
病院名	診療待ち時間		会計待ち時間	投薬待ち時間																																																																	
	予約あり	予約なし																																																																			
急性期C	15分	57分	8分	7分																																																																	
はびきのC	31分	73分	14分	1分未満																																																																	
精神C	17分	42分	4分	12分																																																																	
国際がんC	28分	—	7分	1分未満																																																																	
母子C	22分	33分	12分	2分																																																																	

中期計画	年度計画	法人の自己評価		知事の評価	
		評価の判断理由（実施状況等）	評価	評価	評価の判断理由・評価のコメントなど
	<p>大阪急性期・総合医療センターにおいては、本館1階及び2階の外来の再編整備に着手し、診察室を増設することで、待ち時間の改善を図る。</p>	<p>【精神 C】 「健康管理コーナー」を設置し、季節のトピックスを掲示 外来診察室の増設（平成31年4月より運用） など</p> <p>【国際がんC】 携帯電話による呼び出しサービスの運用 など</p> <p>【母子 C】 呼び出し用PHSの貸し出し デジタルサイネージの設置 など</p> <p>大阪急性期・総合医療センターにおける本館1階・2階の外来改修工事については、平成31年3月末に3ヶ所の工事が完了した。平成31年4月8日には入院準備室を新設し、入院申込みから問診、服薬指導までを同じ場所で行うことが可能となり、患者の負担軽減、プライバシーの保護及び入院手続きの待ち時間の短縮が可能となった。</p> <p><評価の理由> 各病院において、呼び出しサービスの運用や外来の整備など、待ち時間の負担を軽減する取組を着実に実施したことから、Ⅲ評価とした。</p>			
<p>② 検査待ち・手術待ちの改善</p> <p>評価番号【19】 検査待ちの改善を図るため、検査予約のシステム化、検査機器の稼働率向上等に取り組む。</p> <p>患者や地域医療機関のニーズ、診療体制等の動向等を踏まえ、CT（全身用X線コンピュータ断層診断装置）検査、MRI（磁気共鳴断層診断装置）検査の曜日、時間帯の見直し等、柔軟な対応を行う。</p>	<p>検査の効率的な実施や機器の更新などによる検査待ちの改善や、検査の即日実施、検査結果の即日開示などに取り組む。</p> <p>大阪急性期・総合医療センターにおいては、大阪府市共同 住吉母子医療センターの開設に伴う内視鏡室や手術室の拡充により、検査待ち・手術待ちの改善に取り組む。</p>	<p>○ 検査の実施状況</p> <p>【急性期C】 採血室やエコー検査ブースにおける検査技師を増員した。また、平成30年8月にエコー検査ブースを5ブース増設するとともに、生理検査とエコー検査の受付システムを統一するなど、検査の効率的な実施に取り組んだ。</p> <p>【はびきのC】 検体検査について、即時実施や検査結果の即日報告に取り組み、着実に実施した。</p> <p>【精神 C】 検体検査について、即日実施や検査結果の即日報告に取り組み、着実に実施した。</p> <p>【国際がんC】 CT検査や心臓超音波検査については、初診患者の待ち時間短縮を図るため、勤務交代制による昼間の稼働を行った。また、予約検査について、過去一年間の検査実績の分析を行い、予約枠を細かく調整し、検査数の増加と待ち時間の短縮を図った。</p> <p>【母子 C】 CTやMRI検査等について、緊急検査にも即時即日対応し、着実に実施した。</p> <p>大阪府市共同 住吉母子医療センターの開設に伴い、内視鏡検査室を4ブースから8ブースへ、手術室を13室から19室へ増室し、検査待ち・手術待ちの改善に取り組んだ。</p>	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ評価とする法人の自己評価は妥当であると判断した。

中期計画	年度計画	法人の自己評価		知事の評価																																																																																											
		評価の判断理由（実施状況等）	評価	評価	評価の判断理由・評価のコメントなど																																																																																										
手術待ちが発生している状況を改善するため、医師等の配置並びに外来、病棟及び手術室の運用改善等により手術実施体制を整備し、手術件数の増加を図る。	<p>各病院では手術室の運用の効率化や麻酔科医などの手術スタッフを確保することにより、手術件数の増加を図る。</p> <p>大阪母子医療センターでは新手術棟において手術枠の調整等により、手術室を効率的に運用し、手術件数を確保する。</p>	<p>○ 手術の実施状況</p> <p>【急性期C】 手術室の増室や効率的な手術室の運用など、手術件数の増加に努めた結果、手術件数は目標・前年度を上回った。</p> <p>【はびきのC】 どの診療科でも使用できる手術枠を設定するなど、手術室をより効率的に運用する仕組みを構築した結果、手術件数は目標を下回ったものの、前年度を上回った。</p> <p>【国際がんC】 人材紹介会社を通して麻酔科医を確保するなど、診療体制の充実を図るとともに、手術枠の空き時間の効率的な活用に取り組み、手術件数の増加に努めた結果、手術件数は目標を下回ったものの、前年度を上回った。</p> <p>【母子C】 手術棟を活用し、手術件数の増加に努めた結果、手術件数は目標を上回った。</p>																																																																																													
		<p>手術件数（単位：件）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> <th>平成30年度</th> <th>平成30年度</th> <th>目標差</th> </tr> <tr> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>目標</th> <th>実績</th> <th>前年度差</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>急性期C</td> <td>8,262</td> <td>8,398</td> <td>8,450</td> <td>8,600</td> <td>150 202</td> </tr> <tr> <td> 予定手術</td> <td>7,404</td> <td>7,553</td> <td>—</td> <td>7,677</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td> 緊急手術</td> <td>858</td> <td>865</td> <td>—</td> <td>923</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>はびきのC</td> <td>2,003</td> <td>2,460</td> <td>2,500</td> <td>2,464</td> <td>△ 36 4</td> </tr> <tr> <td> 予定手術</td> <td>1,712</td> <td>2,046</td> <td>—</td> <td>2,132</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td> 緊急手術</td> <td>291</td> <td>414</td> <td>—</td> <td>332</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>国際がんC</td> <td>3,390</td> <td>3,929</td> <td>4,200</td> <td>4,014</td> <td>△ 186 85</td> </tr> <tr> <td> 予定手術</td> <td>3,289</td> <td>3,813</td> <td>—</td> <td>3,867</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td> 緊急手術</td> <td>101</td> <td>116</td> <td>—</td> <td>147</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>母子C</td> <td>4,421</td> <td>4,447</td> <td>4,200</td> <td>4,239</td> <td>39 △ 208</td> </tr> <tr> <td> 予定手術</td> <td>3,652</td> <td>3,653</td> <td>—</td> <td>3,451</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td> 緊急手術</td> <td>769</td> <td>794</td> <td>—</td> <td>788</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>18,076</td> <td>19,234</td> <td>19,350</td> <td>19,317</td> <td>△ 33 83</td> </tr> </tbody> </table>		区分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成30年度	目標差	実績	実績	目標	実績	前年度差	急性期C	8,262	8,398	8,450	8,600	150 202	予定手術	7,404	7,553	—	7,677	—	緊急手術	858	865	—	923	—	はびきのC	2,003	2,460	2,500	2,464	△ 36 4	予定手術	1,712	2,046	—	2,132	—	緊急手術	291	414	—	332	—	国際がんC	3,390	3,929	4,200	4,014	△ 186 85	予定手術	3,289	3,813	—	3,867	—	緊急手術	101	116	—	147	—	母子C	4,421	4,447	4,200	4,239	39 △ 208	予定手術	3,652	3,653	—	3,451	—	緊急手術	769	794	—	788	—	合計	18,076	19,234	19,350	19,317	△ 33 83			
区分	平成28年度	平成29年度	平成30年度		平成30年度	目標差																																																																																									
	実績	実績	目標	実績	前年度差																																																																																										
急性期C	8,262	8,398	8,450	8,600	150 202																																																																																										
予定手術	7,404	7,553	—	7,677	—																																																																																										
緊急手術	858	865	—	923	—																																																																																										
はびきのC	2,003	2,460	2,500	2,464	△ 36 4																																																																																										
予定手術	1,712	2,046	—	2,132	—																																																																																										
緊急手術	291	414	—	332	—																																																																																										
国際がんC	3,390	3,929	4,200	4,014	△ 186 85																																																																																										
予定手術	3,289	3,813	—	3,867	—																																																																																										
緊急手術	101	116	—	147	—																																																																																										
母子C	4,421	4,447	4,200	4,239	39 △ 208																																																																																										
予定手術	3,652	3,653	—	3,451	—																																																																																										
緊急手術	769	794	—	788	—																																																																																										
合計	18,076	19,234	19,350	19,317	△ 33 83																																																																																										
		<p><評価の理由> 各病院において、検査待ちの改善のため、検査の迅速な実施等に取り組んだ。また、手術件数の増加に向けた取組を実施したことにより、2病院が手術件数の目標を上回ったことから、Ⅲ評価とした。</p>																																																																																													

中期計画	年度計画	法人の自己評価		知事の評価																																																																									
		評価の判断理由（実施状況等）	評価	評価	評価の判断理由・評価のコメントなど																																																																								
<p>第1 府民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 2 患者等の満足度向上 (3) ボランティア等との協働</p>																																																																													
中期目標	<p>・NPOやボランティアの協力を得て、患者等へのサービス向上に努めること。</p>																																																																												
<p>評価番号【20】 各病院において、通訳ボランティア等の多様なボランティアの参画を通じて、療養環境の向上を図るとともに、開かれた病院を目指し、地域におけるボランティア活動やNPO活動と連携し、及び協力することにより、地域で支え合う取組を推進する。</p>	<p>ホームページにおいて、手話通訳者や通訳ボランティア制度を周知し、利用促進に努める。また、登録言語の拡大を図るため、通訳ボランティアを募集する。</p>	<p>○ 通訳ボランティアの登録状況 手話通訳、通訳ボランティア制度については、ホームページ等で周知を行っており、引き続き、利用促進及びボランティア登録者の確保に努めた。通訳ボランティアに対する募集を本部事務局において行い、新たに23人の登録があった。</p> <table border="1"> <caption>通訳ボランティアの登録状況（人）</caption> <thead> <tr> <th>言語名</th> <th>平成30年度新規登録者数</th> <th>平成31年3月時点登録者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>英語</td><td>1</td><td>64</td></tr> <tr><td>中国語</td><td>12</td><td>79</td></tr> <tr><td>スペイン語</td><td>1</td><td>14</td></tr> <tr><td>韓国・朝鮮語</td><td>1</td><td>12</td></tr> <tr><td>台湾語</td><td></td><td>5</td></tr> <tr><td>ベトナム語</td><td></td><td>10</td></tr> <tr><td>ポルトガル語</td><td>1</td><td>11</td></tr> <tr><td>タイ語</td><td></td><td>5</td></tr> <tr><td>フランス語</td><td></td><td>3</td></tr> <tr><td>インドネシア語</td><td></td><td>4</td></tr> <tr><td>イタリア語</td><td></td><td>2</td></tr> <tr><td>ロシア語</td><td></td><td>2</td></tr> <tr><td>ヒンディー語</td><td></td><td>2</td></tr> <tr><td>ネパール語</td><td>3</td><td>6</td></tr> <tr><td>モンゴル語</td><td></td><td>1</td></tr> <tr><td>アラビア語</td><td>1</td><td>2</td></tr> <tr><td>フィリピン語</td><td></td><td>1</td></tr> <tr><td>ベンガル語</td><td></td><td>1</td></tr> <tr><td>マレー語</td><td></td><td>1</td></tr> <tr><td>カンボジア語</td><td>1</td><td>1</td></tr> <tr><td>ビサヤ語</td><td>1</td><td>1</td></tr> <tr><td>チャバカノ語</td><td>1</td><td>1</td></tr> <tr><td>合計</td><td>23</td><td>228</td></tr> </tbody> </table>	言語名	平成30年度新規登録者数	平成31年3月時点登録者数	英語	1	64	中国語	12	79	スペイン語	1	14	韓国・朝鮮語	1	12	台湾語		5	ベトナム語		10	ポルトガル語	1	11	タイ語		5	フランス語		3	インドネシア語		4	イタリア語		2	ロシア語		2	ヒンディー語		2	ネパール語	3	6	モンゴル語		1	アラビア語	1	2	フィリピン語		1	ベンガル語		1	マレー語		1	カンボジア語	1	1	ビサヤ語	1	1	チャバカノ語	1	1	合計	23	228	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ評価とする法人の自己評価は妥当であると判断した。
言語名	平成30年度新規登録者数	平成31年3月時点登録者数																																																																											
英語	1	64																																																																											
中国語	12	79																																																																											
スペイン語	1	14																																																																											
韓国・朝鮮語	1	12																																																																											
台湾語		5																																																																											
ベトナム語		10																																																																											
ポルトガル語	1	11																																																																											
タイ語		5																																																																											
フランス語		3																																																																											
インドネシア語		4																																																																											
イタリア語		2																																																																											
ロシア語		2																																																																											
ヒンディー語		2																																																																											
ネパール語	3	6																																																																											
モンゴル語		1																																																																											
アラビア語	1	2																																																																											
フィリピン語		1																																																																											
ベンガル語		1																																																																											
マレー語		1																																																																											
カンボジア語	1	1																																																																											
ビサヤ語	1	1																																																																											
チャバカノ語	1	1																																																																											
合計	23	228																																																																											

中期計画	年度計画	法人の自己評価		知事の評価																																																																									
		評価の判断理由（実施状況等）	評価	評価	評価の判断理由・評価のコメントなど																																																																								
	<p>各病院においては、患者の癒しにつながるアート活動・演奏等をはじめ、採血室の案内、小児患者への対応など、さまざまなボランティアを受け入れる。</p>	<p>手話通訳者・通訳ボランティアの病院別延べ利用実績（単位：人）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>病院名</th> <th>区分</th> <th>平成28年度 実績</th> <th>平成29年度 実績</th> <th>平成30年度 実績</th> <th>対前年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">急性期C</td> <td>手話通訳者</td> <td>2,005</td> <td>2,091</td> <td>2,070</td> <td>△ 21</td> </tr> <tr> <td>通訳ボランティア</td> <td>224</td> <td>400</td> <td>608</td> <td>208</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">はびきのC</td> <td>手話通訳者</td> <td>361</td> <td>438</td> <td>439</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>通訳ボランティア</td> <td>102</td> <td>84</td> <td>161</td> <td>77</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">精神C</td> <td>手話通訳者</td> <td>226</td> <td>143</td> <td>114</td> <td>△ 29</td> </tr> <tr> <td>通訳ボランティア</td> <td>73</td> <td>78</td> <td>83</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">国際がんC</td> <td>手話通訳者</td> <td>9</td> <td>11</td> <td>9</td> <td>△ 2</td> </tr> <tr> <td>通訳ボランティア</td> <td>26</td> <td>52</td> <td>50</td> <td>△ 2</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">母子C</td> <td>手話通訳者</td> <td>164</td> <td>161</td> <td>192</td> <td>31</td> </tr> <tr> <td>通訳ボランティア</td> <td>673</td> <td>646</td> <td>727</td> <td>81</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">合計</td> <td>手話通訳者</td> <td>2,765</td> <td>2,844</td> <td>2,824</td> <td>△ 20</td> </tr> <tr> <td>通訳ボランティア</td> <td>1,098</td> <td>1,260</td> <td>1,629</td> <td>369</td> </tr> </tbody> </table> <p>○ 多様なボランティアの受入れ 各病院において、患者の癒しにつながるアート活動や演奏など多様なボランティアの参画を得て、療養環境の向上に努めた。</p> <p>【急性期C】 中央採血室受付機の操作補助及び採血室への案内ボランティア 大阪府鍼灸マッサージ師会によるハンドマッサージ（月2回） 保育学生による小児病棟でのボランティア など</p> <p>【はびきのC】 小・中学生長期入院児を対象とした学習指導（週2回） 小児科患児の健康回復のため実施する野外活動の付添い 総合受付での案内ボランティア など</p> <p>【国際がんC】 ボランティアによるクリスマスピアノコンサートや声楽コンサート ボランティアを受け入れるための規程やマニュアルの整備 など</p> <p>【母子C】 ファミリーハウスを活用した「きょうだいお預かり」 ボランティア手作りバザーの開催 「ママ達の手芸教室」の開催（月1回） など</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 20px;"> <p><評価の理由> 新たな通訳ボランティアを確保するとともに、また、各病院において多様なボランティアを受け入れたことから、Ⅲ評価とした。</p> </div>	病院名	区分	平成28年度 実績	平成29年度 実績	平成30年度 実績	対前年度	急性期C	手話通訳者	2,005	2,091	2,070	△ 21	通訳ボランティア	224	400	608	208	はびきのC	手話通訳者	361	438	439	1	通訳ボランティア	102	84	161	77	精神C	手話通訳者	226	143	114	△ 29	通訳ボランティア	73	78	83	5	国際がんC	手話通訳者	9	11	9	△ 2	通訳ボランティア	26	52	50	△ 2	母子C	手話通訳者	164	161	192	31	通訳ボランティア	673	646	727	81	合計	手話通訳者	2,765	2,844	2,824	△ 20	通訳ボランティア	1,098	1,260	1,629	369			
病院名	区分	平成28年度 実績	平成29年度 実績	平成30年度 実績	対前年度																																																																								
急性期C	手話通訳者	2,005	2,091	2,070	△ 21																																																																								
	通訳ボランティア	224	400	608	208																																																																								
はびきのC	手話通訳者	361	438	439	1																																																																								
	通訳ボランティア	102	84	161	77																																																																								
精神C	手話通訳者	226	143	114	△ 29																																																																								
	通訳ボランティア	73	78	83	5																																																																								
国際がんC	手話通訳者	9	11	9	△ 2																																																																								
	通訳ボランティア	26	52	50	△ 2																																																																								
母子C	手話通訳者	164	161	192	31																																																																								
	通訳ボランティア	673	646	727	81																																																																								
合計	手話通訳者	2,765	2,844	2,824	△ 20																																																																								
	通訳ボランティア	1,098	1,260	1,629	369																																																																								

中期計画	年度計画	法人の自己評価		知事の評価	
		評価の判断理由（実施状況等）	評価	評価	評価の判断理由・評価のコメントなど
<p>第2 業務運営の改善及び効率化に関する事項</p>					
中期目標	<ul style="list-style-type: none"> ・病院を取り巻く環境の変化に迅速に対応するため、組織マネジメントの強化と業務運営の改善及び効率化の取組を進め、経営体制の強化を図ること。 				
<p>第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置</p>					
中期計画	<ul style="list-style-type: none"> ・高度専門医療の提供及び府域の医療水準の向上等、将来にわたり府民の期待に応えられるよう、安定的な病院経営を確立するための組織体制を強化し、経営基盤の安定化を図る。 				
<p>第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置 1 組織体制の確立 (1) 組織マネジメントの強化</p>					
中期目標	<ul style="list-style-type: none"> ・各病院が自らの特性や実情を踏まえ、より機動的に業務改善に取り組むことができるよう、各病院の自立性を発揮できる組織体制を確立する一方、機構経営全体に対するマネジメント機能を強化すること。 ① 高い専門性を持った人材の育成及び確保 <ul style="list-style-type: none"> ・病院運営における環境の変化や専門性の高まりに対応できるよう、事務部門において、高い専門性を持った職員の育成及び確保に努めること。 ・なお、府派遣職員については、計画的に機構採用職員への切替え等を進めること。 ② 人事評価制度及び給与制度の適正な運用 <ul style="list-style-type: none"> ・職員の資質、能力及び勤務意欲の向上を図るため、公正で客観的な人事評価制度及び適正な評価に基づく給与制度の運用に努めること。 				
<p>自立した地方独立行政法人として目指す基本理念を実現できるよう、5病院一体運営によるメリットを活かしつつ、各病院の特性や自立性を発揮できる制度及び組織づくりを進める。</p>	<p>病院経営の中核をなす事務部門が「専門集団」として経営の一翼を担っていけるよう、引き続き、職員それぞれの特性に応じたキャリアアップができる人事制度を構築するとともに、組織力のさらなる向上を図るため、事務部門の改革を実施する。</p>	<p>○ 事務部門の改革の取組 職員それぞれの特性に応じたキャリアアップができるように、「医療事務」や「経理」等の目的別研修を開催するなど、職員の育成に取り組んだ。 また、平成30年度より「OJT トレーナー研修」を新設し、OJT トレーナーに指名された事務職員に対してトレーナーの役割等に関する研修を行った。</p>			

中期計画	年度計画	法人の自己評価		知事の評価	
		評価の判断理由（実施状況等）	評価	評価	評価の判断理由・評価のコメントなど
	<p>病院事務局について、管理部門と企画部門を基本とする標準組織モデルを踏まえ、実務機能の向上と併せてリーダーを配置し、病院事務局組織を「ピラミッド型」から「鍋蓋型」の組織に再構築して、迅速な意思決定が可能な組織体制を目指す。</p>	<p>管理部門と企画部門を基本とする標準組織モデルに基づき、病院事務局の体制を整備し、職制をフラット化して、迅速な意思決定が可能な組織体制を平成30年度も継続し、体制を定着させた。</p>			
<p>① 組織管理体制の充実 評価番号【21】</p> <p>法人運営全体を見通しつつ、病院の自立性や特性を重視した組織決定を行うため、理事会や経営会議等の運営に加え、病院ごとの個別協議により各病院の経営課題の共有化を図る。 また、各病院間の人事配置の流動化や本部・病院の機能分担の見直し等により、法人としての組織力の強化を図る。更に、内部統制や制度構築等本部機能を強化し、戦略的・効率的な経営に取り組む。</p>	<p>理事長のリーダーシップのもと、理事会や経営会議等を通じ、5病院が法人として一丸となって、医療面及び経営面における改善に取り組む。また、理事会や経営会議に加えて、病院ごとの個別協議の実施により、各病院の具体的な課題の把握と改善に努め、共有化を図る。</p> <p>各病院においては、それぞれの専門性に応じた役割を果たし、自律的な病院運営に取り組む。</p> <p>本部事務局においては、法人全体の運営や各病院間の調整等を担うなど、病院の支援機能を果たす。</p>	<p>○ 機構全体としての取組 理事会や経営会議をはじめとした各種会議を通じ、機構全体での課題や各病院における課題に関する意見交換や情報共有を行い、医療面及び経営面における課題の洗い出し・改善に努めるとともに、規程等の改正や補正予算の執行など、理事長のリーダーシップのもと柔軟な組織運営に努めた。また、各病院の具体的な課題の共有化を図るため、病院ごとの個別協議を実施し、改善策について検討を行った。</p> <p>【理事会】 10回開催 ・参加者：理事長、理事、病院長、本部マネージャー、監事 ・議題：規定の改正、定款の変更、決算・業務実績報告書等の承認 など</p> <p>【役員懇談会】 11回開催 ・参加者：理事長、理事、病院長、本部マネージャー、監事 ・議題：月次報告、資金収支見込 など</p> <p>【経営会議】 4回開催（病院協議 5回開催） ・参加者：理事長、理事、病院長、各病院事務局長、本部マネージャー、監事 ・議題：年度計画、予算の策定、各病院における経営課題 など</p> <p>【事務局長会議】 12回開催 ・参加者：理事長、本部・各病院事務局長、本部マネージャー ・議題：制度・規則の改正、患者サービスの向上のための取組 など</p> <p>【副院長会議】 4回開催 ・参加者：理事長、本部事務局長、各病院副院長、本部マネージャー ・議題：医師の職務に関する検討、診療材料に係る課題 など</p> <p>【看護部長会議】 12回開催 ・参加者：理事長、本部事務局長、各病院看護部長、本部マネージャー ・議題：看護師の職務に関する検討、看護実習に係る検討 など</p> <p>【薬局長会議】 3回開催 ・参加者：理事長、本部事務局長、各病院薬局長、本部マネージャー ・議題：薬局の職務に関する検討、医薬品に係る課題 など</p> <p>各病院においては、自院の経営管理や提供する医療内容等に係る検討、その他病院運営に係る重要事項の意思決定を行う運営会議（幹部会議）を毎週・隔週などで開催し、自律的な病院運営に努めた。</p> <p>本部事務局は、上記各種会議に加え次長会議、各グループリーダー会議など部門別の会議運営や、各病院間の調整等を行うとともに、法人全般にわたる企画機能、人事や財務などに関する総合調整機能を引き続き果たした。</p>	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ評価とする法人の自己評価は妥当であると判断した。

中期計画	年度計画	法人の自己評価		知事の評価	
		評価の判断理由（実施状況等）	評価	評価	評価の判断理由・評価のコメントなど
② 組織力の強化					
<p>良質な医療サービスを継続的に提供するため、府からの派遣職員については、機構採用職員に計画的に切替えるとともに、病院経営に係る専門性や経営感覚を有する人材育成を進める。</p> <p>また、受験資格、採用方法や時期等を工夫し、計画的な採用に努め、研修機能の充実、人事・昇任制度の整備により優れた人材を適材適所に配置する。</p>	<p>組織力を強化するため、各部門職員の必要数を精査し、個々の職員が持つ職務遂行能力や適性を反映した人事配置とする。</p> <p>事務職員が個人の特性に応じたキャリアアップが可能な人事制度を確立し、事務部門の組織力のさらなる強化を図る。</p> <p>事務職について、人事ヒアリングやキャリアシートの提出及びチャレンジコースの運用により、本人の能力・適性とともに職員本人の将来志向や意欲を把握し、異動・昇任に活用する。</p> <p>昇任基準（昇任までの必要在級年数）に基づき、意欲や能力のある職員を計画的に登用する。</p> <p>職員の能力・適性・意欲に応じた人材育成を行うとともに、人材の流動化を促進し、職員の幅広い能力や視野の育成を図る。</p>	<p>○ 組織力の強化に向けた取組 良質な医療サービスを継続的に提供するため、医療需要の質の変化や患者動向等に迅速に対応できるよう、必要性に応じて職員の定数を増員あるいは減員するとともに、各職員の職務遂行能力等を反映した人事異動を実施するなど、効果的な人員配置に努めた。</p> <p>○ 事務部門の強化に向けた取組 個々の職員の意欲や特性を重視し、チャレンジコース（リーダー又はサブリーダーのポストへの登用について、機構内部から希望者を公募する制度）を実施して、組織力の強化を図った。</p> <p>人事ヒアリングの実施によって、職員本人の能力・適性等を把握し、異動・昇任に活用した。</p> <p>昇任基準（昇任までの必要在級年数）に基づき、計画的な幹部登用に向け、昇任を実施した。</p> <p>職員の能力等の向上に有効な研修の検討及び実施とともに、異動ルール（職階ごとに標準在籍期間を設定）に基づき、人材の流動化を促進した。</p>			
③ 給与制度と連動した人事評価制度の構築					
<p>職員の勤務意欲等の一層の向上を図るため、医療現場の実態に即した公正で客観的な人事評価制度を運用し、職員の業績や資質及び能力を評価して給与へ反映させるとともに、職員の人材育成及び人事管理に活用する。</p>	<p>職員の勤務意欲等の一層の向上を図るため、法人の人事評価制度を適正に運用する。</p> <p>法人の経営状況等を考慮しつつ、前年度の人事評価の結果を、昇給や勤勉手当などに反映させる。</p>	<p>○ 人事評価制度の運用 病院実態に対応できるよう必要な改善を行いながら、法人の人事評価制度を適正に運用した。また、平成29年度の人事評価結果を、プロパー職員の昇給や勤勉手当に反映させた。</p>			

中期計画	年度計画	法人の自己評価		知事の評価	
		評価の判断理由（実施状況等）	評価	評価	評価の判断理由・評価のコメントなど
<p>④ 一般地方独立行政法人（非公務員型）による制限の緩和</p> <p>多様な勤務形態の導入を検討し、ワークライフバランスに配慮した職員満足度の高い職場づくりをめざす。 職員ポータルサイト等を活用して情報を共有し職員間情報ギャップを埋めるとともに、職員の一体感を醸成する。</p>	<p>（再掲）多様な勤務形態や育児支援に向けたサービス導入など、女性医療スタッフが自らのライフスタイルやライフステージに応じた働き方の実現に向けた検討を進める。</p> <p>短時間常勤職員制度の利用促進等を通じ、ライフスタイルやライフステージに応じた働き方の実現に努める。</p> <p>平成29年度に策定した「長時間労働の防止」及び「時間外勤務の把握・管理方法」を目的としたガイドラインに基づき、職員のワークライフバランス向上及び勤務条件の改善等を図る。</p> <p>本部事務局から法人の経営状況について発信するなど、職員間の経営情報の共有化に努める。</p>	<p>○ 一般地方独立行政法人（非公務員型）による制限の緩和 （再掲）育児のための短時間勤務制度を運用するなど、女性医療スタッフのライフスタイルやライフステージに応じた働き方を支援した。（短時間勤務制度取得者：平成30年度 医師 9名、看護師 71名、前年度 医師 8名、看護師 55名）</p> <p>また、より働きやすい環境を整備するため、育児短時間の取得勤務形態の追加及び休日の代休指定単位の変更を行った（施行は平成31年4月1日）。</p> <p>さらに、職員採用募集ホームページ等により、子育て中の医師の方へ向けた支援制度等について、引き続き情報提供を行った。</p> <p>育児短時間勤務の取得類型の追加や、柔軟な代休指定による一層の取得促進のため休日の代休指定を半日指定可とする改正を行うなど、職員のワークライフバランス向上及び勤務条件の改善等を図った。</p> <p>職員ポータルサイトを活用して、平成29事業年度の業務実績に関する評価結果を発信するなど、職員間の機構の経営情報の共有化に努めた。</p>			
		<p><評価の理由> 機構全体で医療面及び経営面における改善に取り組むとともに、各病院においては自律的な病院運営に取り組んだ。また、事務部門の強化に向けた取組を実施するなど、組織力の強化について計画的に取り組んだことから、Ⅲ評価とした。</p>			

中期計画	年度計画	法人の自己評価		知事の評価	
		評価の判断理由（実施状況等）	評価	評価	評価の判断理由・評価のコメントなど
<p>第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>1 組織体制の確立 (2) 診療体制の強化及び人員配置の弾力化</p>					
中期目標	<p>・医療環境の変化や府民の医療ニーズに迅速に対応できるよう、勤務形態の多様化や各病院間の協力体制の整備を行い、診療科の再編や職員の配置を弾力的に行うこと。</p>				
<p>評価番号【22】</p> <p>医療需要の質の変化や患者動向に迅速に対応するため、各部門の生産性や収益性を踏まえ、診療科の変更、医師等の配置の弾力化、常勤以外の雇用形態を含む多様な専門職の活用等を行うとともに、各病院間での医師、看護師等の交流等の協力体制を実施しつつ、効率的で効果的な医療の提供を行う。</p>	<p>法人内の各病院間での兼任や応援など、医師・看護師等の交流のための協力体制等を整備する。</p> <p>大阪急性期・総合医療センターにおいて、新生児科を新設するとともに、産婦人科を産科と婦人科に分科し、診療科を再編する。</p>	<p>○ 病院間での協力体制 （再掲）大阪急性期・総合医療センターから大阪母子医療センターへ、臓器移植対応のために医師の兼務による専門的技術応援を実施するなど、効率的・効果的に医療機能を発揮するため、法人間で医師の兼務や応援を必要に応じて実施した。</p> <p>○ 診療科・組織体制の再編 大阪急性期・総合医療センターにおいて、平成30年4月より、新生児科を新設するとともに、産婦人科を産科と婦人科に分科し、診療科を再編した。</p>	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ評価とする法人の自己評価は妥当であると判断した。
		<p>＜評価の理由＞ 各病院間での兼務や応援を継続するとともに、大阪急性期・総合医療センターにおける診療科の設置を計画どおり実施したことから、Ⅲ評価とした。</p>			

中期計画	年度計画	法人の自己評価		知事の評価	
		評価の判断理由（実施状況等）	評価	評価	評価の判断理由・評価のコメントなど
<p>第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>1 組織体制の確立</p> <p>(3) コンプライアンスの徹底</p>					
中期目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公的医療機関としての使命を適切に果たすため、法令を遵守することはもとより、行動規範と倫理を確立し、適正な運営を行うこと。労働安全衛生法（昭和47年法律第57号）が改正されたことを受けて、的確な対応を図ること。 ・ また、患者等に関する個人情報の保護及び情報公開の取扱いについては、大阪府個人情報保護条例（平成8年大阪府条例第2号）及び大阪府情報公開条例（平成11年大阪府条例第39号）に基づき、適切に対応するとともに、情報のセキュリティ対策強化に努めること。 ・ 更に、職員一人ひとりが社会的信用を高めることの重要性を改めて認識し、誠実かつ公正に職務を遂行するため、業務執行におけるコンプライアンス徹底の取組を推進すること。 				
<p>① 医療倫理の確立等</p>					
<p>評価番号【23】</p> <p>業務執行におけるコンプライアンスを徹底するため、内部規律の策定や倫理委員会によるチェックを行うとともに、意識啓発のための取組を定期的・継続的に実施していく。また、業務の適正かつ能率的な執行を図るため監査等を実施するとともに、外部の監査等第三者による評価を引き続き実施するとともに、職員のための相談機能の充実を図る。</p> <p>また、個人情報保護及び情報公開に関しては、大阪府個人情報保護条例（平成8年大阪府条例第2号）及び大阪府情報公開条例（平成11年大阪府条例第39号）に基づき適切に対応するとともに、マイナンバー制度導入に伴い、個人情報の取り扱いについての管理体制の強化を図る。</p>	<p>各病院においては、医療法をはじめとする関係法令を遵守するとともに、外部委員も参画した倫理委員会によるチェック等を通じて、医療倫理の確立に努める。</p> <p>業務執行におけるコンプライアンスを徹底するため、法令及び法人の諸規程を周知し、役職員のコンプライアンスを確立することを目的とした研修を実施する。加えて法人全体や各病院での研修等のフィードバックの体制を充実する。また、コンプライアンス月間を設定し、意識啓発のための取組を定期的、継続的に実施していく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 倫理委員会の開催 各病院においては、外部委員も参画した倫理委員会の本委員会及び小委員会を定期的に開催し、臨床研究や先進医療、役員及び職員の行動規範など倫理の確立に努めた。 ○ コンプライアンスの徹底 役員及び職員のコンプライアンスを確立するために、本部事務局及び各病院において以下の取組を実施した。また、平成30年12月をコンプライアンス月間とし、綱紀保持基本指針FAQ及びセルフチェックシートによる周知、意識啓発を行うとともに、各病院において、医師向けの説明会等を実施した。 【コンプライアンスに係る主な研修】 ・ 新規採用職員研修：機構職員倫理等の解説 ・ コンプライアンス研修：個人情報保護、コンプライアンス 【本部事務局から各病院への通知等】 ・ 諸規程の更新状況はポータルに掲載や、担当部局への個別の連絡を通じ、周知を行った。 ・ 大阪府人事室からの職員啓発メールの伝達…対象：府派遣職員・事務職員等 【コンプライアンスに関する通報窓口への通報実績】 平成28年度に設置したコンプライアンスに関する通報窓口において、5件の通報を受け付け、適切に対応した。（前年度：6件） ○ 危機管理の徹底 危機管理の徹底、緊急時に即応できるよう、機構で定めている危機管理基本指針の運用を図るとともに緊急連絡網や体制表の更新を行った。 	III	III	III評価とする法人の自己評価は妥当であると判断した。

中期計画	年度計画	法人の自己評価		知事の評価	
		評価の判断理由（実施状況等）	評価	評価	評価の判断理由・評価のコメントなど
	<p>業務の適正かつ能率的な執行を図るため監事監査に加え、内部監査等を実施するとともに、外部の監査など第三者による評価を引き続き実施する。</p>	<p>○ 監査の実施状況 監事監査については、理事会・役員懇談会等において業務全般についてモニタリングを実施した。</p> <p>会計監査については、会計監査人が独立者の立場から監査を実施し、監事に報告することで、監事における会計監査の実施とみなしている。なお、監事が必要と認める事項等については、内部監査に付託することとしている。</p> <p>内部監査については、監事から付託された事項及び役員等が必要と認める事項について、定期監査を実施した。なお、特に必要と認める事項については、臨時監査を行うこととしている。</p> <p>第三者による評価として、大阪府監査等による評価を引き続き実施し、監査を補完した。なお、第三者評価を含め、監査に関係する事項は、監事・会計監査人・内部監査実施者で共有している。</p>			
② 診療情報の適正な管理					
	<p>カルテ等の個人の診療情報については、大阪府個人情報保護条例（平成8年大阪府条例第2号）、及びカルテ等の診療情報の提供に関する規程に基づき、患者及びその家族に対して、カルテ等を適切に開示する。</p> <p>職員に対し、個人情報の保護に関する研修の実施及び個人情報漏洩に関する事例等の配信による意識啓発を行う。</p>	<p>○ 診療情報開示への対応 各病院において、「個人情報の取扱及び管理に関する規程」や「カルテ等の診療情報の提供に関する規程」等に基づき、カルテ開示の申出に適切に対応した。</p> <p>○ 個人情報の保護に関する研修の実施 病院にとって重要な個人情報保護、個人情報の漏洩や流失等のコンプライアンス上のリスクを学ぶことを目的として、全職員対象の「コンプライアンス研修」を実施した。</p>			
		<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p><評価の理由> コンプライアンス研修の実施等、機構全体でコンプライアンスの徹底に取り組むとともに、第三者による監査を計画どおり実施した。また、カルテ開示の際は規程に基づいて対応するなど、個人情報の適切な管理に取り組んだため、Ⅲ評価とした。</p> </div>			

中期計画	年度計画	法人の自己評価		知事の評価																																											
		評価の判断理由（実施状況等）	評価	評価	評価の判断理由・評価のコメントなど																																										
<p>第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置 2 経営基盤の安定化 (1) 効率的・効果的な業務運営・業務プロセスの改善</p>																																															
中期目標	<p>・医療の内容や規模等が類似する他の医療機関との比較等により、医療機能や経営に対する指標と目標値を適切に設定の上、PDCAサイクルによる目標管理を徹底すること。</p>																																														
中期計画	<p>・機動性及び透明性の高い病院経営を行う地方独立行政法人法の趣旨を踏まえ、その特徴を十分に活かし、予測困難な外的要因の影響が想定される中、より一層効率的・効果的な業務運営を行うとともに、より多くの患者に質の高い医療サービスを効果的に提供することにより収入の確保に努める等、自発的に経営改善を進める。</p>																																														
① 自律的な経営管理の推進																																															
<p>評価番号【24】</p> <p>中期計画及び年度計画に掲げる組織目標の着実な達成に向けて、病院別の実施計画を作成し、各病院が自立的に取り組むとともに、月次報告を踏まえた経営分析や、他の医療機関との比較等も行い、機動的及び戦略的な運営を行う。 職員の病院経営への参画意識を醸成し、自発的な経営改善や業務の効率化の取組を推進する。</p>	<p>中期計画及び年度計画に掲げる組織目標の着実な達成に向けて、病院別の月次報告及び月次決算を踏まえた経営分析等によって課題を把握し、必要な対応を迅速に行うなど、機動的な運営を行う。</p>	<p>○ 計画達成に向けた経営分析の実施 年度計画の達成に向けて、財務会計システムを活用しながら病院別の月次決算を作成し、計画や前年度実績との比較、経営状況の整理、分析などを行った。また、各病院が診療及び財務データの月次報告を作成し、毎月開催される役員懇談会において計画の進捗状況を報告することで現状・課題を把握し、改善に向けて取り組んだ。 各病院の個別課題や経営改善に向けた取組、将来構想などについて意見交換を行う病院協議を実施した。病院協議後には、経営会議等にて取組の進捗状況の確認を適宜行った。</p> <p>○ 財務の状況（資金収支ベース） 医業収入は、前年度と比較して43.1億円上回る808.8億円となり、計画も35.9億円上回った。支出面では、収入の伸びに伴う材料費の増などにより医業支出は前年度と比較して48.5億円の増加となり、計画を20.6億円上回った。</p> <p>資金収支の状況（法人全体）（単位：億円） ※資金収支ベース</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成28年度 実績</th> <th>平成29年度 実績</th> <th>平成30年度 目標</th> <th>平成30年度 実績</th> <th>目標差 前年度差</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>収入</td> <td>1,119.4</td> <td>914.4</td> <td>889.5</td> <td>926.1</td> <td>36.6 11.8</td> </tr> <tr> <td>うち医業収入</td> <td>712.2</td> <td>765.8</td> <td>773.0</td> <td>808.8</td> <td>35.9 43.1</td> </tr> <tr> <td>支出</td> <td>1,115.1</td> <td>892.3</td> <td>896.1</td> <td>924.0</td> <td>27.8 31.7</td> </tr> <tr> <td>うち医業支出</td> <td>744.2</td> <td>777.8</td> <td>805.7</td> <td>826.3</td> <td>20.6 48.5</td> </tr> <tr> <td>うち資本支出</td> <td>358.5</td> <td>100.3</td> <td>77.6</td> <td>80.2</td> <td>2.6 △ 20.1</td> </tr> <tr> <td>資金収支差</td> <td>4.2</td> <td>22.1</td> <td>△ 6.6</td> <td>2.2</td> <td>8.8 △ 19.9</td> </tr> </tbody> </table>		平成28年度 実績	平成29年度 実績	平成30年度 目標	平成30年度 実績	目標差 前年度差	収入	1,119.4	914.4	889.5	926.1	36.6 11.8	うち医業収入	712.2	765.8	773.0	808.8	35.9 43.1	支出	1,115.1	892.3	896.1	924.0	27.8 31.7	うち医業支出	744.2	777.8	805.7	826.3	20.6 48.5	うち資本支出	358.5	100.3	77.6	80.2	2.6 △ 20.1	資金収支差	4.2	22.1	△ 6.6	2.2	8.8 △ 19.9	III	III	<p>III評価とする法人の自己評価は妥当であると判断した。</p>
	平成28年度 実績	平成29年度 実績	平成30年度 目標	平成30年度 実績	目標差 前年度差																																										
収入	1,119.4	914.4	889.5	926.1	36.6 11.8																																										
うち医業収入	712.2	765.8	773.0	808.8	35.9 43.1																																										
支出	1,115.1	892.3	896.1	924.0	27.8 31.7																																										
うち医業支出	744.2	777.8	805.7	826.3	20.6 48.5																																										
うち資本支出	358.5	100.3	77.6	80.2	2.6 △ 20.1																																										
資金収支差	4.2	22.1	△ 6.6	2.2	8.8 △ 19.9																																										

中期計画	年度計画	法人の自己評価		知事の評価																																																																																																																															
		評価の判断理由（実施状況等）	評価	評価	評価の判断理由・評価のコメントなど																																																																																																																														
<p>経常収支比率に係る目標 （単位：％）</p> <p>平成32年度</p> <p>急性期C 100.4 はびきのC 103.2 精神C 102.9 国際がんC 100.3 母子C 100.6 機構全体 99.8</p> <p>（備考）経常収支比率＝（営業収益＋営業外収益）÷（営業費用＋営業外費用）×100 （機構全体においては、営業費用に一般管理費を含む。）</p> <p>医業収支比率に係る目標 （単位：％）</p> <p>平成32年度</p> <p>急性期C 98.2 はびきのC 92.5 精神C 71.1 国際がんC 94.4 母子C 91.1 機構全体 92.4</p> <p>（備考）医業収支比率＝医業収益÷医業費用×100 （機構全体においては、医業費用に一般管理費を含む。）</p>		<p>評価の判断理由（実施状況等）</p> <p>医業収入（億円） ※資金収支ベース</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>病院名</th> <th>平成28年度実績</th> <th>平成29年度実績</th> <th>平成30年度目標</th> <th>平成30年度実績</th> <th>目標差 前年度差</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>急性期C</td><td>269.6</td><td>277.4</td><td>285.8</td><td>295.5</td><td>9.7 18.0</td></tr> <tr><td>はびきのC</td><td>79.0</td><td>84.3</td><td>89.8</td><td>91.0</td><td>1.1 6.7</td></tr> <tr><td>精神C</td><td>38.7</td><td>38.2</td><td>39.9</td><td>40.1</td><td>0.3 2.0</td></tr> <tr><td>国際がんC</td><td>190.1</td><td>224.6</td><td>219.2</td><td>243.6</td><td>24.4 19.0</td></tr> <tr><td>母子C</td><td>134.9</td><td>141.3</td><td>138.2</td><td>138.7</td><td>0.5 △ 2.7</td></tr> <tr><td>法人全体</td><td>712.2</td><td>765.8</td><td>773.0</td><td>808.8</td><td>35.9 43.1</td></tr> </tbody> </table> <p>経常収支比率（単位：％） ※損益ベース</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>病院名</th> <th>平成28年度実績</th> <th>平成29年度実績</th> <th>平成30年度目標</th> <th>平成30年度実績</th> <th>目標差 前年度差</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>急性期C</td><td>104.4</td><td>100.6</td><td>100.0</td><td>100.7</td><td>0.7 0.1</td></tr> <tr><td>はびきのC</td><td>98.5</td><td>100.0</td><td>101.8</td><td>102.6</td><td>0.8 2.6</td></tr> <tr><td>精神C</td><td>103.3</td><td>101.8</td><td>100.8</td><td>104.1</td><td>3.3 2.3</td></tr> <tr><td>国際がんC</td><td>95.5</td><td>99.5</td><td>97.0</td><td>99.0</td><td>2.0 △ 0.5</td></tr> <tr><td>母子C</td><td>102.8</td><td>102.9</td><td>99.6</td><td>99.0</td><td>△ 0.6 △ 3.9</td></tr> <tr><td>法人全体</td><td>99.8</td><td>99.7</td><td>98.3</td><td>99.4</td><td>1.1 △ 0.3</td></tr> </tbody> </table> <p>医業収支比率（単位：％） ※損益ベース</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>病院名</th> <th>平成28年度実績</th> <th>平成29年度実績</th> <th>平成30年度目標</th> <th>平成30年度実績</th> <th>目標差 前年度差</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>急性期C</td><td>99.6</td><td>97.4</td><td>97.6</td><td>98.1</td><td>0.5 0.7</td></tr> <tr><td>はびきのC</td><td>88.1</td><td>89.7</td><td>91.8</td><td>93.1</td><td>1.3 3.4</td></tr> <tr><td>精神C</td><td>70.4</td><td>69.5</td><td>70.8</td><td>73.1</td><td>2.3 3.6</td></tr> <tr><td>国際がんC</td><td>92.3</td><td>94.3</td><td>91.8</td><td>94.5</td><td>2.7 0.2</td></tr> <tr><td>母子C</td><td>93.3</td><td>93.6</td><td>93.3</td><td>90.2</td><td>△ 3.1 △ 3.4</td></tr> <tr><td>法人全体</td><td>91.9</td><td>92.1</td><td>91.7</td><td>92.5</td><td>0.8 0.4</td></tr> </tbody> </table> <p>※法人全体は、医業収益／（医業費用＋一般管理費）</p>	病院名	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度目標	平成30年度実績	目標差 前年度差	急性期C	269.6	277.4	285.8	295.5	9.7 18.0	はびきのC	79.0	84.3	89.8	91.0	1.1 6.7	精神C	38.7	38.2	39.9	40.1	0.3 2.0	国際がんC	190.1	224.6	219.2	243.6	24.4 19.0	母子C	134.9	141.3	138.2	138.7	0.5 △ 2.7	法人全体	712.2	765.8	773.0	808.8	35.9 43.1	病院名	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度目標	平成30年度実績	目標差 前年度差	急性期C	104.4	100.6	100.0	100.7	0.7 0.1	はびきのC	98.5	100.0	101.8	102.6	0.8 2.6	精神C	103.3	101.8	100.8	104.1	3.3 2.3	国際がんC	95.5	99.5	97.0	99.0	2.0 △ 0.5	母子C	102.8	102.9	99.6	99.0	△ 0.6 △ 3.9	法人全体	99.8	99.7	98.3	99.4	1.1 △ 0.3	病院名	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度目標	平成30年度実績	目標差 前年度差	急性期C	99.6	97.4	97.6	98.1	0.5 0.7	はびきのC	88.1	89.7	91.8	93.1	1.3 3.4	精神C	70.4	69.5	70.8	73.1	2.3 3.6	国際がんC	92.3	94.3	91.8	94.5	2.7 0.2	母子C	93.3	93.6	93.3	90.2	△ 3.1 △ 3.4	法人全体	91.9	92.1	91.7	92.5	0.8 0.4			
病院名	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度目標	平成30年度実績	目標差 前年度差																																																																																																																														
急性期C	269.6	277.4	285.8	295.5	9.7 18.0																																																																																																																														
はびきのC	79.0	84.3	89.8	91.0	1.1 6.7																																																																																																																														
精神C	38.7	38.2	39.9	40.1	0.3 2.0																																																																																																																														
国際がんC	190.1	224.6	219.2	243.6	24.4 19.0																																																																																																																														
母子C	134.9	141.3	138.2	138.7	0.5 △ 2.7																																																																																																																														
法人全体	712.2	765.8	773.0	808.8	35.9 43.1																																																																																																																														
病院名	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度目標	平成30年度実績	目標差 前年度差																																																																																																																														
急性期C	104.4	100.6	100.0	100.7	0.7 0.1																																																																																																																														
はびきのC	98.5	100.0	101.8	102.6	0.8 2.6																																																																																																																														
精神C	103.3	101.8	100.8	104.1	3.3 2.3																																																																																																																														
国際がんC	95.5	99.5	97.0	99.0	2.0 △ 0.5																																																																																																																														
母子C	102.8	102.9	99.6	99.0	△ 0.6 △ 3.9																																																																																																																														
法人全体	99.8	99.7	98.3	99.4	1.1 △ 0.3																																																																																																																														
病院名	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度目標	平成30年度実績	目標差 前年度差																																																																																																																														
急性期C	99.6	97.4	97.6	98.1	0.5 0.7																																																																																																																														
はびきのC	88.1	89.7	91.8	93.1	1.3 3.4																																																																																																																														
精神C	70.4	69.5	70.8	73.1	2.3 3.6																																																																																																																														
国際がんC	92.3	94.3	91.8	94.5	2.7 0.2																																																																																																																														
母子C	93.3	93.6	93.3	90.2	△ 3.1 △ 3.4																																																																																																																														
法人全体	91.9	92.1	91.7	92.5	0.8 0.4																																																																																																																														

中期計画	年度計画	法人の自己評価		知事の評価	
		評価の判断理由（実施状況等）	評価	評価	評価の判断理由・評価のコメントなど
	<p>運営費負担金については、引き続き、患者の積極的な受入れや診療単価の向上による収入の確保や費用の抑制に取り組むなど、病院の経営改善の進捗状況に応じて府と協議していくとともに、用途については明確化及び透明性の確保に努める。</p> <p>中長期的な資金収支を見通して、内部留保を行い、より一層自律的な業務運営に努める。</p> <p>大阪母子医療センターにおける原価管理の運用など、職員の経営参画意識を醸成し、より効率的な業務改善等につなげるための取組を推進する。</p> <p>大阪はびきの医療センター及び大阪精神医療センターにおいては、平成29年度に策定した経営改善計画に基づき、職員が一丸となって経営改善の取組を進める。</p>	<p>運営費負担金の使途については、財務諸表やホームページで公表し、明確化及び透明性の確保に努めた。</p> <p>平成29年度収支決算確定後、収支計画を上回った剰余金について、機構独自の自己資金投資財源のルールに基づき、将来の投資等も考え、センターの内部留保及び法人の内部留保の積み増しを実施した。</p> <p>大阪母子医療センターにおいては、京セラ式原価管理システムを運用し、4半期ごとに全体ミーティングを開催し、各部門から経費削減方策等の取組事項を報告してもらうなど、職員の経営参画意識の向上に繋げた。</p> <p>大阪はびきの医療センター及び大阪精神医療センターにおいては、平成29年度に策定した経営改善計画に基づき、経営改善の取組を進めた。 大阪はびきの医療センターでは、救急患者・重症患者・手術患者の受入れの拡大、小児科における一般診療の開始、消化器内科の再開、DPCへの移行等の取組を進めた。 大阪精神医療センターでは、経営会議を月に1度開催し、定期的な進捗管理や経営改善に向けた取組を実施した。</p>			
② 柔軟性のある予算編成及び予算執行の弾力化					
<p>中期計画で設定した収支目標を達成することを前提に柔軟性のある予算を編成し、弾力的な予算執行を行うことにより、効率的・効果的な業務運営を行う。</p>	<p>経営環境の変化に対応した柔軟性のある予算を編成し、中期計画の枠の中で弾力的な予算執行を行うことにより、効率的・効果的に業務運営を行う。</p>	<p>自己資金投資財源による投資予算及び過年度収入を財源とする支出予算について、効率的、効果的な業務運営が行えるよう、予算の計上方法について整理を行った。この整理により、当初及び補正の予算計上ルールが明確になり、弾力的に予算が執行できるようになった。</p> <p><評価の理由> 計画と比較して、医業収入及び医業支出は増加したが、資金収支差は計画を8.8億円上回る2.2億円であった。 また、大阪はびきの医療センターや大阪精神医療センターにおいては、平成29年度に策定した経営改善計画の取組を進め、両センターの医業収支比率は目標及び前年度を上回った。 以上を踏まえ、自律的な経営管理及び柔軟な予算編成・予算執行を行ったことから、Ⅲ評価とした。</p>			

中期計画	年度計画	法人の自己評価		知事の評価													
		評価の判断理由（実施状況等）	評価	評価	評価の判断理由・評価のコメントなど												
<p>第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>2 経営基盤の安定化</p> <p>(2) 収入の確保</p>																	
中期目標	<ul style="list-style-type: none"> ・機構全体での収入目標を定め、病床利用率等収入確保につながる数値目標を適切に設定し、達成に向けた取組を行うこと。 ・引き続き、医業収益を確保するため、効率的に高度専門医療を提供するとともに、診療報酬に対応して診療単価向上のための取組を行うこと。 ・また、診療報酬の請求漏れの防止や未収金対策の強化を図ること。 ・各病院が持つ医療資源の活用や研究活動における外部資金の獲得等により、新たな収入の確保に努めること。 																
① 新患者の積極的な受入れ及び病床の効率的運用																	
<p>評価番号【25】</p> <p>より多くの患者に質の高い医療サービスを効果的に提供することにより、収入の確保に努めるため、地域連携の強化・充実等により、新入院患者の確保と退院支援に努めるとともに、ベッドコントロールの一元管理のもと、病床管理の基準を定めるなど、効率的な運用を行う。</p> <p>病床利用率に係る目標 (単位：%)</p> <p>平成32年度</p> <p>急性期C 94.5 (大阪府市共同住吉母子医療センター(仮称)を除く。)</p> <p>はびきのC 89.3 (一般病床のみ)</p> <p>精神C 88.3</p> <p>国際がんC 95.0 (人間ドック除く)</p> <p>母子C 88.0</p> <p>(備考) 稼働病床数に対する数値(ICUを含む)</p>	<p>次のとおり、各病院においては、地域の病院、診療所等の医療機関をはじめとした、地域の関係機関と連携し、紹介患者など新入院患者を積極的に受け入れる。また、ベッドコントロールをはじめとする病床運営の工夫により、病床利用率の向上を図る。</p> <table border="1"> <tr> <td>大阪急性期・総合医療センター</td> <td>大阪府市共同 住吉母子医療センターの開設に伴い、小児・周産期の患者を積極的に受け入れるとともに、ER部等にて緊急患者の受入れを促進し、新入院患者の確保や病床利用率の向上等を図る。</td> </tr> <tr> <td>大阪はびきの医療センター</td> <td>定期的にベッド調整会議を開催し、地域包括ケア病棟も含めた病床の効率的な運用に努める。</td> </tr> <tr> <td>大阪精神医療センター</td> <td>SLALI(生活習慣改善プログラム)のPR等を行い、新たな患者の受入れに努める。また、認知症や依存症について、治療プログラムの開発・改良を行いながら、新たな入院患者を増やし、病床利用率を向上させる。</td> </tr> </table>	大阪急性期・総合医療センター	大阪府市共同 住吉母子医療センターの開設に伴い、小児・周産期の患者を積極的に受け入れるとともに、ER部等にて緊急患者の受入れを促進し、新入院患者の確保や病床利用率の向上等を図る。	大阪はびきの医療センター	定期的にベッド調整会議を開催し、地域包括ケア病棟も含めた病床の効率的な運用に努める。	大阪精神医療センター	SLALI(生活習慣改善プログラム)のPR等を行い、新たな患者の受入れに努める。また、認知症や依存症について、治療プログラムの開発・改良を行いながら、新たな入院患者を増やし、病床利用率を向上させる。	<p>○ 病床利用率の向上及び新入院患者数確保の取</p> <p>5病院全体の病床利用率については、大阪急性期・総合医療センターを除く4病院は平均在院日数の短縮等によって目標を下回ったが、新入院患者数については、大阪精神医療センター及び大阪母子医療センターは目標・前年度を上回った。</p> <table border="1"> <tr> <td>大阪急性期・総合医療センター</td> <td>大阪府市共同 住吉母子医療センターの開設に伴い、小児・周産期の患者を積極的に受け入れることにより、小児科、新生児科、産科、婦人科の新入院患者は前年度より増加した。また、ER部等にて緊急患者の受入れを促進し、救急車搬入患者数及び緊急入院患者数が前年度よりも増加した結果、新入院患者数は目標を下回ったものの、前年度を大きく上回った。</td> </tr> <tr> <td>大阪はびきの医療センター</td> <td>定期的なベッド調整会議に加え、臨時会議を随時実施することで病床の効率的な運用と新入院患者の受入れに努めたが、病床利用率及び新入院患者数は目標を下回った。 目標を下回った要因として、平均在院日数が短縮した分の入院患者を確保できなかったこと等から、広報を強化して患者確保に努める。</td> </tr> <tr> <td>大阪精神医療センター</td> <td>SLALI(生活習慣改善プログラム)のPRや地域連携推進室の設置の周知に取り組むとともに、医療機関や行政機関からの入院受入れ相談を地域連携推進室に一元化したことや、依存症等の治療プログラムの実施など、新入院患者の受入れに努めた結果、病床利用率は目標を下回ったものの、新入院患者数は目標・前年度を上回った。</td> </tr> </table>	大阪急性期・総合医療センター	大阪府市共同 住吉母子医療センターの開設に伴い、小児・周産期の患者を積極的に受け入れることにより、小児科、新生児科、産科、婦人科の新入院患者は前年度より増加した。また、ER部等にて緊急患者の受入れを促進し、救急車搬入患者数及び緊急入院患者数が前年度よりも増加した結果、新入院患者数は目標を下回ったものの、前年度を大きく上回った。	大阪はびきの医療センター	定期的なベッド調整会議に加え、臨時会議を随時実施することで病床の効率的な運用と新入院患者の受入れに努めたが、病床利用率及び新入院患者数は目標を下回った。 目標を下回った要因として、平均在院日数が短縮した分の入院患者を確保できなかったこと等から、広報を強化して患者確保に努める。	大阪精神医療センター	SLALI(生活習慣改善プログラム)のPRや地域連携推進室の設置の周知に取り組むとともに、医療機関や行政機関からの入院受入れ相談を地域連携推進室に一元化したことや、依存症等の治療プログラムの実施など、新入院患者の受入れに努めた結果、病床利用率は目標を下回ったものの、新入院患者数は目標・前年度を上回った。	III	III	III評価とする法人の自己評価は妥当であると判断した。
大阪急性期・総合医療センター	大阪府市共同 住吉母子医療センターの開設に伴い、小児・周産期の患者を積極的に受け入れるとともに、ER部等にて緊急患者の受入れを促進し、新入院患者の確保や病床利用率の向上等を図る。																
大阪はびきの医療センター	定期的にベッド調整会議を開催し、地域包括ケア病棟も含めた病床の効率的な運用に努める。																
大阪精神医療センター	SLALI(生活習慣改善プログラム)のPR等を行い、新たな患者の受入れに努める。また、認知症や依存症について、治療プログラムの開発・改良を行いながら、新たな入院患者を増やし、病床利用率を向上させる。																
大阪急性期・総合医療センター	大阪府市共同 住吉母子医療センターの開設に伴い、小児・周産期の患者を積極的に受け入れることにより、小児科、新生児科、産科、婦人科の新入院患者は前年度より増加した。また、ER部等にて緊急患者の受入れを促進し、救急車搬入患者数及び緊急入院患者数が前年度よりも増加した結果、新入院患者数は目標を下回ったものの、前年度を大きく上回った。																
大阪はびきの医療センター	定期的なベッド調整会議に加え、臨時会議を随時実施することで病床の効率的な運用と新入院患者の受入れに努めたが、病床利用率及び新入院患者数は目標を下回った。 目標を下回った要因として、平均在院日数が短縮した分の入院患者を確保できなかったこと等から、広報を強化して患者確保に努める。																
大阪精神医療センター	SLALI(生活習慣改善プログラム)のPRや地域連携推進室の設置の周知に取り組むとともに、医療機関や行政機関からの入院受入れ相談を地域連携推進室に一元化したことや、依存症等の治療プログラムの実施など、新入院患者の受入れに努めた結果、病床利用率は目標を下回ったものの、新入院患者数は目標・前年度を上回った。																

中期計画	年度計画	法人の自己評価		知事の評価																																																		
		評価の判断理由（実施状況等）	評価	評価	評価の判断理由・評価のコメントなど																																																	
新入院患者数に係る目標 （単位：人） <table border="0" style="margin-left: 20px;"> <tr><td>平成32年度</td><td></td></tr> <tr><td>急性期C</td><td>19,600</td></tr> <tr><td>はびきのC</td><td>10,160</td></tr> <tr><td>精神C</td><td>1,030</td></tr> <tr><td>国際がんC</td><td>13,195</td></tr> <tr><td>（人間ドック除く）</td><td></td></tr> <tr><td>母子C</td><td>9,680</td></tr> </table>	平成32年度		急性期C	19,600	はびきのC	10,160	精神C	1,030	国際がんC	13,195	（人間ドック除く）		母子C	9,680	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">大阪国際がんセンター</td> <td>ベッドコントロールセンターでの病床一括管理により、病床利用率の向上を図る。</td> </tr> <tr> <td>大阪母子医療センター</td> <td>ベッドコントロールを推進し病床の効率的な利用に努め、病床の有効活用を図る。また、広報の強化等による患者増に努め、病床利用率の向上等を図る。</td> </tr> </table>	大阪国際がんセンター	ベッドコントロールセンターでの病床一括管理により、病床利用率の向上を図る。	大阪母子医療センター	ベッドコントロールを推進し病床の効率的な利用に努め、病床の有効活用を図る。また、広報の強化等による患者増に努め、病床利用率の向上等を図る。	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">大阪国際がんセンター</td> <td>ベッドコントロールセンターでの病床一括管理等を行うとともに、退院支援看護師がスムーズな退院ができるよう患者や家族の支援を図るなど、さらなる病床利用率の向上に取り組んだ結果、病床利用率は目標を下回ったが、前年度を上回った。</td> </tr> <tr> <td>大阪母子医療センター</td> <td>地域医療連携の推進による新規患者等の確保に努めた結果、新入院患者数は目標・前年度を上回ったが、平均在院日数の短縮等により、病床利用率は目標・前年度を下回った。</td> </tr> </table>	大阪国際がんセンター	ベッドコントロールセンターでの病床一括管理等を行うとともに、退院支援看護師がスムーズな退院ができるよう患者や家族の支援を図るなど、さらなる病床利用率の向上に取り組んだ結果、病床利用率は目標を下回ったが、前年度を上回った。	大阪母子医療センター	地域医療連携の推進による新規患者等の確保に努めた結果、新入院患者数は目標・前年度を上回ったが、平均在院日数の短縮等により、病床利用率は目標・前年度を下回った。																														
	平成32年度																																																					
急性期C	19,600																																																					
はびきのC	10,160																																																					
精神C	1,030																																																					
国際がんC	13,195																																																					
（人間ドック除く）																																																						
母子C	9,680																																																					
大阪国際がんセンター	ベッドコントロールセンターでの病床一括管理により、病床利用率の向上を図る。																																																					
大阪母子医療センター	ベッドコントロールを推進し病床の効率的な利用に努め、病床の有効活用を図る。また、広報の強化等による患者増に努め、病床利用率の向上等を図る。																																																					
大阪国際がんセンター	ベッドコントロールセンターでの病床一括管理等を行うとともに、退院支援看護師がスムーズな退院ができるよう患者や家族の支援を図るなど、さらなる病床利用率の向上に取り組んだ結果、病床利用率は目標を下回ったが、前年度を上回った。																																																					
大阪母子医療センター	地域医療連携の推進による新規患者等の確保に努めた結果、新入院患者数は目標・前年度を上回ったが、平均在院日数の短縮等により、病床利用率は目標・前年度を下回った。																																																					
		病床利用率（単位：％） <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">病院名</th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> <th>平成30年度</th> <th>平成30年度</th> <th colspan="2">目標差</th> </tr> <tr> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>目標</th> <th>実績</th> <th>前年度差</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>急性期C</td> <td>91.9</td> <td>90.8</td> <td>88.9</td> <td>87.7</td> <td>△ 1.2</td> <td>△ 3.1</td> </tr> <tr> <td>はびきのC（一般病床のみ）</td> <td>81.6</td> <td>81.6</td> <td>86.2</td> <td>82.1</td> <td>△ 4.1</td> <td>0.5</td> </tr> <tr> <td>精神C</td> <td>85.1</td> <td>83.8</td> <td>87.7</td> <td>86.8</td> <td>△ 0.9</td> <td>3.0</td> </tr> <tr> <td>国際がんC（人間ドック除く）</td> <td>87.2</td> <td>88.6</td> <td>92.7</td> <td>88.8</td> <td>△ 3.9</td> <td>0.2</td> </tr> <tr> <td>母子C</td> <td>90.9</td> <td>91.7</td> <td>89.6</td> <td>89.4</td> <td>△ 0.2</td> <td>△ 2.3</td> </tr> </tbody> </table>		病院名	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成30年度	目標差		実績	実績	目標	実績	前年度差		急性期C	91.9	90.8	88.9	87.7	△ 1.2	△ 3.1	はびきのC（一般病床のみ）	81.6	81.6	86.2	82.1	△ 4.1	0.5	精神C	85.1	83.8	87.7	86.8	△ 0.9	3.0	国際がんC（人間ドック除く）	87.2	88.6	92.7	88.8	△ 3.9	0.2	母子C	90.9	91.7	89.6	89.4	△ 0.2	△ 2.3			
病院名	平成28年度	平成29年度	平成30年度		平成30年度	目標差																																																
	実績	実績	目標	実績	前年度差																																																	
急性期C	91.9	90.8	88.9	87.7	△ 1.2	△ 3.1																																																
はびきのC（一般病床のみ）	81.6	81.6	86.2	82.1	△ 4.1	0.5																																																
精神C	85.1	83.8	87.7	86.8	△ 0.9	3.0																																																
国際がんC（人間ドック除く）	87.2	88.6	92.7	88.8	△ 3.9	0.2																																																
母子C	90.9	91.7	89.6	89.4	△ 0.2	△ 2.3																																																
		新入院患者数（単位：人） <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">病院名</th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> <th>平成30年度</th> <th>平成30年度</th> <th colspan="2">目標差</th> </tr> <tr> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>目標</th> <th>実績</th> <th>前年度差</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>急性期C</td> <td>20,010</td> <td>20,493</td> <td>22,905</td> <td>22,175</td> <td>△ 730</td> <td>1,682</td> </tr> <tr> <td>はびきのC</td> <td>9,183</td> <td>9,862</td> <td>10,390</td> <td>10,071</td> <td>△ 319</td> <td>209</td> </tr> <tr> <td>精神C</td> <td>890</td> <td>955</td> <td>970</td> <td>1,111</td> <td>141</td> <td>156</td> </tr> <tr> <td>国際がんC（人間ドック除く）</td> <td>11,711</td> <td>13,226</td> <td>14,994</td> <td>13,925</td> <td>△ 1,069</td> <td>699</td> </tr> <tr> <td>母子C</td> <td>10,124</td> <td>10,812</td> <td>10,800</td> <td>10,813</td> <td>13</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table>		病院名	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成30年度	目標差		実績	実績	目標	実績	前年度差		急性期C	20,010	20,493	22,905	22,175	△ 730	1,682	はびきのC	9,183	9,862	10,390	10,071	△ 319	209	精神C	890	955	970	1,111	141	156	国際がんC（人間ドック除く）	11,711	13,226	14,994	13,925	△ 1,069	699	母子C	10,124	10,812	10,800	10,813	13	1			
病院名	平成28年度	平成29年度	平成30年度		平成30年度	目標差																																																
	実績	実績	目標	実績	前年度差																																																	
急性期C	20,010	20,493	22,905	22,175	△ 730	1,682																																																
はびきのC	9,183	9,862	10,390	10,071	△ 319	209																																																
精神C	890	955	970	1,111	141	156																																																
国際がんC（人間ドック除く）	11,711	13,226	14,994	13,925	△ 1,069	699																																																
母子C	10,124	10,812	10,800	10,813	13	1																																																
		平均在院日数（参考） <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>病院名</th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> <th>平成30年度</th> <th>前年度差</th> </tr> <tr> <td></td> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>実績</th> <td></td> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>急性期C</td> <td>11.6</td> <td>11.2</td> <td>10.7</td> <td>△ 0.5</td> </tr> <tr> <td>はびきのC（一般病床のみ）</td> <td>12.2</td> <td>11.3</td> <td>10.9</td> <td>△ 0.4</td> </tr> <tr> <td>精神C</td> <td>163.1</td> <td>150.9</td> <td>133.7</td> <td>△ 17.2</td> </tr> <tr> <td>国際がんC（人間ドック除く）</td> <td>12.4</td> <td>11.0</td> <td>10.5</td> <td>△ 0.5</td> </tr> <tr> <td>母子C</td> <td>10.1</td> <td>9.5</td> <td>9.4</td> <td>△ 0.1</td> </tr> </tbody> </table>		病院名	平成28年度	平成29年度	平成30年度	前年度差		実績	実績	実績		急性期C	11.6	11.2	10.7	△ 0.5	はびきのC（一般病床のみ）	12.2	11.3	10.9	△ 0.4	精神C	163.1	150.9	133.7	△ 17.2	国際がんC（人間ドック除く）	12.4	11.0	10.5	△ 0.5	母子C	10.1	9.5	9.4	△ 0.1																
病院名	平成28年度	平成29年度	平成30年度	前年度差																																																		
	実績	実績	実績																																																			
急性期C	11.6	11.2	10.7	△ 0.5																																																		
はびきのC（一般病床のみ）	12.2	11.3	10.9	△ 0.4																																																		
精神C	163.1	150.9	133.7	△ 17.2																																																		
国際がんC（人間ドック除く）	12.4	11.0	10.5	△ 0.5																																																		
母子C	10.1	9.5	9.4	△ 0.1																																																		

中期計画	年度計画	法人の自己評価		知事の評価	
		評価の判断理由（実施状況等）	評価	評価	評価の判断理由・評価のコメントなど
② 診療単価の向上					
<p>診療報酬制度の改定や医療関連法制の改正等、医療を取り巻く環境の変化に迅速に対応して適切な施設基準の取得を行うなど診療報酬の確保に努める。</p> <p>診療報酬請求の精度向上の取組と診療報酬に関する研修の実施等により、請求漏れや査定減の防止に努め、診療行為の確実な収益化を図る。</p>	<p>各病院においては、経営効率性の高い検査や処置等の件数拡大に努めるとともに、患者の療養環境の向上等のため新たな施設基準の取得などに取り組む。</p> <p>診療報酬事務等の専門研修の開催や参加を通じて職員の能力の向上・専門化を図る。</p> <p>各病院において、診療報酬請求に係る精度調査を10月までに実施し、その結果に基づいた報告会を開催する。</p>	<p>○ 新たな施設基準の届け出 各病院においては、平成30年度診療報酬改定に伴い、医療安全対策地域連携加算1や抗菌薬適正使用支援加算など、積極的に新たな施設基準を取得した。</p> <p>○ 患者一人当たり平均入院診療単価（資金収支ベース） 【急性期C】 78,986円（前年度 77,722円） 【はびきのC】 48,661円（前年度 46,354円） 【精神 C】 22,354円（前年度 22,037円） 【国際がんC】 80,470円（前年度 75,480円） 【母子 C】 91,140円（前年度 92,071円）</p> <p>○ 診療報酬事務等の専門研修の開催 機構主催の医療事務研修や各病院で診療報酬研修会等の専門研修を開催し、職員の能力の向上に努めた。</p> <p>○ 診療報酬請求の精度向上の取組 各病院において、診療報酬請求に係る精度調査を実施し、その結果を職員に向けてフィードバックをすることで、診療請求漏れに対する防止等を図った。</p>			
<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p><評価の理由> 病床利用率及び新入院患者数は目標を下回った病院が多かったが、各病院で病床利用率の向上及び患者の受入れに取り組んだ。 また、診療単価の向上のため、施設基準の積極的な届出、診療報酬の研修を実施した結果、診療単価が前年度を上回った病院が多かったことから、Ⅲ評価とした。</p> </div>					

中期計画	年度計画	法人の自己評価		知事の評価											
		評価の判断理由（実施状況等）	評価	評価	評価の判断理由・評価のコメントなど										
<p>③ 未収金対策、資産の活用</p> <p>評価番号【26】</p> <p>患者負担に係る未収金の滞納発生の未然防止に努めるとともに、発生した未収金については、早期回収に取り組む。</p> <p>土地及び建物の積極的な活用を図るとともに、低未利用となっている資産については、遊休化を回避するため有効な活用策を検討する。</p>	<p>未収金の発生を未然に防止するため、患者のニーズに合った決済の多様化を検討する。また、未収金が発生した患者に対しては個別対応や相談等を行うとともに、弁護士法人と連携し早期回収に努める。</p> <p>法人の資産の中で、稼働休止等となった資産については、遊休化を回避するため府と協議しながら処分を検討するとともに、すでに処分方法が決定されている資産については、速やかに手続きを行う。</p> <p>固定資産の適正な管理を行うため、定期的に現物と台帳の照合を行い、不要資産については、適切に処分を進めていく。</p> <p>各病院における土地、建物等の貸付については、原則公募により行うなど、財産を効率的、効果的に活用する。</p>	<p>○ 未収金発生の未然防止と回収 未収金の発生を未然に防止するため、各病院においては、入院時の概算費用の提示や高額療養費制度の説明等の取組を行った。また、未収金が発生した患者に対しては個別対応や相談等により早期回収に努めた。 滞納となっている未収金については、請求書の再発送や電話による督促を行うとともに、個々の状況を踏まえ、法的手段の行使も視野に入れながら、弁護士法人への債権回収委託を行い、収入の確保に努めた。 なお、民法改正への対応や弁護士法人による訪問回収について、委託先の弁護士法人の協力を得て進めた。</p> <p>患者請求額全体に対する回収率（単位：％）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>病院名</th> <th>平成28年度実績</th> <th>平成29年度実績</th> <th>平成30年度実績</th> <th>前年度差</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>法人全体</td> <td>98.4</td> <td>98.6</td> <td>98.5</td> <td>△ 0.1</td> </tr> </tbody> </table> <p>備考 当該年度の患者に対する請求額のうち、年度内に回収ができた割合を示す。</p> <p>○ 資産の効果的な運用 大阪はびきの医療センターの建替え整備計画の中で、医師公舎及び局長公舎の土地売却の入札を図ったが、応札がなかったため、引続き売却処分を実施していく。</p> <p>○ 固定資産の適正な管理 固定資産の管理を適正に行うため、各病院において現物と台帳の照合を行うための実査および本部によるモニタリングを実施した。</p> <p>各病院の土地、建物等を有効活用するため、公募により決定した事業者に引き続き貸付を行った。また貸付にあたっては、固定資産貸付規程等に基づき、適正管理に務めた。</p>	病院名	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度実績	前年度差	法人全体	98.4	98.6	98.5	△ 0.1	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ評価とする法人の自己評価は妥当であると判断した。
病院名	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度実績	前年度差											
法人全体	98.4	98.6	98.5	△ 0.1											
<p>④ 医療資源の活用等</p> <p>病院を取り巻く厳しい経営環境の中で、各病院の持つ医療情報やノウハウ、人材等を活用した新たな収入源の確保に取り組むとともに、研究活動における外部資金の獲得、自由診療単価の適宜見直し、更にはベンチマークや先進事例の研究等を通じて、積極的な収入確保に取り組む。</p>	<p>各病院の持つ医療情報等を活用した新たな収入の確保の検討に取り組むとともに、研究活動における外部資金の獲得、自由診療単価の適宜見直し等を積極的に実施する。</p>	<p>平成31年1月に、大阪母子医療センターで開発した「SEC法」を用いたケトン食のレシピ集を出版した。また、職員ポータルサイトに外部研究費等の公募情報を掲載することで、研究活動における外部資金の獲得を促進するとともに、先進医療の申請や自由診療単価の見直しを実施するなど、収入確保に積極的に取り組んだ。</p> <p><評価の理由> 未収金防止のための取組や、各病院において固定資産の管理状況の実査を行うなど、資産の適正かつ効率的な活用に計画どおり取り組んだため、Ⅲ評価とした。</p>													

中期計画	年度計画	法人の自己評価		知事の評価																																																																						
		評価の判断理由（実施状況等）	評価	評価	評価の判断理由・評価のコメントなど																																																																					
<p>第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>2 経営基盤の安定化</p> <p>(3) 費用の抑制</p>																																																																										
中期目標	<ul style="list-style-type: none"> ・費用対効果の検証に基づき、給与水準や職員配置の適正化等により、人件費の適正化に努めること。 ・給与費比率、材料費比率等の指標の活用や、収入見込みの精査及び業務の効率化等を通じて、費用の適正化に努めること。 ・また、材料費の抑制や国の方針を踏まえた医療費適正化等の観点から、後発医薬品の利用促進に努めること。 																																																																									
<p>① 給与費の適正化</p> <p>評価番号【27】</p>																																																																										
<p>患者ニーズや診療報酬改定の状況、更には診療体制充実に伴う費用対効果等を踏まえ、職員配置の増減を柔軟に行うとともに、職種による需給関係や給与費比率を勘案しながら、給与の適正化に努める。</p> <p>給与費比率に係る目標 (単位：%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成32年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>急性期C</td> <td>46.9</td> </tr> <tr> <td>はびきのC</td> <td>59.6</td> </tr> <tr> <td>精神C</td> <td>93.0</td> </tr> <tr> <td>国際がんC</td> <td>46.2</td> </tr> <tr> <td>母子C</td> <td>58.2</td> </tr> <tr> <td>機構全体</td> <td>53.1</td> </tr> </tbody> </table> <p>(備考) 給与費比率＝給与費÷医業収益×100 (機構全体においては、給与費に本部給与費を含む。)</p>		平成32年度	急性期C	46.9	はびきのC	59.6	精神C	93.0	国際がんC	46.2	母子C	58.2	機構全体	53.1	<p>患者ニーズや診療報酬改定の状況、さらには診療体制充実に伴う費用対効果等を踏まえ、職員配置の増減を柔軟に行うとともに、職種による需給関係や給与費比率を勘案しながら、給与の適正化に努める。</p>	<p>○ 給与費の適正化</p> <p>診療体制及び業務処理体制の充実を図るため、その費用対効果等を踏まえながら、職員配置を行った。</p> <p>医業収益が前年度比6.4%増収となるなか、給与費比率は1.1ポイント低減することができた。(損益ベース)</p> <p>給与費比率(単位：%) ※損益ベース</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">病院名</th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> <th>平成30年度</th> <th>平成30年度</th> <th colspan="2">目標差</th> </tr> <tr> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>目標</th> <th>実績</th> <th>前年度差</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>急性期C</td> <td>46.2</td> <td>48.1</td> <td>46.8</td> <td>47.2</td> <td>0.4</td> <td>△ 0.9</td> </tr> <tr> <td>はびきのC</td> <td>61.4</td> <td>61.0</td> <td>59.6</td> <td>58.0</td> <td>1.6</td> <td>△ 3.0</td> </tr> <tr> <td>精神C</td> <td>94.9</td> <td>96.3</td> <td>93.5</td> <td>91.7</td> <td>1.8</td> <td>△ 4.6</td> </tr> <tr> <td>国際がんC</td> <td>43.7</td> <td>40.3</td> <td>41.1</td> <td>38.3</td> <td>2.8</td> <td>△ 2.0</td> </tr> <tr> <td>母子C</td> <td>55.4</td> <td>55.8</td> <td>56.8</td> <td>58.9</td> <td>2.1</td> <td>3.1</td> </tr> <tr> <td>法人全体</td> <td>52.2</td> <td>51.6</td> <td>51.4</td> <td>50.5</td> <td>0.9</td> <td>△ 1.1</td> </tr> </tbody> </table> <p>※給与費比率(%)＝給与費÷医業収益×100</p> <p><評価の理由> 費用対効果を踏まえた職員配置に取り組むなど、給与費の適正化に努め、法人全体で給与費比率が低減したことから、Ⅲ評価とした。</p>	病院名	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成30年度	目標差		実績	実績	目標	実績	前年度差		急性期C	46.2	48.1	46.8	47.2	0.4	△ 0.9	はびきのC	61.4	61.0	59.6	58.0	1.6	△ 3.0	精神C	94.9	96.3	93.5	91.7	1.8	△ 4.6	国際がんC	43.7	40.3	41.1	38.3	2.8	△ 2.0	母子C	55.4	55.8	56.8	58.9	2.1	3.1	法人全体	52.2	51.6	51.4	50.5	0.9	△ 1.1	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ評価とする法人の自己評価は妥当であると判断した。
	平成32年度																																																																									
急性期C	46.9																																																																									
はびきのC	59.6																																																																									
精神C	93.0																																																																									
国際がんC	46.2																																																																									
母子C	58.2																																																																									
機構全体	53.1																																																																									
病院名	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成30年度	目標差																																																																					
	実績	実績	目標	実績	前年度差																																																																					
急性期C	46.2	48.1	46.8	47.2	0.4	△ 0.9																																																																				
はびきのC	61.4	61.0	59.6	58.0	1.6	△ 3.0																																																																				
精神C	94.9	96.3	93.5	91.7	1.8	△ 4.6																																																																				
国際がんC	43.7	40.3	41.1	38.3	2.8	△ 2.0																																																																				
母子C	55.4	55.8	56.8	58.9	2.1	3.1																																																																				
法人全体	52.2	51.6	51.4	50.5	0.9	△ 1.1																																																																				

中期計画	年度計画	法人の自己評価		知事の評価																																																																																																																						
		評価の判断理由（実施状況等）	評価	評価	評価の判断理由・評価のコメントなど																																																																																																																					
<p>② 材料費の縮減</p> <p>評価番号【28】</p> <p>材料費の抑制を図るため、SPD（Supply Processing and Distribution）の効果的な活用や同種同効品への集約化を図る。また、国の方針や他病院の動向等を踏まえつつ、後発医薬品の使用促進に取り組む。</p> <p>材料費比率に係る目標 （単位：％）</p> <table border="1"> <tr> <td></td> <td>平成32年度</td> </tr> <tr> <td>急性期C</td> <td>30.4</td> </tr> <tr> <td>はびきのC</td> <td>20.7</td> </tr> <tr> <td>精神C</td> <td>6.7</td> </tr> <tr> <td>国際がんC</td> <td>32.2</td> </tr> <tr> <td>母子C</td> <td>22.3</td> </tr> <tr> <td>機構全体</td> <td>27.1</td> </tr> </table> <p>（備考）材料費比率＝材料費÷ 医薬収益×100</p>		平成32年度	急性期C	30.4	はびきのC	20.7	精神C	6.7	国際がんC	32.2	母子C	22.3	機構全体	27.1	<p>医薬品、検査試薬、診療材料等の一括調達と適正な在庫管理を目的とするSPD業務について、材料費削減目標の達成状況及び業務履行状況について検証するとともに診療材料における同種同効品の集約化の拡大を進めるなど、引き続き効率的かつ効果的な運用を行い、更なる材料費の縮減に努める。</p> <p>後発医薬品については、各病院において国の方針や他病院の動向をふまえた採用目標を立て、後発医薬品の他病院での使用状況や副作用情報について、SPD事業者等から定期的に情報提供を受けるなどして、採用の促進に努め、医薬品購入経費の節減を図る。</p>	<p>○ 材料費縮減の取組</p> <p>SPDによる価格交渉の結果、医薬品、検査試薬、診療材料の購入額は、前年度単価で購入した場合と比較して、5病院全体で約1,356百万円削減した。その結果、5病院全体の薬価差益率15.1％（前年度：21.3％）、償還差益率12.0％（前年度：12.3％）を確保した。</p> <p>診療材料の削減に関しては、効果的な切替を行うことで、5病院全体で年間約21百万円の材料費の削減効果があった。</p> <p>材料費比率（単位：％） ※損益ベース</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">病院名</th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> <th>平成30年度</th> <th>平成30年度</th> <th colspan="2">目標差</th> </tr> <tr> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>目標</th> <th>実績</th> <th colspan="2">前年度差</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>急性期C</td> <td>31.5</td> <td>32.0</td> <td>30.8</td> <td>32.0</td> <td>1.2</td> <td>0.0</td> </tr> <tr> <td>はびきのC</td> <td>23.2</td> <td>23.0</td> <td>22.5</td> <td>23.9</td> <td>1.4</td> <td>0.9</td> </tr> <tr> <td>精神C</td> <td>6.5</td> <td>6.7</td> <td>6.9</td> <td>6.6</td> <td>△ 0.3</td> <td>△ 0.1</td> </tr> <tr> <td>国際がんC</td> <td>39.1</td> <td>37.5</td> <td>36.0</td> <td>39.4</td> <td>3.4</td> <td>1.9</td> </tr> <tr> <td>母子C</td> <td>24.3</td> <td>23.8</td> <td>22.7</td> <td>24.4</td> <td>1.7</td> <td>0.6</td> </tr> <tr> <td>法人全体</td> <td>29.9</td> <td>29.8</td> <td>28.6</td> <td>30.7</td> <td>2.1</td> <td>0.9</td> </tr> </tbody> </table> <p>※材料費比率（％）＝材料費÷医薬収益×100</p> <p>○ 後発医薬品の採用促進</p> <p>後発医薬品の採用促進に取り組むとともに、その取組状況について薬局長会議の場で情報交換するなど、法人全体で課題等の情報の共有化を図った。</p> <p>先発医薬品と後発医薬品との比較資料（購入価、値引率、他病院での導入状況、適用範囲等）などの情報についてSPD事業者から提供を受けるなど、本部主導で採用促進のための情報収集に努めた。</p> <p>後発医薬品の採用率については、5病院で目標を上回った。</p> <p>後発医薬品採用率（単位：％）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">病院名</th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> <th>平成30年度</th> <th>平成30年度</th> <th colspan="2">目標差</th> </tr> <tr> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>目標</th> <th>実績</th> <th colspan="2">前年度差</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>急性期C</td> <td>76.1</td> <td>81.1</td> <td>81.0</td> <td>85.9</td> <td>4.9</td> <td>4.8</td> </tr> <tr> <td>はびきのC</td> <td>70.1</td> <td>77.9</td> <td>81.0</td> <td>84.9</td> <td>3.9</td> <td>7.0</td> </tr> <tr> <td>精神C</td> <td>67.9</td> <td>67.5</td> <td>72.0</td> <td>73.8</td> <td>1.8</td> <td>6.3</td> </tr> <tr> <td>国際がんC</td> <td>77.3</td> <td>81.0</td> <td>82.5</td> <td>88.0</td> <td>5.5</td> <td>7.0</td> </tr> <tr> <td>母子C</td> <td>86.5</td> <td>89.3</td> <td>85.0</td> <td>88.9</td> <td>3.9</td> <td>△ 0.4</td> </tr> </tbody> </table> <p>※後発医薬品採用率は、数量ベース（厚生労働省定義）で算出</p>	病院名	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成30年度	目標差		実績	実績	目標	実績	前年度差		急性期C	31.5	32.0	30.8	32.0	1.2	0.0	はびきのC	23.2	23.0	22.5	23.9	1.4	0.9	精神C	6.5	6.7	6.9	6.6	△ 0.3	△ 0.1	国際がんC	39.1	37.5	36.0	39.4	3.4	1.9	母子C	24.3	23.8	22.7	24.4	1.7	0.6	法人全体	29.9	29.8	28.6	30.7	2.1	0.9	病院名	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成30年度	目標差		実績	実績	目標	実績	前年度差		急性期C	76.1	81.1	81.0	85.9	4.9	4.8	はびきのC	70.1	77.9	81.0	84.9	3.9	7.0	精神C	67.9	67.5	72.0	73.8	1.8	6.3	国際がんC	77.3	81.0	82.5	88.0	5.5	7.0	母子C	86.5	89.3	85.0	88.9	3.9	△ 0.4	<p>Ⅲ</p>	<p>Ⅲ</p>	<p>Ⅲ評価とする法人の自己評価は妥当であると判断した。</p>
	平成32年度																																																																																																																									
急性期C	30.4																																																																																																																									
はびきのC	20.7																																																																																																																									
精神C	6.7																																																																																																																									
国際がんC	32.2																																																																																																																									
母子C	22.3																																																																																																																									
機構全体	27.1																																																																																																																									
病院名	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成30年度	目標差																																																																																																																					
	実績	実績	目標	実績	前年度差																																																																																																																					
急性期C	31.5	32.0	30.8	32.0	1.2	0.0																																																																																																																				
はびきのC	23.2	23.0	22.5	23.9	1.4	0.9																																																																																																																				
精神C	6.5	6.7	6.9	6.6	△ 0.3	△ 0.1																																																																																																																				
国際がんC	39.1	37.5	36.0	39.4	3.4	1.9																																																																																																																				
母子C	24.3	23.8	22.7	24.4	1.7	0.6																																																																																																																				
法人全体	29.9	29.8	28.6	30.7	2.1	0.9																																																																																																																				
病院名	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成30年度	目標差																																																																																																																					
	実績	実績	目標	実績	前年度差																																																																																																																					
急性期C	76.1	81.1	81.0	85.9	4.9	4.8																																																																																																																				
はびきのC	70.1	77.9	81.0	84.9	3.9	7.0																																																																																																																				
精神C	67.9	67.5	72.0	73.8	1.8	6.3																																																																																																																				
国際がんC	77.3	81.0	82.5	88.0	5.5	7.0																																																																																																																				
母子C	86.5	89.3	85.0	88.9	3.9	△ 0.4																																																																																																																				
		<p><評価の理由> 後発医薬品の採用促進等、材料費の縮減のための取組について、年度計画の項目を着実に実施したことから、Ⅲ評価とした。</p>																																																																																																																								

中期計画	年度計画	法人の自己評価		知事の評価	
		評価の判断理由（実施状況等）	評価	評価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
③ 経費の節減 評価番号【29】 売買・請負等の契約において複数年契約・複合契約等の多様な契約手法を活用するなど経費節減の取組を進める。	入札・契約については、透明性・競争性・公平性の確保を図るため、会計規程等に基づき、一般競争入札を原則とし、計画的かつ適正に実施するほか、総合評価方式での入札や、物品購入と業務委託の複合契約など、多様な入札、契約方法の活用を進める。 これまでに策定してきた「総合評価一般競争入札実施基準」及び「随意契約ガイドライン」を遵守し、適正な運用を図る。	○ 契約事務の円滑な実施 契約事務については、一般競争入札を原則として適正に契約相手方を選定し、入札結果の概要は各病院のホームページで公表した。 なお、プロポーザル方式（入札に準じた比較競技）により相手方が予め特定されているもの等については、「随意契約ガイドライン」に沿って適正な運用に努めるとともに、その契約状況の概要について、各病院のホームページで公表した。 多様な入札契約方法として、物品購入と業務委託の複合契約を1件実施した。また、平成31年2月1日から施行となった国際入札（WTO）に対応し、当該入札を2件実施した。	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ評価とする法人の自己評価は妥当であると判断した。
		<評価の理由> 計画どおり、一般競争入札を適正に実施するとともに、多様な入札や契約の活用を進めることによって、経費の節減に取り組んだため、Ⅲ評価とした。			

中期計画	年度計画	法人の自己評価		知事の評価	
		評価の判断理由（実施状況等）	評価	評価	評価の判断理由・評価のコメントなど

第3 予算（人件費の見積りを含む）、収支計画及び資金計画
※財務諸表及び決算報告書を参照

第4 短期借入金の限度額

中期計画	年度計画	実績
1 限度額 10,000百万円 2 想定される短期借入金の発生理由 (1) 運営費負担金の受入れ遅延等による資金不足への対応 (2) 予定外の退職者の発生に伴う退職手当の支給等偶発的な出費への対応	1 限度額 10,000百万円 2 想定される短期借入金の発生理由 (1) 運営費負担金の受入れ遅延等による資金不足への対応 (2) 予定外の退職者の発生に伴う退職手当の支給等偶発的な出費への対応	平成30年度において、短期借入金は発生しなかった。

第5 出資等に係る不要財産又は出資等に係る不要財産となることが見込まれる財産がある場合には、当該財産の処分に関する計画

中期計画	年度計画	実績
大阪国際がんセンター（旧成人病センター）の移転開設に伴って不要財産となることが見込まれる土地・建物について、地方独立行政法人法第42条の2第1項の規定により、平成29年度以降、府に現物納付する。	なし	なし

第6 前記の財産以外の重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画

中期計画	年度計画	実績
なし	なし	<input type="radio"/> 譲渡なし <input type="radio"/> 担保なし

第7 剰余金の使途

中期計画	年度計画	実績
決算において剰余を生じた場合は、病院施設の整備、医療機器の購入等に充てる。	決算において剰余を生じた場合は、病院施設の整備、医療機器の購入等に充てる。	剰余金については、前期損失に充当した。

中期計画	年度計画	法人の自己評価		知事の評価	
		評価の判断理由（実施状況等）	評価	評価	評価の判断理由・評価のコメントなど

第8 その他業務運営に関する重要事項

中期計画	年度計画	実績
<p>府、大阪市及び地方独立行政法人大阪市民病院機構と緊密に連携を図りながら、府の行財政改革推進プラン（案）を踏まえた検討を進めるとともに、以下の取組を実施する。</p> <p>ア 大阪急性期・総合医療センター</p> <ul style="list-style-type: none"> 敷地内における大阪府市共同住吉母子医療センター（仮称）の早期整備を推進する。 万代e-ネット（診療情報地域連携システム）等ICT（情報通信技術をいう。）を活用した地域医療連携を推進する。 <p>イ 大阪はびきの医療センター 医療センター</p> <ul style="list-style-type: none"> 現地建替え整備に向けた取組を進める。 <p>ウ 大阪精神医療センター</p> <ul style="list-style-type: none"> 担当医制と地域医療連携室（仮称）の設置により、地域連携を強化し、新規入院患者の受入れ拡大を図る。 認知症対策を推進するため、関係機関と連携した認知症枚方モデル（予防プログラム、身体合併症対応モデル事業、ユマニチュードケア（知覚、感情及び言語による包括的なコミュニケーションに基づいたケア技法をいう。）等）を実施する。 <p>エ 大阪国際がんセンター</p> <ul style="list-style-type: none"> 国指定・府指定のがん診療拠点病院をはじめとする地域医療機関等との診療データの相互活用等戦略的な連携を検討する。 移転開設に当たっては、医療における国際貢献の取組を進めるとともに、更に高度なレベルの医療水準を目指す。 <p>オ 大阪母子医療センター</p> <ul style="list-style-type: none"> 総合病院との強力な連携を見据えた今後の在り方を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> 府、大阪市及び大阪市民病院機構と緊密に連携を図りながら、「平成30年度 大阪府行政経営の取組み（案）」を踏まえた検討を進める。 大阪急性期・総合医療センターにおいては、「万代e-ネット」の参加医療機関を拡大するとともに、地域チーム医療の推進を図る。 大阪はびきの医療センターにおいては、平成29年度に策定した基本計画に沿って、現地建替え整備に向けた基本設計等を行う。 大阪精神医療センターにおいては、認知症予防枚方モデルについて、現在のプログラムに新たな運動や笑いの要素を取り入れるなど改良を進め、予防効果の向上と参加者の拡大に努める。 大阪国際がんセンターにおいては、大手前病院及び大阪重粒子線センターとの間における地域医療連携システム「おおてまえネット」の構築を図る。また、患者の利便性を向上するため、医療情報共有プラットフォームの構築を図る。 大阪母子医療センターにおいては、建替えを含めた施設整備の必要性の検討にあたり、医療需要予測調査を実施するとともに、成人病院との連携も検討しながら、大阪府等の関係機関との協議を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 府市両議会の動向にも注視しつつ、府市両機構の財務・給与等に関する検討を行った。 大阪急性期・総合医療センターにおいては、「万代e-ネット」など、ICTを活用した地域連携を推進し、「万代e-ネット」に参加する登録医は62件まで増加した。（前年度：57件） 大阪はびきの医療センターにおいては、現地建替え整備に向けて、地上6階建て（地下なし）、鉄骨造、免震構造の新病院建設基本設計を策定した。 大阪精神医療センターにおける認知症予防プログラムについては、枚方市民の60歳以上を対象として、「こころとからだ生き生き教室」（全14回）を開催した。また、特別プログラムとして、吉本新喜劇に認知症予防の要素を取り入れた「笑って認知症予防脳に効く吉本新喜劇」講演を実施した。 大阪国際がんセンターにおいては、大阪重粒子線センターとの間における地域医療連携システム「おおてまえネット」の構築については、連絡会議を実施するとともに、連携が円滑に進むよう全職員を対象に説明会を実施した。また、医療情報共有プラットフォームの構築を図る一環として、「治療費後払いシステム」を来年度より稼働するための仕組みを構築した。 大阪母子医療センターにおいては、平成31年3月28日に大阪府・本部事務局・大阪母子医療センター三者での整備構想検討委員会を開催し、平成30年度の検討の進捗を報告した。今後も引き続き成人病院との連携のあり方や現地建替えの検証を進めるとともに、収支等の精査を行う。

中期計画	年度計画	法人の自己評価		知事の評価	
		評価の判断理由（実施状況等）	評価	評価	評価の判断理由・評価のコメントなど

第9 大阪府地方独立行政法人法施行細則（平成17年大阪府規則第30号）第4条で定める事項
1 施設及び設備に関する計画

中期計画			年度計画			実績		
施設及び設備の内容	予定額	財源	施設及び設備の内容	予定額 (百万円)	財源	施設及び設備の内容	決定額 (百万円)	財源
病院施設、医療機器等整備	総額 11,250百万円	大阪府長期借入金等	医療機器、病院施設等整備	2,250	大阪府長期借入金等	医療機器、病院施設等整備	2,250	大阪府長期借入金等
大阪府市共同住吉母子医療センター（仮称）整備	総額 3,937百万円		大阪急性期・総合医療センター 受変電設備更新工事（第2期） 大阪母子医療センター 排水改修工事（第2期）			大阪急性期・総合医療センター 受変電設備更新工事（第2期） 大阪母子医療センター 排水改修工事（第2期、第3期）		
大阪国際がんセンター整備	総額 28,208百万円							

○ 計画の実施状況等

- 大阪急性期・総合医療センターの受変電設備更新工事をはじめ、年度計画に掲げた施設・設備の整備については、計画的に実施した。

2 人事に関する計画

中期計画	年度計画	実績
<p>良質な医療サービスを継続的に提供するため、専門知識等を有する優れた職員を確保し、医療需要の質の変化や患者動向等に迅速に対応できるよう効果的な人員配置に努める。 （期初における常勤職員見込数） 3,790人</p>	<ul style="list-style-type: none"> 組織力を強化するため、各部門職員の必要数を精査し、個々の職員が持つ職務遂行能力や適性を反映した人事配置とする。 事務職員が個人の特性に応じたキャリアアップが可能な人事制度を確立し、事務部門の組織力のさらなる強化を図る。 事務職について、人事ヒアリングやキャリアシートの提出及びチャレンジコースの運用により、本人の能力・適性ととも職員本人の将来志向や意欲を把握し、異動・昇任に活用する。 昇任基準（昇任までの必要在級年数）に基づき、意欲や能力のある職員を計画的に登用する。 職員の能力・適性・意欲に応じた人材育成を行うとともに、人材の流動化を促進し、職員の幅広い能力や視野の育成を図る。 職員の勤務意欲等の一層の向上を図るため、法人の人事評価制度を適正に運用する。また、法人の経営状況等を考慮しつつ、前年度の人事評価の結果を昇給や勤勉手当などに反映させる。 短時間常勤職員制度の利用促進等を通じ、ライフスタイルやライフステージに応じた働き方の実現に努める。 良質な医療サービスを継続的に提供するため、専門知識等を有する優れた職員を確保し、医療需要の質の変化や患者動向等に迅速に対応できるよう効果的な人員配置に努める。 （年度当初における常勤職員見込数） 4,150人 	<ul style="list-style-type: none"> 良質な医療サービスを継続的に提供するため、医療需要の質の変化や患者動向等に迅速に対応できるよう、必要性に応じて職員の定数を増員あるいは減員するとともに、各職員の職務遂行能力等を反映した人事異動を実施するなど、効果的な人員配置に努めた。 個々の職員の意欲や特性を重視し、チャレンジコース（リーダー又はサブリーダーのポストへの登用について、機構内部から希望者を公募する制度）を実施して、組織力の強化を図った。 人事ヒアリングの実施によって、職員本人の能力・適性等を把握し、異動・昇任に活用した。 昇任基準（昇任までの必要在級年数）に基づき、計画的な幹部登用に向け、昇任を実施した。 職員の能力等の向上に有効な研修の検討及び実施とともに、異動ルール（職階ごとに標準在籍期間を設定）に基づき、人材の流動化を促進した。 病院実態に対応できるような必要な改善を行いながら、法人の人事評価制度を適正に運用した。また、平成29年度の人事評価結果を、プロパー職員の昇給や勤勉手当に反映させた。 育児のための短時間勤務制度を運用するなど、女性医療スタッフのライフスタイルやライフステージに応じた働き方を支援した。（短時間勤務制度取得者：平成30年度 医師 9名、看護師 71名、前年度 医師 8名、看護師 55名）また、より働きやすい環境を整備するため、育児短時間の取得勤務形態の追加及び休日の代休指定単位の変更を行った（施行は平成31年4月1日）。さらに、職員採用募集ホームページ等により、子育て中の医師の方へ向けた支援制度等について、引き続き情報提供を行った。 （平成30年度当初における常勤職員数） 4,161人